# 蹴　球

## 第二號

August——1935

東京商科大學蹴球部誌

★ ★ ★

憧れの緑の芝生、
若人は大膽に力強く歩みを進める
來秋ぞ、身命賭して
若き希望を肥やすのだ

【輝　美】

二部優勝の喜び抱き合ひて蹴球部の立教大学

後藤(後)二階堂(前)二兄の記念撮影

## ◆對日大戰の一場面◆

危機將に去らんとすと

すとんせ蹴頭てけ受藤後しトスイフーパーキ

右より後藤一人おていー人おていー二階堂

島田●木鈴

## 躍進の第一歩四部優勝

枝淺●瀬長●藤後●田西●堂階二●野神●田森りよ右列前

掛大●井荒●井村●木鈴●島田●見重●田角●瀬荒●田林りよ右列後

對法政戰前半のーシーン〔於神宮〕

〔10番を壓へるは枝村•蹴らんとするは角田〕

**ふ味をび喜の勝全に生芝の宮神**

田森•井村•木鈴•島田•堂階二•島水りょ右列前

見重•田淺•田森•田角•掛大•井荒•枝淺•村枝•藤後•野神りょ右列後

## ◇祝勝會の盛況◇

上　二階堂兄

前列右より岩崎・西小・村枝・田角・二階堂(弟)・村井・藤後・浅田・林田

中列右より島城・田西・田豊・橋高・藤後(博)・村川・本松・島田・井荒・掛大・重見

後列右より野神・水島・菅瀬・山米・長谷川・田勝・尾池・枝浅・田森・熊澤

## ⊠況盛の會勝祝⊠

兄堂階二　上

田林・田淺・木鈴・藤後・井村（弟）堂階二・田角・村枝・西小・嶋岩り ま右列前
見重・掛大・井荒・本松・島田・村川（博）藤後・橋高・田豊・田西・島城り ま右列中
深熊・田森・枝淺・尾池・田勝・川谷長・山米・瀧藤・島水・野神り ま右列後

# 目次

【蹴球第二號】


扉 …… 輝光
巻頭言 …… 田島生
部長として …… 佐藤弘（一）
正しき向上へ …… 本三 神野光司（三）
新しく社會に出てて …… 二階堂謹司（六）
先輩よりの書翰集 八篇 …… （九）
追想感想集
思ふまゝに（三篇） …… 本三 水島茂（一五）
春のシーズンを顧みて …… 本二 淺枝彦太郎（二二）
今昔 …… 本二 荒井文雄（二三）
希望 …… 本二 角田昇（二七）
我蹴球部生活回顧録 …… 本一 村井恒典（二七）
所感 …… 豫三 小西正夫（三三）
蹴球をする …… 豫三 岩崎寛貞（三三）
「苦しむ」スポーツ …… 豫三 後藤虎雄（三五）
一年半を經て感じたこと …… 豫二 二階堂晴三（三六）
合宿の思出
苦の日記 …… 豫二 枝村藤三郎（三八）

春の合宿……本一　鈴木　彰（四）
練習と風呂……豫二　池尾隆二（四六）
伯母より……豫三　熊澤博文（四八）
送別文集
送別の辭……水島　茂（五四）
二兄を讃ふ……荒井文雄（五六）
二階堂後藤両兄を送る……豫三　小西正夫（五七）
送る辭……豫三　熊澤博文（五七）
追悼文
渡邊氏を偲ぶ……安野元章（六一）
渡邊弘兄を悼む……本二　田島輝重（六二）
蹴球部回顧錄（渡邊弘氏日記拔萃書）
今は亡き執筆者に代りて……編輯員　田島輝重（六六）
第一回蹴球技術指導講習會參加報告記……田島輝重（九一）
蹴球技術論……（一一一）
戰術論……（一一六）
ゴールキーパー論……（一二五）
昭和九年度蹴球部記錄……編輯部（一三一）
一橋蹴球部々員名簿錄……編輯部（一三一）
昭和九年度決算報告書……（一三九）
編輯後記……神野光司（一四〇）

## 卷頭言

荊茨の道を血汗にまみれつ
沈默の行軍はつゞく
今一歩だ　今一息だ
王座ゆるがす新鋭の登場だ
制覇の聖戰まさに數旬の後
雄圖を祕して音無しの躍進だ
風聲騷然として敵營は暗に包まる
安んぜよ　腰間の秋水は
斷の一字に　鞘走るのだ

【田島生】

部長の辭

# 部長として

部長　佐藤　弘

各種運動の盛な今日、何が最も好きスポーツなりや、の問に對して、蹴球こそ眞のスポーツなりと答へる人は氣品ある眞のスポーツマンなりと言つても過言ではない。

わけても商大蹴球部の波瀾萬疊の歴史を顧るに、學生スポーツの眞髓を把握した幾多先人の築きし傳統は絶えず今や運動精神把握の意氣に燃える若き選手の熱汗を注いでの精進の賜を見る。卽ち四部、三部を無停車で昨秋は二部に優勝し、憧れの一部に昇つた我が商大蹴球部連年の活躍こそは、不振と悲運に存在も忘れられ勝ちの一橋運動部への好刺戟であつた。

二部より三部、四部への轉落も、今は嘘の樣な昔話となつてしまつた。

私はかゝる逆境時代に部長として、際會して居る。所謂石神井時代には、全部員僅かに拾二三名、然も豫科一二年が大半を占め、本科生などは殆んど居なかつた樣に記憶してゐる。

今年は新入部員丈でも拾二名の多數に登り、全部員參拾餘名と聞いては、今昔の感餘りに大なのに一驚する。

逆境時代の部程みじめなものはなかつた。優秀な選手も一人去り、二人去り、しひたげられたどん底生活の苦しみに耐へた人々こそ、部更生の原動力となつたのである。

さあ之から出直しだといふ新しい心と希望を抱いて、強い決心の下にスタートした小さな石神井のグループ。その美事な團結は今や、國立小平に渡る大きな組織を立派に統制し、日本の商大チームに迄進展しつゝある。

代々の統卒者の苦心と熱意、部員の献身的な協力は遂に立派に花咲く春を迎へたのだ。

部長たる私の喜びは全く言ひ知れぬものがある。

かくも統制され、しかも美しい情愫に滿ちた部生活は他に之を見る事を得ない。

是迄に導いた先輩の努力には唯感謝の外はない。

願はくは、小成に安んずる事なく、來らん秋にこそ、一部のダークホース、商大の眞價を示して制覇を遂げて頂きたい。遠くベルリンを望む意氣を持つて日本の蹴球界をリードして頂きたい。

過去四年間、高商蹴球大會も順調に發達して昨冬の關西遠征、三商大戰と共に、斯界に一分野を築き技術の向上と相俟つて、日本蹴球界に呼號する時の到るも遠くはないであらう。

最後に新入部員諸君、君等は緣あつてか、部興隆時代に際會した幸運兒である。

蹴球部過去の歴史に先人の苦闘を想ひ、燃え上る血と熱を愛する蹴球部躍進の大業に注ぎ、青春の涙と喜びを味覺し園体生活の妙諦を悟り、理想の實現を誓つて頂きたい。



# 正しき向上へ

本三　神野光司

四部の優勝に初めて勝つことを知つた當時の若き吾等豫科同人も、今春からは愈々全部本科生として名實共に部の中堅として活躍することになつたのは部の爲商大の爲、更に我國蹴球界の爲この上も無い喜びである。同時に多數の弟を持つた吾々の責任は誠に大きく、それだけ日常生活は一日〳〵が意義あり活氣あるものになつて來る。

連年連勝敗るゝことを知らぬかの如く、毎年相手を變へて今日に到つた目覺しい進歩につれて、部員各自の心身共に伸びた進歩向上變化も亦見逃すことが出來ない。

高く伸びゆく樹木にあたる風は益々強く、それだけ樹木の根も張つてゆかねばならぬ如く、一部の選手として各強敵を相手にする今シーズンは、その氣力に於てプレイへの精進に於て、そして蹴球部精神の發揚に於て容易ならざる努力を要するであらう。

蹴球部を強くせんが爲に、リーグに優勝せんが爲に心血を注がれた先輩の足跡は事新しくこゝに述べるまでもないが今その歩まれた道を顧るに、先づ最初は如何なることが急務であつたか、その第一目的が達せられた時に次に爲すべきことは何事であつたか、部の發展過程に於ける種々の政策と任務が明確に現れてゐるのは誰しも感ずることであらう。

そしてこれ等凡てが根本から出發して一つ一つ眞劍に思惟され、實行され、尊き体驗によつて基礎づけられ、常に足許は根本を踏みしめて大局からの進歩向上へ邁進されたところ、今日の發展は當然のことゝ云はねばならない。

過去の發展が目覺しきものであつただけに、吾等に數倍する先輩の苦心には、味へば味ふ程深いものがあり、その何れの行、何れの政策を見るも一つとして無用のものはない。

偉大なる三つの魂に導かれその眞心に親しく觸れて共に過した吾々は誠に幸福である。

この幸福を感ずるものは皆、感謝と報恩の氣持から蹴球部へ身を投じ、大きな家庭に力强き心の友を得て互に協力自己を離れて部の發展を願ふは麗しき人情である。

與へられるもの多ければ益々與へんとする精進、與へんとする精進は更に大きなものを体得し得ることを幸ひにして知る部員あつてこそ、蹴球部は他校に比して非常な强みである。

この氣持こそ、一つのプレイ、一つの仕事にも惰性を廢して、その中に大きな意義を見出し、その急所を掴まんと努力し、この努力の蓄積こそやがて來るべき秋のリーグに現れてくるのである。

グランドの練習を以てその人の日常生活を知り得ると同時に、日常生活に於ける細心な注意、修養は直ちにプレイに現れて來るのは驚くべきことである。

「今年は過渡期だ」と云はれる先輩の言葉は、蹴球部が未だ漸く一人前になつたばかりの若者であるが故に、忠告される溫い言葉であらう。

若者の稍々もすれば陷りがちなことは、根本を離れて末葉に走ることではないだらうか。

一つのプレイ、一つの政策もそしてこれ等が集つて生れる蹴球部の生活も根本を忘れての向上進歩であつたならば、決して正しき歩みではない。

吾々は去年の春は二部の選手、二部のサブとして出發した。

今春は一部の選手として一部のサブとして出發する。一部なるが爲には個人プレイに於ても一段と錬磨向上が急務であるが、同時に全部員一塊となつて闘ふ團結の强みこそ商大の誇る武器ではないか。

過去に培はれた部員相互の理解を益々深め、他面常に自己を錬磨修養し、プレイに於ても、人格に於ても立派に商大を代表する選手として正々堂々秋の戰に臨まうではないか。

……（昭、一〇、七）

特別寄稿

# 新しく社會に出でて

二階堂謹司

考へて見れば長い學生生活も終つて仕舞つて見ると左程長かつたとも思はない。唯今日迄別に大なる努力も爲さなかつたけれども、順路を進んで學生生活を今春卒へ、漸く社會人として立つ事となつた。今日迄の生活は全く順調そのものであつた。順調に進むへ間が常に注意しなければならない事は大きな事に當つて驚かない事、負けない事、又常に强くある事等であるが、之等は何時も考へさせられてゐる點だ。然し學生時代を振返つて見て、一番思出深く、一番自分に離れられない存在は蹴球部だ。蹴球部こそ自分の最後の、中心となるべき學生生活六ヶ年間の半面否大部分を占め、忘れることの出來ないハイマットだ。蹴球部にあつて、ボールを蹴りながら、一面常に自分で勝手に考へながらやつて來た積りだ。ボールを蹴る事と、蹴らない時自分で自分自身を省みて常に思惟する事とが生活の全部であつたと言ひ得るであらう。勝手に蹴球をやる事に意義を突込んで、半ば信仰的に人が何んと言つても横目も振らずに、安心して、元氣一杯でやつて來た積りだ。自分の考へた可成理想なりと信じた此等の生活から、今日の自分と言ふものがあると思ふが此の自分が今から如何なる世界に於て、如何なる態度で、生活して行くか、働いて行くかが、大いなる問題で是こそ、結果を見なくては、今日迄の生活態度の正否の判斷はつかない事であらう。然し何にしても、自分として他人に、社會



に新らしく巣立ちし廣い世界に入つて感じ易い、つまらない引目を感じたり、押され氣味であつたりする事なしに、先づ〳〵今尙新社會員として張りきつて、仕事が朗らかな氣持で出來る事だけは事實で、他人の事は分らないし、他人と雖ども自分以上に落着いた元氣のある生活が出來て居るかも知れないが、唯自分丈は少くとも可成り落着いた、張り合ひのある生活が出來る事は何より嬉しく有難い事だ。然し昨年は學生の大將として、學生の考へを大に書いたものだが、今社會人として新らしく立つ事になつて見れば、何時か長瀨が言つた樣に、社會人としての全くの新人、レギュラーでなくてサブであり、ボール拾ひなので今日迄の學生として深く考へて來た事を、社會で實際の問題に當つて、行つて見て、而して後始めて正しい事か否かが判ることになるのだから、又自分の考は、今尙學生の時と少しも異らない所のものであるから、經驗のない青二才の、又新米の言は差控へた方が、もの笑ひの種とならないで濟む事だらう。何も申したくない。唯自己の所信、蹴球部を通じて得たる大なる精神的、肉体的糧を以て、あらゆる世界に於て、如何なる障害をも物ともせず、張り切つて齊實に、頑張つて行く覺悟のある事丈を申上げて置きたい。ほんの僅しか經たない四月以降の會社員としての生活に於ても學生の時の超越的な、自分だけ正しければ人は如何でも我關せず、敢然と進むのみだとの態度も幾分薄らぎ、神樣ばかりの集合でない社會にあつて出來る限り正しい道に進まんとする所に、卽ち世の中に順應して正しく生くる爲に學生の時に味ひ得ない苦勞があるとも考へられるが、何にしても別に其れ程大きな窮屈さも感じないで、あさましい氣持にもならないで、或理想をボンヤリとでも畫きながら、張りきつて進んで居られる事は嬉しい事實だ。社會人のサブとして、學生時代の蹴球部の体驗から、思惟から言ひたい事、翼を伸ばしたい事は、山程ある。然し默すべしだ。嘴の黃色い間は眞の知識になつてゐないものだ。唯默して着實に頑張りながら見て考へるのだ。

今から自分の前に擴り來る人生こそ、山あり、谷あり、大洋あり、嵐あり、風雨ありで、幾多の難行苦行のある事は明々たり。其處に又言ひ知れない張りきりを感ずるものだ。來らば來れ、豈恐れんや。今となつて蹴球部に對する感謝報恩として爲すべき事は、唯、自己の現在に於て最善を盡す事と考へる。現蹴球部員の血の出る樣な奮闘の樣子を目のあたり見て何して先輩の我々がぶら〳〵徒然たり得るであらうか、出來る限り張りきつて頑張る決心で居る。

唯茲に現在、新社會人としてのありのまゝなる氣持を述べて此の粗雜なる稿を了へたいと思ふ。

人間一匹の、創造的な個性、根本的な天性の芽ざしは實にかゝつて此の學生時代、青年時代にあるのだ。人間を創造的に根本的に造るのは此の學生時代だ。部員諸兄—、意味深い蹴球部生活に、一段のBedeutungを與へられ、二度と再び來らざる此の學生生活をして大いに光輝あるものとなされん事を望んで已まぬ。

——(昭和十年八月十一日、朝　擱筆)

## 話の泉 (1)

田島卯重

二部優勝決定　全部員の喜びを更に湧きたゝせたのは先輩方の祝電だ葉書だ、手紙だ、長瀬御大の電文を示サウ。

ゴ　フントウヲシヤス　ナガセ

手にした謹ちやんのニコ〳〵顔がちらつくやうだ。

# 先輩よりの書翰集

## その一

拜啓、殘暑之砌御清祥奉賀候　以御蔭小生亦健全にて社務にたづさはり居候間乍他事御休心被下度候　陳者此度　蹴球部誌發刊に當り再一寄稿の御勸誘に與りつゝも遂に果さず誠に申譯なく又殘念に存居候　然る處今回立派なる部誌の御惠贈に預り諸兄の御動靜と併せて部が一致團結以て一部に昇格せんとの固き決意を拜誦し心より嬉しく存候

小生　在學中は一身上の理由により蹴球部に對する永年先輩の御努力に報ゆることを不得　却つて、蹴球部に多大の迷惑を及ぼしたること、誠に汗顏の至りに御座候然るにも拘らず小生の後輩たる長瀬兄始め諸兄の身心をなげうつての御盡力により悲境に沈淪したる一橋蹴球部を今日の盛況に築きあげたること誠に何とも申し樣なき喜びに有之候

この上は益々御自重、年來の宿望を本年度に於て達せられ、やがては全國の覇を握らるゝ日の一日も早きことを祈上候

末筆乍らグラウンド修理に關する寄附の趣正に拜誦早速僅少ながら御送金可申上候間、神野君に御傳へ下され度候

尙合宿の諸兄に元氣に御練習下されたき旨御傳聲被下度候

匆々

西田敏介

二階堂謹司樣

## その二

拜啓

すつかり御無沙汰して失禮致しました。

もう九月に入つて、月日の經つのがほんとに早く感ぜられます。風も大分涼しくなり、朝夕は一寸寒く思はれる日もありますが、シヤツの下には尚汗をかいて元氣にやつてゐます。そして二階堂君や淺枝君が來られた時より又一層黑くなりました。他事ながら御安心下さい。愈々合宿も後半期に入つて、皆毎日猛烈な練習に精進してゐる事と思ひます。今年は參加した人も多いので練習も亦嘗てない緊張と熱の中に進められてゐる事でせう。あの煙幕を張つた樣な土ほこり、練習が濟むや否や駆つて來る足の重さ等々昔を思ひ出してなつかしさに胸をおどらせてゐます。丁度去る八月二十三日非番を利用して下關商業の合宿を訪れました。前夜睡眠三時間半だつたのでとてもへばりましたが、日頃の宿望を果して愉快なる一日を過しました。去年までの經驗を思ひ出して蹴つて見たのですが、快心の當りも殆どなく、ツク〳〵練習の大切なるを痛感しました。只ボールを蹴るに就ての一例に過ぎませんけれど、コンビネーション、寄せ、デイフエンス、キーパーの活動等皆同じ事でせう。大いに練習に練習を積んで十二分にマスターして下さい。

今日、君達が合宿してゐる時、又他校も合宿してゐるに違ひありません。勿論、他校何者ぞの意氣に燃えてゐる事でせうが、其の反面に他校を敬することが大切です。と云つたからとて何もあはてる必要もなく、心配する事もいりません。眞面目に努力して完全に根本、要所をマスターすればよいのです。選手は勿論他の人々も互に相勵し熱のあるプレーに勵進して下さい。選手を最も鞭達するものはサブの人です。斯るが故に特にサブの人にお願しておきます。

以上老婆心から述べましたが、先日二階堂君、淺枝君に親しく會つて諸君のモリ〳〵した熱、意氣を聞き何より心強く思ひました。十二分の努力も根本は意氣である事を思へば、身は遠く九州にあつても　大いに安んじて居ます。

もう一ふんばり。優秀な合宿練習を完うして下さい。

では之で失敬

長瀨凱昭

蹴球部諸兄



## その三

愈々リーグ戰も初りますね。ユニフオーム、靴の手入れも終へ、全き落付きの中に熱と意氣を深く藏してゐる事と思ひます。

遙かに勝利を祈つて止みません。

（長瀨兄より）

## その四

對明大戰の戰勝を祝す。猶部員諸君の御壯健を祈り併せて優勝を祈願す。

雜司ヶ谷にて　渡邊生

【今は亡き渡邊弘氏の便りです】

## その五

明大に勝ち御日出度う。

尙油斷なく戰つて優勝されん事を望む。

氣魄で勝つた。之は最も尊く最も嬉しい

ラクビー部の意氣と共に一橋傳統のものとされん事を切に望み且つ祈る。

一如水會員

## その六

拜啓　電報有難う

三對一明治に勝つと讀んで一安心した。丁度寮に歸つて洋服をぬぎかけてる處だつたがしばらくの間何回も讀み直して、其の後は嬉しさの洪水だ。實際今日の午后は

時計が氣にかゝつて仕様がない。應援するものが氣が小さくてはいかんと思ふが四時を打つと一寸落付いた様な氣持だつた。別に虫のしらせの様な悪い兆しもないので確かに勝つたと思つたが電報を開く時は心配だつた。夕食後室で今日の仕合を想像しようとして苦心した。數ある仕合を憶ひ出してこんな狀景だつたかと一人勝手に空想に耽つた。遂にあきらめてからは今後の事を考へ初める。きつと今夜は皆で卓を圍んで賑やかに話合つてゐるだらう。そして皆ほつとした氣持で、二階堂、後藤兩君等の話を聽いてるだらう等々。

愈々十七日の成城廿二日の法政を殘すのみとなつた。皆が皆胸深く優勝を今一度誓つてゐる事だらう。併し他方、毎年の例で十一月半ばになると寒さも一段と加つて來る。そして今日の大きな試合がすんでほつとすると、共處に疲れが出、又風邪を引込む危險がある。更に心配なのは敵をあまく見易い事だ。決して成城、法政共に恐るゝに足りないが、氣分の弛(ユル)み程恐しいものはない。健康の敵も亦此處にある。覇者たるべきものは益々自重し常に云ふ如く着實に進まれる様、吳々も御願する。

諸君の健康、そして奮斗を祈つて止まない、

長瀬凱昭

## その七

親愛なる蹴球部員諸君!!

よくやつて吳れた。四部から三部へ、三部から二部へそして二部から一部へ。

恐らくは血の滲み出る様な奮闘を續けて來た事と思ふ。それにつけても吾々は昭和二年秋、研心學園にて明大と一部昇格の爭をやつて破れた事を思ひ出し、特に感慨に堪えないものがある。あゝその時とこの時、そうだ來年は一部の覇者となつてくれ。

吾等が一つ橋をいやが上にも昇揚せしめんが爲にも。



頼む。

神戸　如水會員

## その八

待ちに待つた吉電を手にして嬉しい事限りありません謹みて部員諸兄の御苦勞を謝し、二部制覇の偉功に對し心より御禮申上げ又御祝致します。

遂に一部に昇格し、一般學生の悦び、感謝は如何許りでありませう。數多の先輩は母校の名譽を見て共の嬉しさ如何ばかりでせう。我が蹴球部史に劃期的頁を附け得る悦びと共に、東京商大、全一橋として此の見事な活躍に對する悦びを合せてゐるのです。

特に蹴球部の先輩として此の大きな悦びは益々擴大されます。

曾つて當地方の如水會の節ボート部の先輩に九月中旬立教に負けた事に就いてひやかされ思はず口惜涙がボロ〳〵と流れるのをどうする事も出來なかつたのは未だに忘れられません。今度會ふ時は此の吉報を知らせて共に悦べると思ふと樂しみです。

共は扨置き、春以來の諸君の眞劍さ並に誠心誠意の努力こそ此の偉大な收獲をもたらしたものとして感謝せずにはゐられません。一昨年並に昨年にも增して各人の涙なしに聞かれぬ打明け話も多い事でせう。練習も一段と猛烈を極めたに違いありますまい。小なる自我を捨てゝ只部の爲に、學校の爲に獻身的努力をした美しい話も數多くある事と思ひます。曾つてたづさわつただけに、今度の偉業を思へば思ふ程、その裏に祕められた、二階堂後藤兩君よりサブの人に至るまでの各人の數多くの苦勞を感謝するのみです。併し思へば嬉しい限りです。

昨夜は夢に諸君と祝宴に向ふ所を見ました。

實際諸君と膝を交へて愉快な談笑の中に時を過したいと思ひます。

最後の對法政戰に備へ練習中の事と思ひます。憧れの

神宮でやる事とて皆張切つてゐる事でせうが、多勢の前でやるのですから、意氣と熱に滿ちた商大らしいプレイに終始して母校の名を恥づかしめぬ樣、御願致します。

末筆ながら遙かに諸君の御健闘を祈ります。

凱　昭

諸兄

以　上

「附　記」

好き先輩を持つ事は我々の誇である。その抱く部への變らぬ熱情と愛、我々はかくて、勵まされ、苦しみを突破して行く。一文一文眞情のこもつた先輩の便りに一部での活躍を期して報ひたいと思ふ。——（田島記）——

## 話の泉　②

◈あの大飯食ひの長瀨はやせすぎてるので落されたのに同じ大飯食ひの謹ちやんは輕く甲種合格だ。キーキー聲の後藤新先輩又甲種合格今に號令をかけられる兵隊さんが驚くだらうに、しかし三菱商事入社商大生十七名中甲種合格者は右の二名丈とは、蹴球部の節度ある生活の御蔭だ。と某先輩の話をそのまゝ

◥春の合宿でうれしかつた事は前述の卒業生の送別會だつた。後藤氏を大連に送つたのはチトさびしいが彼氏が僅かの旅費をさいて我々部員に遙かに船中より御馳走してくれた事は何ともうれしくて唯感謝だ。そして東京驛が長瀨兄を送つた時とは又別の姿で浮んでくる。

# 思ふままに

本三　水島　茂

### 一、思ふまゝに

「次はサクラヅウツミイ！櫻堤!!」で程なく櫻堤のボロ驛に着く。小金井の櫻は滿開だ。櫻は日本の春の象徴だあのパッと咲いた櫻を見ると一入「春になつたなあ」といふ感が深くなる。何處からか櫻音頭が響いて來て急に酒臭くなる。「酒なくて何の己が櫻かな」で醉客が右往左往する。花場所小金井は今がその盛り時だ。一刻も經てば醉も醒め、二日も過ぎれば花も散る。

「花見だ〳〵」と云つてゐる中に何時しか武藏野は新緑に變る。「颯爽とハイキング!!」で新緑を求めてサラリーマンも學生さんもお嬢さんもお子供衆もハイキングに出掛ける。中央線の電車は朝な夕な所謂ハイカーで超滿員となる。

未だ春だ〳〵と思つてゐるのにめつきり日差しが強くなつて、僕等の汗流るゝ顏を照りつける。日一日、目に見えて皆の顏が黑くなつて行く。

月日は容赦なく流れて、とう〳〵雷鳴豪雨と共に梅雨期に入つた。此の梅雨が明ければ赫々たる夏が待つてゐ

る。そしてその又向ふには秋が、收穫の秋が、リーグ戰の秋が我々を待つてゐるのだ。十月上旬、リーグ開會式當日、我々の力と意氣は試されるのだ。天下に公開されるのだ。指折り數ふれば、七月八月、九月の三ケ月、僅か百日の後には我々は神宮グランドで死闘するのだ。思つても血沸き肉躍るではないか。

然し顧つて春の合宿以來六月中旬の今日までの猛練習の結果を見るに、二ケ月餘に亘る努力の跡が餘りにも貧弱なのには今更驚いてゐる。春の合宿は各人の体力を養ふ上に於て非常に効果があつたが、その後の進歩が殆ど見受けられない。此の事は合宿直後對早大の試合に商大チームの可成りの活躍を見ながら、その後の對慶應、對名高商の試合には殆ど見るべきものもなく、最近の對帝大戰には却つて退歩した形のあるのは如何したものであるか。

此の狀態で進んだのでは、一部のダークホースとして活躍を期待されてゐる商大チームが、案外拙戰する破目に陷るかも知れぬ。

殘る所は八月の合宿と、九月の猛練習あるのみ。之だけでは甚だ不滿足であるが止むを得ない。各人は此の不足を補ふ爲めに七月八月の休暇を、休操にランニングに或は各自の母校蹴球部の練習參加により、努めて休暇前のコンディションを秋まで保つ樣にして戴き度い。

秋の勝利のために！

勝つて感激の涙溢るゝ我々の眼に、春の合宿、小金井の櫻、愛する小平のグランド、夏の合宿等々が髣髴として次ぎ〳〵に走馬燈の如く浮び出る時を期待して……。

（一九三五－六－一二）



## 二、春季合宿擧行に就いて

部員諸君

今度の春の合宿を行ふに就ては、最初の試みでありましたので、果して豫期した成績が擧げ得られるか隨分心配しました。殊に遠く關西、中國或は支那方面に歸省して居られて、一日でも長く親兄弟のもとに居りたかつたであらう諸君、又は色々家庭の事情から家を離れる事の六ケ敷い諸君に、春から合宿の參加をお願ひすることは或は僕の要求の方が無理でないかとも考へて見ました。之が夏の合宿であれば、秋のリーグを目前に控へてゐる關係上全部員の參加を强ふる事も無理ではないかも知れないのですが。

併し顧つて考へて見ますと、連戰連勝して來たとは云へ、未だ曾て足を入れたことのない一部の檜舞臺にやつと登つて來た若冠の僕等です。神宮のグランドへ出ると直ぐ上氣つてしまふ程若い僕等です。プレイに於ても、三部四部の曲折した荊の途を辿つて來たため、どんなに最眞目に見ても一部の他のプレイヤーに比し上手いと思はれぬ僕等です。總ての條件に於て劣つてゐる僕等商大が是等古豪强敵を相手に花々しく戰つて之を軍門に降すためには、尋常一樣の意氣込みと練習振では難事ではないか、或は意氣や愛校心に於ては彼等に優るとも劣らぬ僕等ではあるが、一部に於ては今迄と異りフアイトだけでは勝てぬ。更に体力を養ひ、テクニツクも大いに磨かなければ駄目だ！そしてその爲めには當然に彼等以上の努力が必要なのだ、と考へると矢も楯もなく春から合宿したくなつたのです。彼等が春の駘蕩たる氣分を滿喫して未だ引き緊まらぬ中に、僕等若人は一歩先んじて練習を始め、常に一歩々々彼等に先んじて進んで行つたならば、秋には必ず彼等をノシしてしまふ事が出來ると信じ、秋の勝利の爲め萬難を排して春からの合宿を國立原頭に擧行する事にしました。

さて四月になつて幾分不安な氣持で蓋を明けて見ますと、御承知の通り殆ど全部員の參加といふ好成績で、諸君等の張切つた意氣に感激すると同時に、諸君の參加を危ぶみ徒らに取越し苦勞をした自分の心を恥しく思ひました。

流石は商大蹴球部諸君だ。一部の春を迎へて、諸君の意氣は天を衝くばかりだ。我が商大蹴球部の非常時、乘るか反るかの一九三五年度を迎へての諸君の覺悟は實際頼もしい。

諸君が僕等の意とする所をよく察して下さつて、欣然參加されたことを心から感謝致します。

そして今後もこの合宿の意氣込みを何時までも忘れないで、只管秋の勝利の爲めに、各人の技術と体力とフアイテングを養ふ樣に努めて戴き度いと願ふ者です。

——(合宿を終へて)——

## 三、蹴球部生活

人は生きてゐる間は否應なしに何らかの形に於て社會の一員たり、社會生活を送るを強ひられる。經濟學者の考へるロビンソンクルーソーの生活は餘りにも極端である。

我々は必ず家庭の一員として生れて來る。家庭は既に最小單位の社會である。昔の大家族制度の頃は同じ家族でもそのメンバーは何十人といふ程多かつた。そしてその一員はその家族に屬するのみで生活が出來た。然し其處には既に簡單ながら社會生活と考へられるものが發生してゐたのである。然るに其後中世になるに隨つて家族なる單位が次第に縮小すると同時に他方都市なる地域的社會が發生して來て、各員は家族の一員たると同時に都市の一員たる事を要求される樣になつた。此の傾向が更に進んで今日の國民經濟時代と呼ばれる時に至ると、一方に於て家族の人員は五六人といふ小數に減ずると同時



に他方國家といふ大なる社會が出來上り、是等兩者間に種々の中間社會例へば都市村落、或は組合、學校、クラブ等の地域的又は社會的集團が生じて來た。かくて今日の我々は種々の社會に屬することを要求される。隨つて我々は或る社會に對しては密接な關係を有し、他の社會に對してはそれ程でもない事がある。

而して我々には社會に屬しなければ生きて行く事が出來ない事もある。又そうでなくてもある社會に關係してゐる方が何かしら生活上意義のある事もある。故に我々は自分が一員として屬してゐる社會からは有形無形の恩惠を絶えず享けてゐるわけである。然かも密接な關係にある社會程その恩惠にあづかつてゐるわけである。故に我々は常にその事を念頭において、積極的にはその社會向上の爲め盡力すべきであり、又少くとも消極的にはその社會に迷惑をかけない事を期さねばならぬ。自分を考へる前に先づ社會を考へて見なければならぬと思ふ。

斯くて我々が今日屬してゐる關係深い社會を考へて見ると、先づ大なる日本といふ國家あり、小なる各人の家庭あり、それから中間の社會として東京商科大學なる學校、そしてその所屬ア式蹴球部がある。而して我々學生は學生らしく、學生としての本分を忘れずに生活して居れば、それで學校なる社會の一員たる學生として、更に日本國民として、又家族の一員として立派なものでありそれで社會人としての本分を盡してゐる事になる。然るに更に社會生活を、いやもう少し限定して學生生活を、より有意義に送るために我々は蹴球部といふ一團体(一小社會)に入つてゐるわけである。

私が茲で述べようとしてゐる事は蹴球部生活といふ社會生活に就いて我々が日頃如何なる考へを有つべきかといふ點である。

もう一度考へ直して見よう。學生は學生の本分を守つてゐれば、學生として、國民として、又人の子として立

派なものである。然らば我々蹴球部員が部員としての本分を守つてゐればどうか、矢張り學生として天地に恥ぢざる行爲である筈である。教育の三大原則、智育、德育体育のうち、少くとも体育と德育とは團体競技なる蹴球に於て養はれてゐる以上、立派なフツトボーラーは又立派な學生であるといふことが斷定出來る。英國ではフツトボールの選手は皆ゼントルマンとして待遇されてゐるとの事である。然り、我々も皆立派なゼントルマンである筈だ、そして立派な日本國民である筈だ。

スポーツの華蹴球の意義を今更茲でくどく述べる必要はあるまいが、あのグランドを燒き盡す酷暑の夏季合宿練習に、少しも弱音を吐かず玉なす汗を拭ひつゝ暴れまはり、或は九十分といふ長いゲームで、疲勞の極に達しながら「何クソ!!」と必死になつて最後のホイスルまで頑張り通す點、蹴球が如何に我々の忍耐力を鍛へてくれる事か。此の忍耐力と、蹴球といふ團体競技に於て養はれた協同的精神と、スポーツマン特有の明朗性とは、毎日の規則正しい練習によつて鍛へられた健康と相俟つて、やがては日本の國を背負つて起つべき立派な青年を造り上げる。二十年乃至三十年の後にはキヤプテン・オブ・インダストリーとして産業國日本を牛耳るべき立派な商科大學生を實社會に送り出す。

蹴球の意義は斯くも大である。我々が毎日蹴球部の生活を送つてゐるのは、かゝる點に測り知ることの出來ぬ人生の意義を認めてゐるからである。であればこそ我々は蹴球部生活に對して何等の矛盾も感じないのである。

然るに茲に少し疑はしい場合がある。それは成る程以上の樣な蹴球部生活の意義の如何に大なるかを認める。然しそれは自分の家庭生活と衝突しない時に初めて可能なのであつて、若し家庭の事情が運動部員としの意義ある生活を充分に送る事を許さない場合には、聊か矛盾を感じ惑はざるを得ぬであらう。若しかゝる場合に遭遇した時はより大なる恩惠を受けてゐる家族の爲めに、蹴球部に對する職分を何らか犧牲にするのも止むを得ぬであらう。だからと云つて蹴球部なる社會に大なる迷惑をかける事は避けなければならぬ。成る程我々は各自の家庭に最も深い關係を有し、最も大なる恩惠を受けてゐるには違ひないが、然し社會生活としてのその單位の大きさは蹴球部の方がより大であるわけである。故に前者の爲めに後者を犧牲にすればより多數の人に迷惑をかける事になる。ある部員の姿の見えぬことが練習上不便を感ぜしむるは勿論であるが、それ以上に部員全体に精神的に打擊を與へる事は見逃せぬ。一部員の元氣な顏の見えない時何と淋しい事か。それは恰も我々が家庭に於て食事する時に、家族の誰かゞ欠けた時に感ずる淋しさ、物足りなさと同じだ。

然し此の場合にも、部員全部が苦しい立場にある人の本當の事情を知り、その心持を察すれば、苦しい中にも努めて蹴球部の爲めに力を盡す彼の心意氣に感激して、反つて彼の分をも自分が引受けて頑張らうといふ氣持になるかも知れぬ。此の點からも部員各人の愛部心、部員間の和合、了解といふ事の非常に大切な事が分る。

上に述べた家族の事情は扨て措き、それ以外の種々なる關係、例へば種々な趣味の團体、個人的な附合ひ、クラス會、同窓會、縣人會等は、我々の社會生活上必要なる事は云ふ迄もないけれども、蹴球部なる團体生活の前には甚だ重要性の少いものである。是等が蹴球部生活と兩立しないといふのではない。

否兩立するのが通常である。たゞ蹴球部生活が我々學生生活の大半を占めてゐるのであるから、時には兩者相容れない事があるかも知れぬ。かゝる場合には、我々は少くとも蹴球部の一員としてのベストを盡すべく、是等の種々なる關係を犧牲にする決心があつて欲しい。

一九三五－六－二六

# 春のシーズンを顧みて

本二　淺枝彦太郎

同時に二つの生活を持ちこの生活の目標を最大の限度に達し得る事は、技術的に見て超人間的な力を有しない限り我々凡人には餘程の難事である。

この意味に於いて庭の飛石を見て碁石を思ふ漫畫中の人物は決して笑ふべき人物ではない。

我々凡人になし得る事は時間的に前後の區別を附けその時々の目標に向つて最大限の努力を惜まない生活であらう。

蹴球部の生活も我々に取つては生活の一部であり、乃至大部の生活である、我々は練習を有意義なものになすべき義務を有する。

冷眼に報ひる爲に一つになつて進んで來た、過去四年乃至五年の生活は決して面白おかしい生活ではなかつた。すべての個人的な我儘を体を投げ捨てゝ部の爲に善かれかしと思ふ先輩の心が實を結んで漸く今日迄になつて來たのである。毎年秋のシーズンともなれば皆の眼は血走つて居た。一寸した冗談にも部の者でないから分らないのだと思ふ前に無闇に腹を立てたりした。

四部から一部へ上つて來る迄の長瀬二階堂後藤諸氏の苦勞は全く口では言ひ得ない。

昨年長瀬さんを送り出した時は未だ未だ彼の卒業を惜しむ氣持祝ふ氣持に浸る事が出來た。今年は又二階堂後藤兩君を見送つた。然し去年と今年との僕達の氣持には相當の距りを感じないわけには行かない。



時々本科生の地位に就いて考へて見る。その度毎に豫科の諸君が一日も早く強くなる事を希つて止まない。

この前の雜誌にある長瀬氏の言葉を借りるなれば「諸君はサークルキツクの方法を知つて居る。唯漠然とやるのでなく一つのボールをストップして之を他の者に渡すまでに含まれて居る教訓を知り、又知らんとする事に努力する事を幸福に思ふ」と。

部員の多數の爲止むなく練習を部分的に分けて行つた今春に於いて全く異なつたグループでする時よりも殆んど同じ樣なグループで練習する事の方が多い。（結局はその方が有効なと考へるのであるが）時々豫科のFIVのグループに入つて行つて餘りにも瞬間々々に於ける努力のない事に驚く。

この注意なさ漠然たる練習がどこから來るか、漫畫中の笑ふべき人物になる事を勵めて止まない。

あれだけの立派なグランドを持ちながら球と遊び弄ぶ時間は以前よりも却つて少なくなつた樣に思ふ。球と遊ぶ時間が少なければ凡てのプレイは質よりも形式のためのプレイになるわけである。

今一度練習のある所以を考へて練習したいものである。

（一〇、七、三〇）

# 今昔

本二　荒井文雄

「今昔の感」と言ふものは歴史家や詩人のみ味ひ又彼等のみに味はせて置けばよいのだと思つてゐた。然し近頃餘りにも斯んな感傷に走つて居る自分を見出して驚く場合が多い。

寄る年波のせいか（それ程でもないが）涙もろい爲か知らないがとにかく昔を思ひ今を思つて、時折涙ぐましくなつて終ふ。然し之はあながち私のみではなからう。

石神井生活の多くを經驗し「涙の歴史」の頁を一枚一枚嚙みしめた人達が同様に味ふ氣持だらう。

その昔、石神井で練習して居た頃はグランドはまだ茫々たる武藏野の一部をなして居た。多くの草の根がグランドを我物顔にはびこつて居たために、アンクルを痛めたり足先を捻つたりするのも再三再四ではなかつた。それだけならまだよい。勃興時代の荒い鼻息のラグビー部にグランドを思ふが儘に荒され一方からは野球のノックに脅かされ、蹴球のみに意を注いでプレイ出來ない狀態だつた。即ち如何なる練習中と雖も、横暴なラグビー部はグランドのペナルティ・エリア、はおろかゴールエリア迄侵して得々としてゐたのだ。此の時程弱者の悲哀を味つた事はない。向ふは多くの人達を擁してビッグセヴンに浮び上つた頃であり、こちらは悲運相次いで四部に落ちた頃で、部員も十人そこ〳〵の練習だつた。何をされても強い者を正當化する世の流れには抗し得なかつたのだ。

そして今グランドは神野兄の東奔西走の努力と先輩の支持とによつて東洋一と言つてよい位のものが出來たし又先輩の後を繼いで決然立つた長瀨兄續く二階堂後藤兄の只ならぬ奮闘によつて部は蹴球界の水面に浮び出た。

然しここで徒らに自己滿足をしてはいけないのだ。私達の前にはまだ色々と懸案が殘されて居る。多くの、ハンデイキャップを如何にして埋め、如何にして一部諸校を斃して行くか。「成り上りもの」は稍々もすれば身の程を忘れ勝ちになる。我々はよく内に反省して如何にして上つて來たかを考へ、又外に求めて如何にして多くの懸案を切り拔けるか、を考へねばなるまい。「グランドは立派になつても部は強くならない」と言ふ樣な事は斷じて言つて貰ひ度くない。否、斷じて言はせない樣にするのだ。



如何にしてここ迄上つて來たか答は餘り多くない。それは去つたトリオ長瀨二階堂後藤の諸兄を中心として打つて一丸となつた纏りであり又寧日なき練習の賜であらう。

昔は人數も少なかつただけに纏まる事も容易だつた。グランドにも幾度かその片影を殘した事があつた。スクラムトライなんかそれである。スクラムトライとは、敵ゴール前の混戰中に味方のハーフはおろかフルバツク迄も突込んで、協力一致ゴールを陷れるのである。武藏高校の試合に發明しリーグ戰の對日齒戰にも成功した戰法だつた。

然しグランドに躍る人影は十人そこ〳〵の昔を脫し、今や四十有餘の人を持つ大世帶になつた。同じ釜の飯でも或人はうまいとし或人はまづいとするだらう。吾々は小我に走らず一旦部に席を置く以上大きな「我」をみつめて進まなければならない。

× × ×

昔はよく走つた。今の樣に体操から始まる合理的練習がない丈に稍々もすれば無茶と思はれる位激しい練習をした。太陽が何ものも殘さじと照りつける夏のグランド迄泡を吹いて坦々たる千五百米の道を走つた。それも步調を同一にして走るのでなく、猛烈な競合をスタートからラスト迄續けるのだ。時々頭が涼しくなつたと思ふと腦貧血を起して斃れた。休が強いと自他共に許す私でさへ斯樣であつた。肋膜上りの長瀨兄や村井などがどんなに辛かつたか察するに餘りある。

又夏の合宿でランニングパス十回やつた時の事を覺えてゐる。皆よく頑張つた。ランニングパスが終ると皆ヨロ〳〵と草の上に斃れる樣に伸び誰一人口を聞くものがない。口を聞く所か皆死んだ樣になつて終ふのだ。苦しみが大きかつただけに優勝した時の氣持は又別だつた。成蹊を5對0で屠つたときみんな嬉し涙に咽んだものだ

つた。

そして今練習は合理化されて本格的なものとなつた。練習と言ふ形式が立派になつただけではいけない。練習方法の向上と共にチームの力も向上せねばならない。

× × ×

昔は人數が少なくすべての人が試合に出場しなければならないので、グランド、マネーヂヤーはゐなかつた。それ故幹部の人達は自らもプレイに身を投げ込み一方みんなの練習をコーチしリードしなければならなかつた。

今は神野兄がよく練習をリードしてくれるしグランドは宏壯であるし何ものも恐れるものはない。野球のノックの球が飛んで來て頭に當つて角田の如く伸びる憂もないし、ラグビーの近視眼の人の人違ひのタックルに斃れる心配もない。私達は全精神全肉体を練習と言ふ「燃える熔鑛爐」に投げ込むだけで他を顧みる心配はないのだ。所謂「馬鹿」になつて自分の体を道具だと思つて練習中マネージャーに任せればいいのだ。

× × ×

未明に麓を出發した私達は三つの峠を越えて來た。四部の峠三部の峠二部の峠。然し之から上る嶺は今迄の峠とは異つて最も嶮岨であり最も危險な行程である。

見よ一部の峯には今にも雨をもたらさんとする戰雲が荒れ果てゝ居る。早稲田の谷も慶應の崖も私達が一歩足をそらせたら立ち所に私達を呑み込んで終ふのだ。ここから見える早稲田の谷は雲に包まれ霧に遮られて居るため餘り深くは無い樣に見える。然し晴れた日、本當の早稲田の谷を覗くならば餘りにも深い谷を發見して驚くであらう。慶應の崖は稍々もすれば私達の頭上に崩れ落ちて來さうだ。昔、峠を越す頃には心配のなかつた色々な心配が今目の前に現はれて來た。最高峯を見つめて一歩一歩進まう。早稲田の谷にもすべらず慶應の崖くずれにも



ふまい。

峯は近い。道は益々嶮岨だ。みんな先の人を見失はないで一處に峯に登らう。その中には山霧も晴れて明るい太陽が微笑むであらう。

## 希望

本二　角田　昇

何をか喋々として云はん
水島、神野兩兄の指揮刀の下に默々として忠實なる一兵卒としての自己の信ずる最善の任務を果さん事を期するのみ。

## 我蹴球部生活回顧錄

本一　村井恒典

今年も去年と引續き大量的に本科生が增えた同時に豫科にも澤山の新入生が入つて來た。この時に當り入學當時の部の受難時代を思ひ出し我々の蹴球部に對する認識を深め又新入部員に眞の蹴球部を了解せしめる資とするのも決して愚な事でないと信ずる。

僕が商大豫科に入學した時乃ち昭和七年には部員の數は現在の本科部員の數位しか居なかつた。當時本二の長瀨さんを筆頭に後藤、二階堂、の本一の二君、後は豫科の丸帽を被つたのが十人足らず實に淋しい次第であつた。その上御大長瀨氏は先年の秋乃ち我部が三部より四部に

落ちる年に患つた肋膜炎の爲試合は勿論練習も人並に強度には出來なかつた、だから試合に於ける主將は二階堂氏が行つてゐた。

往年二部の一流所に居て一部昇格をねらつてゐた我部が何故連續轉落を續けて四部にまでなり下つたか。その原因は僕の入學前に屬する事だからよく知らないし斷言は出來ない、だが想像するのに人の和が欠けてゐたのではないかと思ふ。長瀨氏はその事を痛感されたのであらうか盛に麻雀初め種々の遊び事を皆に勸められた。部員間の親睦を圖る爲に氏の家に我々を招いて下すつた事も隨分ある斯く申す僕等も隨分お邪魔したものだ。氣の合はない人達は既に皆退却した。中には非常に上手な人も居られた事と思ふが。だから僕の入部當時の小人數の事は了解がつくと思ふ。僅か十四五名の小人數で石神井の砂埃りの中で馳廻つたのである。練習が終ると又よく遊んだものだ。長瀨さんは麻雀も強いし撞球圍碁將棋等勝負事一切強しの人だつた。その點謹嚴そのものの樣な二階堂さんと一緒になつて調和がとれてゐた。長瀨さんの話術は迚もうまいもので之は謹坊事二階堂さんも敵はない。兵隊の話や木登りの名人の話や色々思ひ出すだがグラウンドでは恐い程無口で烈しかつた。一休團体の頭分になる者は口が輕くては駄目だ。俺みたいにべら〳〵しやべつては迚もいけない寡言實行以身垂範式の人が適材なのだ長瀨さんにしろ二階堂水島兩君にしろ淺枝君にしろ皆だまつてゐる。默つてゐる方が思ふように皆が動く。俺みたいなおしやべりは常に部を朗かにしてゐれば良いんだ。尤もこんな人間が一人二人居なくてはいけないと思ふが。

初陣の試合は立教だつた。人數の關係上入學するとすぐ引張り出された事は之からの人達と違つて苦しくはあつたが試合の骨みたいなものを早く會得するから利益を得たわけだ。今後も第二軍の練習相手をどし〳〵作つて



どん〳〵試合に出した方が良いと思ふ。扨て閑話休題最初の立教戰は敵のインナーと、ウイングに翻弄されて只苦しかつた事しか覺えてゐない。完全に負けて了つた。春の唯一の定期戰たる浦高戰にはもうその頃には大分試合に馴れて來たし身体も錬れて來たせいか樂に戰つて勝つ事が出來た。晝に食べたカレーライスと團子とプレンソーダのお蔭で身体の調子が良かつたのだらうと今でも思つてゐる。

夏休みが終つて第一回の合宿は國立で行はれた。全員と言つても少いが皆參加した。この合宿は麻雀の方が主だつた樣な氣がする程盛にやつた。晩は二時頃まで朝起きればすぐ牌に附き晝休み勿論と言つた具合で身体と家の關係上毎日通つて來られた長瀨さんを終電車でおかへしする事も隨分あつた。だから朝は早く起きろつたつて無理だ。九時頃までねてゐたその代り練習は猛烈でグラウンドまで競爭をする。ランニングパスをグラウンド十回往復してやつたり、之を午前午后必ず行ふ。だから身体はくちや〳〵になり合宿所の階段は足が痛くて匍ひ上つたものだつた。新興第一歩の合宿であつたから之でよかつたのだと思つてゐる。とにかく各自身体は充分になつたし精神的まとまりは出來たしリーグ戰にはどうやらからやら優勝する事が出來た。之の時の事は第一號に書いたから略するが以來此の精神的まとまりが我チームの唯一の武器となつてゐる。一人一人手にとつて檢べると決してうまい奴はゐないが不思議に強くて負けない三年連續優勝の奇蹟みたいな事を美事やつてのけたのも此の精神的まとまりの力と思ふ。

冬の全國高商大會に初出場して關東代表となり關西代表たる强豪關西學院を石神井に迎へて試合の結果タイムアップ直前に一點入れられ二對一で惜敗したのも面白かつた。皆負けても口惜しがらずに喜んでゐたのも變なものだつた。

之で七年度のシーズンは終つた。入つた早々より僕みたいによくしやべる奴は居なかつたらう。どうもしやべつてゐると樂しいんだから變な性分だ。だが皆の氣心も分るしこんな樂しい部に入つたのはうれしいことだつた。關西遠征の時は大阪には負け神戸には勝つたどつちも二點の差だつた。甲子園みたいにスタンドのあるグラウンドは始めてだつたので一年の僕はすつかり上つてしまつてフルバックをやり乍ら二點も味方のゴールに突込んで田島さんに目をむかれた。だが神戸との時にゴールをカヴアーしてヘッドで二回入る球を返したことによつて少し取り返せたと思つてゐる。

その次の年名古屋高商から水島さんが來られた。新入生も增える大分充實して來た。春の浦高戰は殘念乍ら引分けだつた、長瀨さんに泣いて叱られたのを覺えてゐる。麻雀はこの年も盛に行はれた。夏の合宿も例年の通り行はれてリーグ戰に臨んだ。最初の國學院戰に出て勝つたのみで僕は殘念乍ら肋膜炎になつた。この原因は種々あるだらう。練習が終つてから夜おそくまで麻雀をやつた事は殆んど連日身体の休まる暇がなかつた。とにかくリーグ戰の後半はずつと寢床の中で勝敗を氣にしてゐただけだつた。この時殆んど毎日の如き部員諸兄の御見舞を受けた事は實に嬉しかつた。どうやら醫師に外出の許しを受けたのは十二月末だつた。少々無理だつたかもしれないが、明藥のグランドに高商大會を見に行つたのを覺えてゐる。專門部に一對〇かで負けて了つた。感慨無量でした。幸ひな事に身体は具合よく元旦は長瀨さんの所で過し新年より學校へも出られた。出席日數も足りなかつたし成績も餘り芳しくなかつたし本氣になつて勉强した。

昭和九年になると長瀨さんは卒業せられて九州へ行かれて了つた。之から二階堂、後藤の兩兄のペアになつたわけだ。青師より養成所に名手枝村さんの入部を見たし



新入生も大學入部して此處に始めて部内で試合が出來る程人數が增えた。

春のシーズンは出場しないつもりだつたが醫師の許しが出たので浦高戰に出られる事になり急に右のウイングとなつた。之は二階堂さんが僕の身体を心配して下すつた事によると思つてゐる。僕のライトウイングとしての初舞臺は立教だつた。三年前僕のフルバックとしての初陣が矢張り立教だつた事を考へると一寸奇異の感にうたれる。そして之は美事に勝つて積年のうらみをはらした。浦高との試合は全く負けた試合だつた。よく引分で終つた事は昨年の勝つ可くして分けたのに比べて同じ引分けでかうも違ふものかと思つた。この年から体操が行はれた。文部省から本間さんをお招きしたりして身体をねる事に努力をした。夏の休みにも青師と一緒に練習をしたりして秋のシーズンに備へた。夏休み後第一回の合宿はやはり國立だつた。身体の爲によくないので朝晝麻雀禁制になつた。此の頃より部内の麻雀熱は大分衰へて一部の人のみが好んでやるようになつた。リーグ戰には三度優勝し浦高も破り關西遠征も一勝一分に終つた。そして二階堂後藤兩兄を一部の選手として送り出し得た。往年相當名人がゐてなれなかつた一部に何故かうも易々と上れたか我々は今一度檢討して後年の爲に備へてをかねばならぬ。

僕等の入つた當時の蹴球部は全く影のうすいもので一橋運動部として問題にされてゐなかつた。同人の後援も殆んどなく或は嘲笑を以つて迎へられてゐたやうな氣がする。それが連年昇格して來ると俄然支持者も增え今では斷然たる地位をきづきあげてゐる。

部を强くするには部内の空氣を統一しなければならぬ。この部内の空氣の統一の必要な事は言ふ迄もなく練習に對して各人の熱を生ぜしめる。氣の合はない者と混つて練習なんかしたつて何等面白くあるまい。從つて猛

練習なんか出來るものでない。いざ試合になつても喧嘩許りしてゐては打つて一丸とした強いまとまつたコムビネーションはつくものでない。この統一を行ふ手段として麻雀をやらせ、部員の集る機會を多くし又氣の合はぬ人達の退部と相俟つて小人數でよく長瀬、二階堂、後藤等三君の下に集つたのである。

そして一旦部で定めた事は皆よく守つて毎年優勝する自信を以つてリーグ戰に臨みそして必ず優勝して來たのである。我々の部の練習のやり方は他の運動部や他校のチームと何か異つた或るものがある。之が特色である。各人共卓越して他チームを凌いではゐないが十一人そろつてチームをなす時不思議に強くなるのはこうした部の空氣練習法によるのであると思ふ。

今後も眞面目に練習し人の和によるチームワークで戰にのぞんだなら一部優勝も必ず出來る事を確信してゐる。

去る五月二日だつたか田島君と文部省へ行つた。足の肉離れを見て貰ふ爲だつた足は果して僕の案じてゐた通り肉離れだつたついでに醫師の勸めで肋膜の跡を見てもらつた。肺活量もぐんと上つてゐたしX線寫眞の結果も斷然よかつた醫師は傍の人に肋膜をやつて三月しか休んでゐないで其後にすぐ運動をやつてこんなに恢復するものだ。此處で運動をやつてもよいと許可を與へた者は皆こんなに良くなつてゐると言つてゐた。僕としては長瀬さんの前例もあるし運動を續けずには居られなかつた、決して再發なんかしないと思つたり少し身体の調子が惡いと再發かとあやしんだりびく〳〵してゐたが練習以外の點では相當身体を注意した。その爲によくなつたのだと思つてゐる。そして練習ではどんなにしても十中八九は病氣にならない。要は練習後の攝制だと言ふ確信を得た。だから今の考へはこのまゝ本三まで蹴球を續行して行く考へだ。

## 所感

豫三　小西正夫

過去幾多の人々の絶大な勞苦は遂に報いられて、今年の秋は堂々あの神宮の球場で戰ひを交へる事の出來るのは商大サツカー部員として、此上もなく愉快な事である。と同時に諸先輩に對し學校に對し、深い責任を感ずるのである。それにしても二部から三部三部から四部と落ちて行き乍ら何等挫ける事なく忽ち躍進に躍進を重ねて來た！その力といふものに就いて諸先輩から話を聞く時豫科の力が如何に與つて力あつたかといふ事を知る。

豫科が完全に一致した時又商大も一致しそこにこそ勝利の榮冠は輝くのだ。元氣潑剌たる豫科生が凡てに物ともせず雨をも厭はず、唯只管に土と汗とにまみれてボールを蹴る時に初めて商大は勝てるのだ。或人は之を馬鹿になつて蹴るといふ。豫科生は青年だ。青年に元氣がなくてなんになるか、青年はファイティングスピリットが旺盛でなければならぬ。

或人は之を「何糞」の精神だといふ。徹底的に叩き付けたと相手が信じた時に尙跳ね反つてノスといふ「何糞」の精神がなくてはならぬ。青年は自己を卑下しては駄目だ。此の「何糞」の精神を深く藏して「馬鹿」になり切つて商大を勝たすべく先輩の勞苦を生かすべく母校の名譽の爲に總てを賭して頑張らう。

## 蹴球をする

豫三　岩崎寛貞

常日頃獨居して默想する時、又徒然に想をめぐらす時、必ず考へるのは蹴球の事だ。漸く蹴球生活三年に入

つた私だ。深い事も偉い事も考へられぬ。つまらぬ事を思ひ付くまゝやたらに書く。

蹴球生活――一般に團体的運動生活――は、我々人間を包括する社會の縮圖だといふ。確かに然りで、社會生活中に生ずると同様な様々な作用、現象を含んでゐる。人一度世に生れゝば、苦しみも樂しみも共にその身邊に浮游して、或時は附着し、人を無上に愉快ならしめ、或時は人を苦惱の地獄に墮す。實際樂あれば苦あるで、苦樂共に原因となり結果となり一般世人に作用する。この世に生を享くる者で、苦しみも樂しみも身に感ずる事がなかつたら、それこそ生き甲斐のない生活になり行くであらう。

蹴球生活にも同様苦しみも樂しみも多分にある。一時は全くこんな生活から逃げ出さうかと考へる事も屢々だが、その心に乘ぜられず、身を進め、道を拓き、蹴球生活より受ける苦しみを征服する時、無上天國の快樂となる。快樂のみではない、尊い經驗となり實社會への貯蓄となる。蹴球生活を己の生活に全く喰ひ込ませて損はない。寧ろ社會への實驗を得、社會との調和を得る。個人競技はさておき、團体競技にてはチームワークは缺くべからざるものだ。チームワークなかりせばその存在價値も見出せまいし、實際上決して強くはなれない。チームワークてふ、換言すれば團体精神、協同精神に因する所で、そのチームの空氣に逆はず調和して、個人相集り完全な一團体即一社會となるに最要のもので、一旦實社會に出ても、この精神のかけたる者は完全な社會人と相成れぬ。これは社會人が各々に調和し協同し、共に同一の理想、目的に前進する所に平和な完全なる社會も形成されると同様で、萬人の共に熟知する所である。

千變萬化極まり無い斯くの如き社會に身を置く以上、理想、覺悟、實行が必要だ。苦しみの波にさらはれても、樂しみの海に溺れてもいかぬし、苦しみを嫌ひ、樂しみに誘ひても尚更いかぬ。苦しみありてこそ努力もしよう。覺悟、理想を立てゝそれに邁進もしよう。而して樂しみを求め得よう。餘り苦しみを考へ過ぎてはいかぬ。その時は結局悶絶の世界だけしか開かれまい。その時には或る程度以上の樂觀主義者たるは絶對にいかんが、物を樂觀して視、然も鋭く身を働かして行くのが必要だ。この場合一應樂觀するのはいゝが、主義とするは誤りで、正しい進路にはづれよう。又之と反對の場合も想像し得よう。要するに極端と極端は危險千萬取るべき道ではない。

蹴球生活を營む者はその性質、作用、その價値を理解しその意義に徹し、後の大きな生活に供すると共に、今のこの生活を行ふ愉快を味ひ、現在にもまして一層意義あらしめそれから生れ出るものを確かり握りしめ、己の生活を向上完全なるものたらしむべきであらう。勿論諸々の迷路難行を覺悟して居なくてはいけないし、青年の意氣を消沈せしめて置くべきもない。

つまる所、小さい蹴球社會にても大にしては實社會にても向上の意氣と、難苦克服の決心と協同團結の覺悟がなくては萬事が始まらぬ。全くこれは解りきつた話だ、が實際は難しいやり難い事だ。駄句をつらねた。御容赦々々々。

（一〇、七、一四）

## 「苦しむ」スポーツ

豫三　後藤虎雄

「外人はスポーツを娯樂として趣味として、樂しむのであるが日本人のスポーツ少くとも學生のスポーツは決して「樂しむ」のでなく精神の充實修養及び身体の鍛錬發達を期するのであつて寧ろ「苦しむ」スポーツと言ふべきである。

此の意味に於て外人のスポーツと日本人のスポーツとは其のプレイの上に於て自ら異ならなければならない。」

と言ふ意味の話を何時か聞いた事があつたが其の時は「成程さう言へば確にさうだ」と大いに感心したのであるが近頃又そんなことを考へて見たのである。

外人のスポーツマンはその性質の先天的樂天性、快活性にも依るのだらうがどうもそのプレイ振りは朗らかで餘裕がある樣である。いかにもスポーツを「樂しむ」と云ふ態度である。一方日本人のスポーツマンは、スポーツをやる根本の精神目的が之と異つてゐるから「樂しむ」のではなく「苦しむ」と云ふ態度である。

その試合振りに於ても平常汗水流して研究練磨した技量を以て是が非でも此の一戰に勝たねばならぬ、石に嚙ぢりついても勝つぞといふ意氣が旺盛である。此の意氣此のファイティングスピリットが尊いのである。此の不撓不屈の氣力眞劍味こそ「苦しむ」スポーツの本當の味であり學生スポーツの本當の味であり學生スポーツのエッセンスである。

「樂しむ」スポーツと「苦しむ」スポーツ吾々はそこに大きな國民性の相異を自覺すると同時に吾々のスポーツを徹底的な「苦しむ」スポーツたらしめねばならぬ事を痛感する。

蓋し苦しみの中の樂しみ苦しみの後の樂しみこそ吾々の最も欲する樂しみではなからうか。

## 一年半を經て感じたこと

豫二　二階堂晴三

既に一年半を經て來た蹴球部生活は只有難く感ずるばかりである。春來れば秋に備へ顧ては又新なる年を迎へ六年間に得られる悅びや苦しみは感謝するのみと先輩は常に申された。一年半を終へた自分がその休驗の何分の一かを莽々と今感じてゐるのかと思ふと自分は幸福だとしか思はれない。

去年の部誌を讀んで、四部に落ちて行つたこの部が



筆や舌では盡されない苦濕を舐めて長潮さんを中心として歩んで來た跡を知つた。さうしてそこにもう萌えて出た蹴球部を貫く全体の大きな流れの片鱗を見た。今の自分にはどこかでそれ等が囁き始めたのだと思はれる。

蹴球部は大きな一つの貴い魂だ、未來がある歴史を持つてゐる——滲み出る樣な苦しい記錄がある。自分の一擧手が一投足が去りては部史に殘りこれからは殘らんとしてゐる。部員の一人としてのなすべき事は明らかである。

豫科二年の自分。これから体と技と精神力とで唯やつて行かうと思ふ。この秋の試合がもう浮んで來る。嬉しい氣持でこの短い文を擱筆する（春期練習を終へし頃）

### 話の泉 ③

◈昨年の關西遠征も面白かつた。就中村井、鈴木、荒井三漫才（この時以來から呼ばれる）の實演は人氣があつた。しかし天才荒井も、坂神パーグで名物チンパンヂーに御株を取られて消耗してゐた。

◈京都好いですね！えーまつたく好いですね！さすがの和製クーパーもライカ片手に帽子を水に落して舞妓さんを撮つてゐたです。

◈いや、餘り聲が好いのでボーとして、聞いた道もわからず粹な蛇の目に魂うばはれた人も居ますよ。

# 合宿の思出

## 苦（九）の日記

豫二　枝村藤三郎

意義深い合宿練習も今日で終りだ。意義深いつて？俺が生れて始めての大學といふ恐ろしいやうな名の附いてゐる學校の合宿なんだもの。

夏休み中相當錬へておいた積りだつたが、相當へばつた。五日目に降つた雨などは實に俺達にとつても慈雨と言ふべきだ。然しそれから毎日はつきりしない天氣には腐つた。頭の上からは押し付けられるし、ボールは濕つて重くなるし、スラムプには落ちるし實際淋しかつた。

何度か自分の心に鞭打ちながら立直つては練習して來たつもりだ。あんな時に二つの方法で激勵し又慰安する事が出來るだらう。「この馬鹿野郎、そんなことでどうする」といふのと「疲れたらうが頑張つてくれ、も少しだ」といつた樣にしんみりと行く手と。然しまだあると言ふ人があるかも知れないがそれは例外だ。

練習もさる事ながら宿での生活も又至極愉快だつた。終りの休操をする頃誰が口をきくだらうか。默々と最後の努力を續けてゐる悲慘に近い姿をした人達が、二千米近いランニングの後で食ひ付く葛湯の一杯!!その味たるや又格別、先輩が持參してくれる菓子の味を凌ぐこと數等、常にはいや〳〵と思つてゐた人でも一度合宿に來て鍛へられてからは、我先に飲む樣になつたのだから不思議だ。お代りを飲み度い等と思ふものなら、舌を燒いたり目を白黑させたりして飲み下さなければならない。でも强引な人達はよくお代りをしてゐた樣だ。僕等もその一人だつたかも知れない。來年は合宿前に熱いものでも早く飲む祕訣を傳授してもらひ度い。

一杯の葛湯に稍々元氣を恢復さして次に風呂だ。但しボール當番はまだまだ先が長い。此の當番こそ實に尊い役目だ。世の人達に忘れられ勝な緣の下の力持だけれど誰だつて蹴球をする者なら一目見て「あゝ御苦勞」と言ひ度くなるだらう。朝の空氣詰めは安眠を貪つた後だけに少しは元氣を恢復してゐるから案外平氣だが問題は夜だ。たつた一杯ではあるが實に驚嘆に値する力を持つた葛湯——クタ〳〵に伸びた人達でも湯氣を立てゝ待つてゐるであらう葛湯をしびれた頭の中に描き出す時、二千米近い距離のランニングは平氣であるのは勿論、往々にしてマネーヂヤーから「早いぞ」と注意される程に張切るんだからこう言つても敢て暴言ではないだらう——を平げた後は泥だらけのボールの手入だ。先づ顏を洗つてやる。と言つても張子の虎同樣になるべく濡れないやうに泥を落し滑らかな肌？を露出させてから油のクリームを塗り込んでやり、滿腹のまゝ寢たのでは腸の自家中毒でも起されてニキビでも出られては大變だから、口を開けて吐かしてやり始めて休ませるのだ。これは練習が終るのが六時半頃だからかれこれ七時近く始める。どんなに日が永くても七時には大概暗くなる。するとやがて嫌な蚊が出て來る。所が此の蚊の奴猛烈に大きくまるで爆擊機の樣だ。食ひ付かれたが最後ムツチリと腫れ上つてくる。選手の中には顏を氣にするやうな男は一人としてゐないからいゝが、馬鹿にならなければ出來ない仕事

だ。然し此の馬鹿でなくて何が出來やう、小悧口な目先の事ばかり考へてゐる奴に何が出來るか。

かくして當番が終れば愈々風呂だ。此の時分當番でないものはいゝ氣持でお風呂に浸り元氣良くと言ひ度いが何處か足りないものゝある樣な聲を張り擧げて唄ひながら垢を落し充分に詰め込んだ頃だ。詰め込むといへば先づ第一は御大二階堂氏だらう、謹坊なんて云ふと優しい坊やのやうに響くが一目見た人がその敬稱を聞いたらどうしてもシツクリしないのに氣付くだらう。殺しても死なないといつた具合の身体の持主、近頃の女ならでもその体格には充分魅力を感ずること請合、にも拘らずそんな浮名を流すといふやうな事は更にないのだから益々謹坊だ。彼が紀平哲學の權威であるときいたら成程とがてんが行く筈だ。でその最高記錄は飯七杯豚汁四杯。牛飲馬食といふからフルバツクのS氏フオワードのM氏など「馬」といふ異名を頂戴してゐる連中の方が澤山食べさうだが、さうでもないのは意外だ。——この稿を書いてゐる時思ひ出したのだが、謹坊以上の鎌足がゐた。その人の名譽の爲に名を祕すことにするが、同時に謹坊に深く謝罪する。……筆者と彼との會話

筆者「近頃飯はどうだい相變らずか」

彼「いや減らしてゐる。」

筆者「どの位に」

彼「朝三杯、晝は食堂の一人前で我慢してゐる」

筆者「ぢや夜は」

彼「夜か、夜は六、七杯だね」

もつて彼の如何に大食家であることが了解されるでせう——話は横道へは入つて長くなつたが、こんな連中の使つた風呂は實に何とも言へない美麗さだ。之も無理はない話だがまあせめてもの取得はゆつくりは入れる事位だらう。それでも明日の練習を思ふと風呂にでもは入つて疲勞を休めない事には續きさうにもないし、頭の先から足の先まで全身の赤土なのだから仕方なく〳〵は入り、冷えかけた汁や飯で腹を作る。夏だからいゝやうなものゝ冬だつたら目も當てられないに相違ない。こんな風にしてやつと一人前の顏で遊べる。然しもう麻雀などは遲い。早いのになると前晩位に既に相手が定つて一刻千秋の思ひで待ちあぐんでゐるんだ。ボール當番等はオミツトされる第一候補だから淋しいこと此の上もない。それでも覺えたばかりの俺などは陰の方で眺めて居て滿足出來たからいゝやうなものゝ、相當の腕を持つた人は嘸かし口惜しい事だらう。この麻雀がすむと大概九時か九時半頃、浮いた者沈んだ者夫々連れ立つてパマルヘブルーベルへと繰り出す。そこでは汁粉を或は麻雀のお蔭でものにしたミルクセーキを飲み乍ら就寢前の尊い一時を過す事になるんだが、こんな時練習の話が出て來るのは、商大イレエヴンが如何に此のシーズンを重大視してゐるかを示すものと言へるだらう。

良く晴れた夜は星を仰ぎながら明日の練習の辛さを又反面には晴天の下に蹴る痛快味を想像する。一緒に寢るM氏の多辯にも閉口したが隣室のK•A•Sの三氏がゴソ〳〵話にもほと〳〵參つてしまつた。かくして何時の間にか迎る夢路翌朝隣近所へタツクルを試みた事等はよく苦情として申込まれるが、そんな事は夢の中の事故こつちの知つた事ではない。

夜が明ける、ゴツさんが起しに來る、一分でも二分でも長く寢て居たい。然し規律は規律だ。眼をこすり乍ら起き出して体操、この体操たるやラヂオ体操だけで充分な所へもつて來て、文部省体育課云々本間氏の体操だ。眠さなんか何處かへ飛んで行つてしまふ。でも後になるとゴツさん自身が寢坊する樣になつたので大いに羽を伸して眠れた。これは彼ゴツさんの氣分のしからしむるものでなく天氣の爲であつた事は勿論だ。

やがて朝食も終り午前の練習だが凡そ午前の練習程身

体の調子の悪いものはない。これはまだ身体が夢路を辿りつゝある爲なのだと思ふ。

然し調子が悪くても身体が眠つてゐてもボヤ〳〵としては居られない。一方には謹坊の謹嚴そのものゝ如きそして又俺達の良心をしてあゝそうだ頑張らうと叫ばしめるやうな激勵叱咤の聲があり、他方柄不相應に眼ばかり大きく光らして少しでも氣にくはないと特徴のある聲を張り上げていやと云ふ程どなりつける男がゐる。どうして安閑として居られやう、いやでも勇氣百倍人の脛でも蹴折らんばかりにならざるを得ない。こんなに張り切つてゐても、最後には折角復の中へ藏ひ込んだ代物を全部お返しする樣な事になることから考へて見ても、而もそんな連中が相當ある事を思ふ時、練習の猛烈さは想像に餘りあると思ふ。もつともこんな人は最初の一二日で影をかくしてしまふのだから安心していゝ。さすが夏の眞晝間には散歩に出る人もないらしく從つて俺達の話題に上る樣な人もゐない。唯待つてゐるものは亂雜に取散らされてはゐるが、俺達の一番所望してやまない疊のしかれてゐる室だ。口を開いてゐるからと言つて、大の字になつて寢てゐるからといつて決して笑つてくれるな、彼等は唯秋のシーズンに備へんが爲に我もなく人もなく安眠を貪つてゐるだけなのだ。

この安らかな夢路も起き拔けの小男（俺達にはさう見えるのだ）の樣な、その心根には優しい〳〵或物を持つてゐるが、一寸したことに對しては小さい室へ藏ひ込んでしまつて、敢て顧みやうともしない人に無慘にも破られる。この時の辛さ、泣き出し度い、いやそれ以上だ。が暫くして頭の中に榮ある優勝を描き出す時辛い等といふ氣持は何處かへ飛んで行つてしまつて、殘るは只若人の明朗なる意氣、午後の練習!!蹴る!!蹴る!!蹴る!!實に痛快だ。秋父連山に陽が落ちかける頃、路傍にすだく虫の音を慈愛に滿ちた母の奏づる樂の音ときゝつゝ走る。



中にはこんな風流めいた事に考へを走らせてゐる餘裕等何處かへ忘れて來た人があるかも知れない。いやない、走つて歸るのさへ精一杯なのだ。彼等の光明卽ち唯一杯の葛湯を目標にして走つてゐるのかも知れない。これは失敬、秋の優勝一部への昇格、これが彼等を走らしめてゐるのだ。

過ぎ去つた旬日を振り返つて見る時實に學生でなくては、いや運動をする者でなくては、更にチームゲームをする者でなくては味ひ得ない一種異樣な氣分に包まれて總ての苦痛も樂しい思ひ出となつて來る。

然しまだ花でいふなら蕾だ。花を開き實を結ぶのはこれからだ。やがて秋だ、この克己、この忍耐、この努力その總和は協同だ、そして生れ出づるものが優勝だ。先輩の血と涙と汗で飾られたこの歷史をどうして汚すことが出來やう。勝たう！勝つんだ!!いやきつと勝つ!!そしてあの大きなカップで共に祝盃を擧げやう、これを除いて先輩諸氏並びに卒業される二階堂、後藤兩兄に對する餞があらうか。

これは昭和九年九月九日丁度合宿の終つた日に書いた日記なんです。だから隨分妙な所があります。そうでなくても筆を取つても人後に落ちざるを得ない僕のことだから。

然し今は既に過去の勝利の美酒に醉つてゐる時ではない、今年こそ僕達の實力を示す時だ。早稻田、慶應がなんだ。彼等も亦人間であるに過ぎない、去年以上に頑張つて頑張つて、最後まで頑張り拔かう。そして未だともすれば迷ひ易い途上にあるこの一橋蹴球部を益々隆盛に導かうではないか。是が俺達に殘された唯一の課題だと思ふ。（最後に後藤、二階堂兩兄に無禮を謝し益々發展せられんことをお祈り致します。）

# 春の合宿

本一　鈴木　彰

國立での合宿もだん〳〵古い歴史を持つ様になつた。今では僕達部員にとつて、休暇の訪れる毎に一度は國立の朝晩の空氣を吸はねば、なんとなく物足らぬ様にまでなつて來た。

夏休みの終りと十月中旬後の試驗休み、それに今年からは四月の春休みも早春の冷い外氣に浸りながら練習にいそしむ事になつた。

初めて行ふ春の合宿、國立驛を出てすぐ右の富士見通りの彼方、靈峰富士の未だ白衣のまゝの姿を仰ぎながら元氣一杯の若人達は、一ケ月餘の休暇を過してガヤ〳〵と二週間近くの合宿生活を初めるのだ。

「さあ起きろ！休操だ休操だ」と云ふ張り切つたキヤプテンの蠻聲に、疲れた眠りから呼び起されるのはとてもつらい。顔も洗はず下駄をつゝかけ、宿の前の喫茶店のラジオに合せて体操だ。時刻は七時廿分だ。皆ねむさうな目をして欠伸をしながら手を上げたり、飛んだり跳ねたりする。輕いリズムに合せて運動するのは誠に氣持よいものだ。天氣はよいが春の東風はひやりとする。朝の靜けさを破るものは時々、森に反響して轟き過ぐる省線の騒音のみだ。しつとりと朝露にぬれた大學都市の補裝道路、綠こまやかに樹木の梢に光る水のしづく、白鳩が前の赤い屋根にとまつて僕達の体操を不思議さうに見下してゐる。總てが未だ活動を始める前の靜けさの中に、僕達のみが躍動し生氣に溢れてゐる。

体操が終ればやがて朝飯だ。うまいまづいといふ問題はこゝでは通用しない。たゞ味噌汁と飯を口を通して腹に押込むだけだ。御菜がなければ御茶だけで飯が食へる様でなければ合宿の飯が食へるとは云へぬ。

十時からいよ〳〵朝の練習である。ユニフォームに着替へて宿を出る時は、グラウンドまでのあの長い固い道ボコ〳〵して塵の凄く立つグラウンドの事を思つて元氣な僕達も、些か淋しくなる。二千米餘の道路を揃つてワツシ〳〵と走つて行く氣持は實になんとも云へぬ。

グラウンドに着けば春は既に訪れてゐる。周圍の土堤に生ひ茂る若草は、青年の若さを惜みなく漂はせてゐる。空は些かの微粒も止めないと云ふ様に凄く晴れて山も滅切り近く成つて來た。立川の飛行機が爆音をたてゝ練習してゐる。恰もエーアシップの箱の繪の如き感がある。

やがて鋭いホイツスルの音と共に血のにじみ出る様な練習が始まる。初めの二、三日はとてもつらい。フツトボーラーがボール無しでトレイニングだ。機關車の如く唯グラウンドを走るのだ。何事も考へるひまがない。ホイツスルに從ひ、力一杯走り廻つて身体をねるのだ。暫くすると頭がボーツとして涼しくなつてくる。目先には水玉の様なものがちら〳〵と現れる。こうなると自分の身体が人様の様なものだ。腰がふらつく。目が廻る。中には淋しく土堤に上つて風にあたりながら、遙かの秩父連山を仰ぎホトボリを冷して居るのもある。

二時間の練習が終れば汗とほこりにまみれた黑人の一隊が宿屋のあのミルク色の甘い葛湯を思ひ浮べて疲れ切つた身体に馬力をかける。練習を休んだものまでテク〳〵走り出す（終ひになると葛湯のおかわりが出來ないんだよ）

午後も亦苦闘の連續である。更に暑さが加はり、益々練習には拍車がかけられる。唯、精神力で無我夢中、課せられたトレイニングに肉体を打ちこむのだ。

やがて夕暮が訪れる。綿の如く疲れた身体には夜の來るのがたまらなく嬉しい。外氣も冷えて來る。冷たい空氣は疲れた身体に氣持に何よりの御馳走である。晝間の激勞に皆投げ出された様に床にもぐりこむ。八時が過ぎれ

ば早くも健康さうな寢息が豫科生の間から洩れてくる。

窓を開ける。月の光は木立を通して流れる樣にさし込んでくる。豫科生のひくのかアコーデイオンの音が疲れ切つた心に浸みる樣に響いてくる。シイーンとした國立の夜。外にはところ〴〵に灯が明るくついて木立にうつゝてゐる。木の陰影が濃く窓に迫つてくる。ふと騷音に耳をむける。麻雀だ。長瀨大先輩の殘した商大合宿の花麻雀だ。晝間の疲れも何處へやら、もろ肌をぬいでポン〳〵牌をたゝきつける御目出たいのもゐる。長瀨先輩の居た頃は、就寢時間は自由だつたが、今では十時限、嚴守である。それだけに夜の自由時間がたまらなくたのしい。

鋭い、尖つた刺の樣な汽笛の音が林の陰から聞えてきた。重り合つた雜木林の間から地を動す樣な轟音と共に長い列車が通り過ぎる。しかしその後はすぐ沈んだ樣な靜けさにつゝまれてしまふ。

かくて春の合宿の一日が暮れて行く。又明日の練習へと身体を一日一日とたゝき上げ、秋のリーグ戰への基礎工事にいそしむのだ。

（昭和十年六月十日記）

## 練習と風呂

豫二　池尾隆二

練習が終つて風呂に入る時はぢやぶ〳〵ごちや〳〵文字通り芋を洗ふ樣な盛觀です。風呂にひたつて、練習の汗と泥をさつぱり洗ひ落す時の氣持は又格別です。そしてみんな赤ん坊の樣に無邪氣です。一人泣き出すと、皆それに和して聲を立てる樣に、誰かロずさんだ唄が一齊にコーラスとなつて、風呂場の天上をビリ〳〵させます。

元來我々は裸で生れて來て先づ第一に、產ぶ湯といふ



風呂に入れられるのですから、誰でも裸になると赤ん坊になるらしいです。万才みたいにペチヤクチヤ喋べり立てたり、ヂヤンケンで入浴の順をきめたり、胸にヒゲのある樣な奴まで水をひつかけつこして嬉しがつてゐるから不思議です。

兎に角お互が赤ん坊みたいな無邪氣さで、心と心の融和を計るのに之程よいことは無いと思ひます。合宿の時は勿論ですが、早く部室が出來風呂も出來て、毎日の練習の後湯舟の中で芋式に切瑳琢磨されたいです。

〔話の泉④〕

◈酒亂の奴はたえないもので、近頃は拳闘に中村金雄君を友達にもつ角田が、飲むと必らず下級生をなぐる、被害者多數あり。最近では、荒井、田島迄なぐられたとか、實は何をかくさう。一番弱いのが角田といふ評判だ。何しろ半分は親愛の意味で半分は激勵といふよりは、叱る意味ですかな。

◈村井の鼻の下は長いさうだ。出世する相だから益々のばしたらよからう、足の長さ位に。

◈熊さんは今年も新しいストツキングです。美しいですな。……

◈淺枝君の醉ふた姿が僕は見たいです。荒井達の話を信じて、

# 伯母より

豫三　熊澤博文

「狹いながら樂しい我が家」の庭にも、世間並に初夏が訪れて、絞り、紫、紅のつゝじが今を盛りと咲き誇つて居ます。右側の野菜畑には胡瓜と茄子の苗が植ゑられました。東側の葡萄棚には危ぶまれながらもどうやら芽が出初めました。麥も青々と生長して、全く滿目青葉若葉の生氣みなぎる時であります。それなのに、など斯くも私の胸は結ぼれ勝なのでせう。先日の事あつて以來、大して氣にも留めてゐなかつた子供達の前途に就て、つく〴〵考へて見ずには居られなくなりました。此のか弱き母一人に依つて、五人の子供の手綱がとられてゐるのかと思つたら、今更ながらその責任の重大さを覺え、自分一人で負ひきれるかどうか心細くさへ感じます。それに此頃英雄からも久しく無音無沙汰で、益々淋しく感じましたから、昨日の日曜日は女大時代の舍監先生の慰安會を振つて、教會に參りました。慰安會には是非出席して、八年間御世話になつた先生を中心に樂しい昔を語らうではありませんかと、當時の同寮の友から御誘があつたのですが、皆友が幸福に暮してゐるのにと考へると――我が身を卑下する譯でもないが、氣が進まなかつたので久しぶりで教會に行つて見ました。昨日は丁度「母の日」で牧師さんの御話まで母に就てゞした。



今更新しい言葉ではないが「女は弱しされど母は强し」といふを聞いて思はずハッとしたのでした。さうだ私は母なのだ。こんな弱氣でどうする、父無き五人の子供は誰を賴みに生きてゐるのだ、子供を幸福にするも不幸にするも一に自分にかゝつてゐるのではないか。徒らに泣いてゐてどうする、と鞭たれた氣持になりました。「神は汝の堪へられざる試錬は與へ給はず」又勤めて怠らず心を熱くして主に仕へ、喜びて患難に堪へ……自ら復讐すな……惡に勝たるゝ事なく善を以て惡に勝て」などゝいふ言葉も、昨日ばかりは殊更深く耳に響きました。

結局「なれ」「なせ」との神の命を喜んで受けてベストを盡して居さへすれば、必ず必ず神は守護し給ふ。この信念を固くすべきだと悟つて、氣も晴々と夕方歸宅致しました。すると貴方からの御手紙が着いておりまして嬉しく拜見致しました。

こんな老年の愚痴の樣な手紙なぞ少しも面白くない事でせうが、比較的に貴方は斯ういふ精神的の話は御嫌でなさゝうですから、安心して思ひ出すまゝに書きます。

× × ×

日本映畫に關する御意見御もつともです。全く日本物には、同じ日本人が演ずるためか譯なしに泣かされてしまひます。先日××館で「戀愛人名簿」を見てゐた時、私の前に三十歳前後の男の人が居まして――傍に居た女の方は夫人かどうか判斷に苦しみましたが――その人がとても泣いてしまつて、兩手でハンカチを押へたきりでした。女の人がしきりに腕でつゝいてゐるので、何か我が

身に覺えでもあつたのかしらと餘計な想像までしてしまひましたが、一方純な方だといやな感じはしませんでした。

映畫を見て泣く人の氣が知れないなどゝ申す人が居ります。貴方が「映畫を見て泣くのがいやだ」といふのが、もしこの言葉に支配されてゐるとしたら、それは大いに考へ直さねばなりません。私に言はせれば、泣く人がある樣な映畫を見て、泣けない樣な人の氣が知れません。

今の世の中は實際僞瞞に滿ちたものです。貴方はそれを殘念がつてゐる。それなのに映畫を見て泣きたくなつた時に「映畫ぢやないか、泣く奴があるかと自ら心に言ひ聞かせる」なんてそれが既に僞りの生活ではありませんか、映畫だつてなんだつて、泣きたくなつたら泣いたらいゝではありませんか。しかし純な貴方の樣な人をして、自ら虛僞の生活に陷らしめる今の世の中には、それこそ大聲を上げて泣きたくなります。眞に同情すべき乞食をまで疑つて一錢の金さへ惜しまずには居られないのが今の世相です。貴方位になつて漸く知り始める世の中のこと、いやな時でも喜ばねばならぬ、欲しても遠慮せねばならぬ、人には裏ぎられる「裏切つた人が歸つて來た時には、快く容れてやるのが眞の善人と敎へられてゐる故に、再び背かれて一層みじめな姿になる」全く情ない世の中です。私は十四の時から親のもとを離れて第一に感じて來たことでした。しかし、學校生活の時はお互に修養々々と勵まし合つてゐたので、大した苦痛とも思はずに居たのですが、いよ〳〵實社會に乘り出してから廿何年間といふものは實に〳〵汚れた事ばかりでした。利己、打算、一人エラガ



リ、金力萬能の世の中は、總てがこの弱い一人の母を苦しめてゐる樣な氣がしてなりません。何處かの世界に精神的にのみ生きるパラダイスはないものでせうか

× × ×

今○○座に良いのが二つ掛つてゐて先日見て參りました。私などはやはり「×××お七」の方がよかつた。が、昔の戀のためには名譽も金も要らない、主人のためには妻も子も捧げる、親のためには一生を棒に振つても厭はない、といふやうな人情美は今は何處にも見られないのかと、その時つく〳〵考へたのでした。實際今の世間では、名譽や金のために戀をし、自分の利益のためには親も主人も意に介しないのが當り前となつてゐるのです。

けれど〳〵愛する宏さん！世の中は、又、必ずしもそんなものでないといふ事を私と共に今一歩進んで考へて見て下さい。

貴方の若さでそこまで考へた丈でも——社會の罪と言つてしまへばそれまでゞすが——大なる收獲と言はねばなりません。然し貴方の考へてゐるのが世の中の全面であつたら、それこそ大變自分もその渦中に卷き込まれてしまひます。濁れば濁る程一方には必ず清淨な面が却つてはつきり浮いてくるといふことを忘れてはなりません。人間の性は善なのですから。自分だけでも純な氣持で生きたい、と願ふべきです。さうすれば必ず其處には同じ心の者が集つて參ります。

宏さん、「排斥されたらされたでいゝ。人情の解らない社會なら自分は敢て退かう」とは何とよ

い決心でせう――自棄性がないなら――然し、其れだけの決心がつけば決して退かなくてもよいのです。今度は更に〳〵進めばよいではありませんか。「善を以て惡に勝て」です。泣きたい時には人が笑はうと誹らうと大いに泣き、正しい自信がついたら馬車馬式に進み、惡いと思つたら、蹴つて打たれて強ひられても忍耐してゆくべきです。人のために行ひて報を望まず、人から受けた親切には多少によらず感謝する、利己、打算、物質の世界へ、眞つしぐらに人間味の旗を押し立て〻朗らかに進んでゆけばよいではありませんか。

兎に角貴方があそこまでゞも、苦しんで考へてきたといふことは偉いものです。苦しみを味つて初めて、本當の精神の糧の必要を感ずるのです。私も貴方と同樣の道を辿つて、今は宗教的生命を得ました。神を信じ、喜んで艱難を引き受け、そしてこんな生活にも泣かずに暮して居るのです。恐らく釋迦も孔子もキリストも、この苦しみを通つてあの大思想を生み出したに違ひありません。たゞこの苦しみを通つた後にどの道を選ぶかといふ事が大問題の所です。

幸ひ、お話の樣子では、商大サツカー部は一つの纒つた信念をつらぬいて行かうとして居られる樣です。貴方がそれによつて宗教的生命を得られたら其れ程結構なことはありません。勿論サツカー部の精神をそのまゝすつかり容れるのでなく、自分のある信念と同化させることが必要です。仰せの如く「人間は誰でもその思想は一人々々違ふもの」であり「どんな人の信念でも、それが正しくさへあるなら、釋迦や孔子と同樣尊重すべきであるからです。



宏さん、汚れた世の風潮に染んではいけません。自分一人になつても人間らしい人間で暮して下さい。眞黑い中のダイヤモンドとなればよいではありませんか。それは周圍が黑ければ黑い程輝きが增します。誰が見捨ておくでせう。男らしく正義に向つて、確かり一歩々々を踏んで行つて下さい。常に運動（スポーツ）で心身を鍛へてゐる貴方、勝たうと努力する所にスポーツの意義があることを御存知なら、人生の意義も矢張り勝たうとする所にある位のことは考へてゐるのでせう。又、スポーツに於て正々堂々戰ふことを信條とすべきである樣に、人生に於ても正々堂々と戰ふべきです、この位の事は貴方のスポーツ哲學？にあることでせう。只、尙其の上の信念を固められて、早く釋迦にでも孔子にでもなられる樣お祈り致します。

（一九三五、七、一三）

話の泉 ⑤

七、米山は飛行機で來る、狩森は、胃から逆もどし音樂入り、まるでアザラシ見たい、ウオーといふうなり聲だけでも大したものだと思つたらトランプしてる奴が狩森だとは！

# 送別の辞

昭和十年三月、櫻花未だ綻びざる早春、二階堂、後藤両兄を我が商大蹴球部より送るに當り、我等部員一同惜別の情に堪へざる所あり。

顧れば兄等過去六ヶ年に亙る蹴球部生活程波瀾を極めたるもの無かるべし。勝利の神に見離されたるか。連戰連敗、石神井原に三部四部轉落の非運を喞ちし秋、「商大蹴球部地に墮つ。」の悪評、校の内外の有らゆる冷眼視に悲憤の涙を押し隱して、憤然長瀬兄と瓦解に瀕せし商大蹴球部再興に乘出せし兄等の意氣や悲壯の極といふべし。當時の兄等の心中を惟ふ時、何人か眼頭の熱くなるを禁ずる能はざらんや。

幸ひ兄等の燃ゆるが如き愛部心と、血の滲み出づるが如き献身的努力は報ひられ、昭和七年の秋「臥薪嘗膽の商大返り咲き」三部に編入せられしを轉機とし、其後は兄等の統制宜しきを得て勝利に驕る者なく益々向上に專念せるを以て、恰も順風に帆を揚げたる如く、三部に五戰五勝し、昨昭和九年には破竹の勢もて二部の諸校を擊破し、創部以來の宿望たりし一部昇進の實現を得たり。我等の喜びもさる事ながら、轉落の涙知る兄等の感激や如何ばかり。主將として、或は監督としての



職責を完うし、我が蹴球部に一部編入の素晴しき置土産をして學窓を出づる兄等の得意や察するに餘りあるものあり。

甦生蹴球部は長瀬時代、二階堂、後藤時代と二代の荒波を見事乘越へて、茲に早くも三代となる。古より初代二代及び三代に亙りて確固たる基礎を築きし御家は萬代不易なりといふ。我が蹴球部の將來も一に懸つて我等が雙肩にありといふを得べし。

斯かる蹴球部の非常時に直面せる我等が責任の重大なる事言を俟たず。幸にして我等に創部以來の愛部心と、長瀬兄の殘されし部員の和合と、二階堂、後藤両兄の殘されしファイティングとあり。之に加ふるに今後の猛練習に依るプレイの進歩あらば、一部の古豪如何に强からんとも、何ぞおめ〳〵引けをとらんや。

願はくは今秋の我等が活躍に刮目あらん事を。

我等は茲に兄等の期待を裏切らず、兄等の遺されし偉業に一段の輝きを加へん事を誓ひ、以て送別の辞となす。

昭和十年三月

昭和十年度主將　水島茂

# 二兄を讃ふ

荒井文雄

## 二階堂兄を讃ふ

誠心以て身を修め
誠意以て部を率ゆ。
その信ずる所や固く
その望む所や大なり。
蟻動にも心を致さざるはなく、
而も泰山の鳴動にも敢て驚かず。
欲すれば必ず之を志し
志せば　必ず之を遂ぐ。
あゝ　眞の男子か　眞の男子なり。

## 後藤兄を讃ふ

朝に東奔し夕に西走す。
鋭意以て事に當り、
何事と雖も敢てひるまず。
内にあれば一聲以て我蹴球部を動かし、
外にあれば一指以て我蹴球界を動かす。
あゝ偉大なる哉後藤博基。

【送別の辞に代へて】

# 二階堂、後藤両兄を送る

豫三　小西正夫

## 二年の別れに嬉し背廣服

×

喜んで送るのか、悲しんで送るのか、分らぬので結局こんな句が出ました。扨、何はともあれ、両兄の共に目出度く御卒業なされ、其の上、自分の目的とする職業に就かれて、吾々の喜びは、何に譬へようも御座いません。惟へば、あの石神井の汚い部室の歡迎會以來、グランドでは勿論、其の他の場合でも、本當に吾々の爲を思つて親身になつて、世話して下され、何とか、今日豫科三年として、豫科をリード行く事が出來る樣になりました。現在、豫科三年になつて、初めて、切實に、二兄の御苦心の萬分の一でも味はへる樣な氣も致します。練習中、試合中、或は、平常の態度、唯々吾々は兄等に教へられ勵まされて、今日に到つたのです。こんな生意氣な事が言へるのも兄等の御蔭です。兄等の非常な御骨折の結果漸やく一人前になつた。サツカー部の試練の第一關たるリーグ戰は、後、將に三ケ月の近きに迫つてゐます。吾々は兩兄の總てを擔つて、吾々の總てを盡して正々堂々戰ひませう。

×

## 稻妻に鞘光りけり日本刀

# 送る辞

豫三　熊澤博文

諸君は太陽征伐といふ御話を御存知ですか。此は處々に聞かれる傳說ですが、さつとこんな話です。

昔、この地球が八ツの太陽にカン〳〵照らされて居た時代があつたさうでございます。夜となく晝となく、朝となく夕となく常に八ツの太陽が出たり入つたり一年中

夏のやうな氣候であつたさうです。この八ツの太陽のために、草は枯れ木はしなへ、山は崩れ川は埋もれ、海も將に塩ばかりにならうといふ有樣で雨が降つても土地は直ぐ乾き、吹く風も熱くて、生けるもの皆その跡を斷たんとする時が近づいて參りました。たゞ人間は、砂の樣な土地にも育つ一種の豆の木を植ゑまして辛うじて生命を繼いで居たのでした。けれど此のまゝいつまでも八ツの太陽が限りなく現れてゐては、人間も遂には全滅しなければなりません。そこで賢明と言はれる人間は相談して、この太陽を一つにしてしまはふと決心しました。その結果屈强の若者が七人選ばれました。若者は手に〳〵最も丈夫さうな赤兒を、男の赤兒を脊負つて、勇ましくも太陽征伐の壯途へと旅立つたのであります。彼等は道々苗を植ゑて行きました。幾日も幾月も、果ては幾年もの間草のない野を越え、木の枯れた山を登り、水のない川を渡りして、最も太陽に近い所まで旅をしたのでした。そして遂に、丈夫な弓の充分とゞく所まで來た時には、國を出た時の若者も今は早や白髮の老人となつてゐたのでした。然し、脊負うて來た赤兒が、それに代るべき天晴れ立派な青年となつて居ました。そして直接太陽征伐のために弓をとる者は、國を出る時歡呼の聲に送られて來た若者ではなくて、何とその時にはまだ何も知らなかつた赤兒であつたとは。

そして、彼等が太陽を征伐して歸る時、道々植ゑて來た苗は、立派に生長して實を結んでゐて、老人もその實を食べて元氣に歸つてゆくことが出來たのでした。

諸君。此處で一寸考へて見ませう。この老人が、夜を日についで野越え山越え、七人の赤兒を育てながら、一日も早く太陽征伐させようと努力奮鬪したことを。

直接太陽を征伐したのではないとはいへ、若者をベストコンディションの中に太陽征伐させた、その功績は實に敬服しなければならないと思ひます。



諸君。更に考へて見ませう。この敬服すべき彼等を、我がサッカー部の後藤、二階堂兩兄に喩へられはしないかと。

マネジヤーとしての後藤さん、キヤプテンとしての二階堂さん。兩兄は陰に陽に、技術的に精神的に我々を練磨して我がサッカー部の一部昇進といふ偉業を成したのではありませんか。一部といふ太陽の下に、我々を叱咤し練磨し、團結協同といふ精神の苗を植ゑながら、我々を到達させて下さつたのです。

太陽征伐の老人以上と言はねばなりません。一部といふ太陽の征伐を、一日も早くさせようと努力の山を越え苦心の川を渡り、脊中の赤子にも劣る我々サブにまでも眼をかけて下さつた。然も、精神力の勝利といふ信念を我々の胸中に深く刻み込まれたのです。三年連勝、それは精神力の連勝でした。二階堂兄がよく言はれました。

「何くそと思つてやれば、何だつて出來ないことはない」と。又凡ゆる學校の實力をよく知つて居られる後藤兄は言はれました。「技術そのものでは、我々に勝れてゐる所は幾つもある。しかし一致團結して元氣に當つて行けば、少しも恐るゝに足らない」と、二部優勝までの道に於て、この事は立派に証明されました。

我々後藤、二階堂兩兄に育てられた若者として、進んで太陽征伐に掛ります。征伐して歸るべく、精神の苗は斯くも立派に育つてゐるのです。たゞ、太陽を射るためには弓の技術も大いに必要となつてくるのであります。

一部恐るゝに足らずですが、もし弓のねらひがはずれたら、赫々たる太陽のために燒け死なゝいとも限りません。我々は兩兄の殘された精神を背景として、更に弓も上手になつて、一部の太陽を一つ殘らず矢じりにかけ、商大といふ太陽一つを輝かすべく努力しなければなりません。くだらぬ事を長々しく申しましたが、兎に角我々がこの覺悟を抱くといふ事は、兩兄の精神に添ふものであると信じ、一言感じた所を述べまして餞けの言葉と致します。

（送別會にて）

# 惜しくも逝きし 先輩 渡邊弘氏

## 故渡邊弘氏 追悼文



## 渡邊弘氏を偲ぶ

安野元章

永らく病床生活にあつた氏が、氣色生々として將來への明るい期待を私に感ぜしめたのは、昨年十一月末であつた。これは殆んど未知の後繼者諸君に依つて、蹴球部二部優勝が實現せられたからであり、神宮球場の興奮感激が丁度マネジャー當時に在るが如く、氏に強い氣力を湧起せしめたからであつた。

思へば商大蹴球部は氏にとつて、過去長年身を忘れて育成せしめた愛兒であり、永遠に思ひ離す事の出來ぬ存在である。社會に出でゝ後も、その成不成は氏の神經に最も敏感に觸れてゐたが、遂に昨年その理想の姿（二部優勝）を見る事が出來たのである。

その當時氏の關係せられてゐたツェペリン航空事業計劃は、その經過が思はしくなく幾多の問題が前途に横たはつてゐたが、氏はこの新しい氣力を以て、今一度縱横の活躍を約束されたものであつた。

然しこの喜びも束の間であつた。私が最も恐れた三月三十日より三日早く、將來に諸の希望を殘されたまゝ逝かれて了つた。

雜司ヶ谷墓地埋葬に參列させて頂いて以來、一月二月が忙しい中に過ぎ去つたが、私の腦裡から氏は到底消し得ないものである。私は遠く蹴球部時代より、頭腦、才腕、人情等に就いては尊敬おく能はぬ處であつたが、共に社會生活の諸事象にもまるゝや、愈々氏の人格の輝きあるを知つた。健康と今少しの壽ありせば氏は必らず世に爲すところ多かつ

たであらう。三月二十五日の最後の打合せ（この時聲は殆んど立てられなくなつてゐたが、苦しい努力の下に語られた）で激勵されたまゝ、私は爲す所を知らない有樣である。氏の在らぬ事が無上に淋しく、關係事業に獨り乘出す氣力も失せてしまつた。

今後、航空事業も實現されやう。蹴球部も華かに活躍しやう。凡ては氏の去りし後に實を結んで行く。

艱難と苦心とを以て、その發展の基礎を作りし氏の功績といつたやうなものを時折考へさせられる。

（一〇、五、二五）

# 渡邊弘兄を悼む

本二　田島輝重

一部昇進の春を意義あらしむべく、三月下旬より私は埼玉縣松山に至り、荒井、熊澤の二君と部誌原稿募集の準備をしたり、松山中學校でボールを蹴つたりして居ました。

「此の葉書着き次第至急歸れ」との急報を松中グランドで受け取つた時は未だ何事が起つたのか見當もつかず、至極ノンビリ考へて居ました。

歸宅して知る渡邊弘兄の訃。一日違ひにて告別式にも參列出來ず、一日延ばしに歸宅をしぶつた事を今更に後悔しました。



渡邊弘兄が蹴球部へ捧げた熱情と勞力は、聞いた丈でも大したものです。

對國大に對拓大に商大が此の一戰こそといふ時には必らず見て下さつた。しかし私との關係は部誌が取持つ緣であつたと考へられます。

長瀨兄送別を記念して部誌創刊を決するや、未經驗の私は幾度か渡邊弘兄を訪れたものです。

長らく病床にあつてやせ衰へた兄の姿は完く健康な私と對比していた〳〵しい程でした。

然もその驚嘆すべき熱情は奔り出ては止まる所も知らず、部の過去將來等につき深夜迄、語り合つた事も幾度か、今尙目新しき記憶を殘して居ます。

蹴球部の過去を最も正確に語り得る者として渡邊兄の存在は貴重なものでした。將來、部史を編む場合の一助にもと一通りの筋を通すべく御願ひした部史の記述も今となつては得難い記錄となりました。

部創立二十年なり三十年なりを記念して、一橋蹴球部々史を一冊の書とすべく意氣込鋭く部誌編輯に當つた私も、弘氏逝〻と聞くや失望の餘りしばしは部誌第二號發刊の勇氣さへ失つてしまひました。

敬愛する兄の逝去は部の爲にも惜しまれます。昨夏否その以前より三科聯合の爲に、色々と御活動下され、商大チームの躍進の爲に、あらゆる努力を惜しまぬ先輩として、又前途多難の蹴球道を驅歩で進んで來た我部の相談相手として、益々重要な役割を演ずる人であつたのに。

渡邊弘兄亡き後は誰が正確な歷史を記述できませう。が、不幸中の幸か　正確な日誌は枕頭に過ぎし日を語つてゐま

す。

私に殘された唯一つの仕事は、部誌編輯であり、部史の刊行であります。獨力では不可能の事ではあり、代々の部誌編者に傳へて、當初の意圖を遂げ、弘兄の遺志たる部史の完成を見たいものと存じます。

私の故弘兄に捧げるものは、一卷の部史に過ぎたるものとてはないでせう。

更に部史內容を飾るべく全部員の努力の結實を靈前へ捧げて頂きたいのです。

來らん秋こそ!!實りの秋であつてほしいのです。

## ⑥ 泉の話

◎今度の夏休はさすがに皆張り切つてゐるらしい、水島大將は濱松一中の專任コーチで顏も眞黑になつてやつてる。新進金井迄が神戶一中でやつてると聞いて在京都部員も、張合がある。鈴木は靑師に、角田、田島は府立一商に大掛は附屬中に、荒井は松山でと皆ボールを蹴つてる。

◉吉田君も愈々傷が療つた樣で神戶へ歸りました。

◉重見君の御尊父逝去謹んで哀悼の意を表す。



逝きし先輩の記錄を辿りて

我が蹴球部を回顧す

——渡邊弘氏日記拔書——

# 今は亡き執筆者に代りて

編輯員　田島

昭和十年も春漸く微笑まんとする卯月を前にして突如、渡邊弘氏の訃報に接す。

蹴球部二十年史編纂刊行の下準備として資料の散逸を防ぎ、兼ねて在校部員先輩間の連絡の爲、昨春、故渡邊氏の御指導の下に誕生せし部誌も今や第二號を迎へんとするに當り、既に生みの親は亡し。

部史の資料とて殆んど氏の記錄記憶によるのみ氏の遺志を貫かん爲、令兄に御願ひし幸にして日誌の抜書を得たり。

不肖文才に乏しく、前號の如き名文に再生する事不可能なるを以て、此處に御令兄、抜書のまゝを載す。唯心付きしまゝに註又は感想を附さんとす。蛇足のそしりは免れざるも、幾分なりとも詳細を知らしめん爲なり。

之により部史の記錄幸に簡略乍ら一應部誌にまとめ得て生等喜びに堪へず。今更に、　故渡邊弘氏に感謝の念しきりにして、氏が生前、病床に約せし、觀戰記其他の側面觀察之を最早得べからざる事を想つては編者の心、曇らざるを得ず。之亦命なるか、果敢なしとも果敢なし。

以下展げらるゝ日誌に部活躍の跡をしのび諸兄よ銷夏の一日を過すと共に、故渡邊氏に心からの瞑悼を捧げられよ。

尙筆寫の勞を取られし御令兄誠氏に對しては全く感謝の外はなく、部誌第二號を謹んで　故弘氏に捧げ、秋の活躍を誓ふものなり。



## 昭和二年

一月二十二日

學校に至り豊田君に出會、昨日の豫算會議の模樣を聞く、百七十五圓見當ださうである。同君の努力を謝す。

二月十六日

獨逸語の時間終了後控室に於て豊田君と昭和二年度實行豫算を作成す。

二月二十六日

一時頃渡邊君より電話あり、差支へなくば高師へ一緒に行つてもらひたいとの事で二時少し前家を出る。池袋驛で會つてブラブラ出掛る。審判部の會議で要するに東齒と外語と何れが三部たるべきかの議論で高師の野澤氏を議長として議したが、なか〳〵まとまらず結局投票の結果勝率と敗率との比をとり、外語の方が少しよいため外語が二部に止る事となつた。

〔註〕渡邊君とは當時商大の誇る名ゴールキーパーにしてアストラに屬して居た

四月十二日

石神井に着くと黄君が居た。學校で豊田、惠藤其の他諸氏に會ふ。ボールを作り、掲示を書き、芝生で暫く休んで豊田、惠藤、酒井、西田君など〻歸る。神戸一中の橋本といふ人がフットボールをやるとの事。

四月二十七日

三時半より歡迎會を開催。豊田君開會の辭を述べ、次いで自分が挨拶をなし惠藤君の話があつて、しばし打寛いで豊田君の閉會の辭が濟んでから皆でボールを蹴る。豊田・惠藤・半澤・高橋・酒井・黄・栗山・小林・文・西田・前田・山根・橋本・(西川先に歸る)前田山根兩君の技なか〳〵さえたものである。

五月　四日

この時すでに天氣頗るよし、瀬社家君と二人で石神井

に行く。學院の人が來て居ないので皆練習して居た。五時より試合す。LW佐野L.I半澤C.F西川R.I高橋RW前田L.H橋本CH黄R.H酒井L.F西田R.F惠藤G.K小林　商大先蹴、直ちに學院のゴールを襲ひ、しばらくチャンスを繰返せども皆入らず。學院はR.W活躍目覺しかりしも西田の好防に數回の好機を皆無爲。二十八分黄ー半澤ー高橋と渡つた球を高橋の見事なシュート極り、一點を得。後半風上を利し學院大いに奮闘せしも、黄・酒井・西田・惠藤などの健闘にはゞみ、タイム前頃商大側大いに好機あれど遂にならずしてタイム。西田の妙技今更ながら驚くの外なし。兩翼亦よし、惠藤のフルも上出來だつた。

〔註〕學院とは當時二部に活躍した青山學院の事

五月七日

學校に行つて西村君と控室で休む。會計課から金を引き出してから大久保君と神田を歩き、神保町で同君と別れ石神井に行くべく省線に乘る。高田馬場にて石津君と乘り合せ、池袋で伊東君にも會ひ三人で石神井へ行く。グランド使用の件につき朝鮮キリスト青年會のア式蹴球部の人と共に學生課へ行つて談じ込む。濟んでから豊田、惠藤、西田君等に會ふ。十日高工十二日早大十四日高師附中と試合するとの事、伊藤、石津、豊田、津田四君と歸る。

五月十二日

石神井に行く。部室が非常に綺麗になつてゐた。早大の人が三時の電車で來たので、三時四十分頃から平岩氏レフェリーの下に早大先蹴で試合開始。LW惠藤L.I半澤C.F西川R.I高橋RW前田L.H酒井C.H西田R.H栗山L.F渡邊R.F黄G.K豊田・商大調子よく早大方を押し、チャンスは非常に多く就中西川・高橋のシュートは絶好であつたが何れも惜しい所で失點し、漸くタイム盡きんとした頃、朝倉のドリブルして進んだボールがゴール前ではずみ、バックの防備も空しくゴールインとなる。後半、伸、前田に代り、黄、西田とポヂションを交換するに及び、コムビネーションいよ〳〵惡く、早大は朝倉、横村、尹、玉井の連絡よく、バックは高師の當り目覺しくなり、後半始つてより續いて三點を入れられ、以後商大元氣全くなく、時々早大方を襲つたのみで前年の形勢は逆轉し四對零で敗る。西田の健闘を謝す。

五月二十日

登校して豊田君に會つたら、今日高等工業と試合があるとの事にて見物に行く積りにしてゐると、伊東君が來たから小牧君と三人で本村町を廻り、目黒で休み、一足先大岡山に至り、同所で少しブラ〳〵して高工グランドに行く。他の豫科の諸君すでにあり。四時より試合開始、高工先蹴。LW惠藤L.I半澤C.F西川R.I高橋RW橋本LH栗山C.H酒井R.H黄L.F西田R.F豊田G.K小林　商大の調子よく、再度好機あれども入らず、後半に及び數回の絶好のチャンスを逸してから、高工方有利であつたが、西田の奮闘は好くこれを抑へ、終に零對零で終る。伊東、小牧兩君は先に歸り（わざ〳〵應援に來られた事を謝す）他の諸君と共に懇親の意味を以て高工の人とグランドで菓子を食し、五時半頃ぶら〳〵歸る。惠藤君と池袋の喫茶店で休み七時頃歸宅す。

六月三日

四時より玉井氏レフェリーの下に早高先蹴にて試合開始。LW佐野L.I西川C.F半澤R.I高橋R.W文L.H惠藤C.H酒井R.H黄L.F西田R.F豊田G.K小林早高順當に押して出たが、酒井、西田の健闘によつて危機をまぬかる事數度。商大方もチャンスあれど高師の奮闘にこれを阻み、一進一退の中ハーフタイム。後半相變らず本田に依つてゴールをおびやかされることあつたが西田大いに努めよくボールを前に送つた。今日は案外前衛の連絡よく攻撃

に出て、殊に佐野善戰する中、高師足を負傷して退くや早高の主力失ひ、爲に惠藤のコーナキックを文シュートして一點を得るに至る。半頃より早高も元氣で一時チャンスありたるも、豊田危機を救ふ。タイム五分前頃高橋傷きたるも時間僅かのため十人で戰ふ。兩軍接戰裡に一對零で豫科勝つ。本田氏にコーチに來て呉れる樣願つたが、九月から一緒にやつてくれるとの事であつた。一同非常な元氣であつた。八日（水）には附屬中學と試合をやる由。何にても西田が來たといふ事は大偉力でなければならない。

六月十日

渡邊・森・豊田・近藤・足立・高田諸君とベンチに休んで時を過す。森・豊田兩君と神田を少しあるき神保町より市電にて附屬中學へ行く。四時半頃より法政西川氏レフェリーのもとに試合開始。LW惠藤 L.I西川 C.F半澤 R.I高橋 RW佐野 L.H栗山 C.H酒井 R.H豊田 L.F西田 R.F黄 G.K小林。附中先蹴。附中はその駿足と見事なコムビネーションに商大を惱ましたが、廿三分西川のシュートなりて商大一點を先取。一進一退で前半を了る。後半附中調子づき、西田健闘大いに努めたるも十八分二十五分と續いて得點し二對一を以て附中勝つ。試合後茶話會に臨む。

六月十一日

十二時半すぎ森君と學校を出て青山學院に行く。一同昨日の試合のため非常につかれてゐた樣だが、三時半頃より試合開始。LW惠藤 L.I西川 C.F半澤 R.I高橋 RW佐野 L.H栗山 C.H酒井 R.H豊田 L.F西田 R.F黄 G.K小林。學院先蹴。商大の陣形ならざる中早くも一點を擧ぐ。學院元氣付きたるも商大順調に押し、西川のシュートに一點を返す。後半商大全く學院を押し、幾度のチャンスあれど皆入らず。廿八分惠藤のシュートをセーブするところを半澤おどり込んで更に一點をあげ、二對一にて商大



勝つ。試合後松村君に會ひ小學校の話などす。

〔註〕 松村氏渡邊氏共に豊島師範附屬小學校の出

六月十五日

今日も非常に暑い日であつた。民法に出てすぐ歸りその足で山下君を訪問す。氷水を飲んで十二時頃同君とぶら〳〵出掛る。相變らず痛快な話をなす。池袋へ來たら惠藤佐野兩君を除く一同の人すでにあり、浦和驛で下車して自動車に乘ると辰野君が同車して居た。浦高ホールで休んで居ると惠藤佐野兩君が來る。三時五分細井氏レフェリーのもとに試合開始。LW佐野 L.I西川 C.F半澤 R.I高橋 RW山下 L.H栗山 C.H西田（黄） R.H豊田 L.F惠藤（西田） R.F黄（惠藤） G.K小林　商大先蹴　商大直ちに浦高ゴールを襲ひコーナーキックを得たれども成らず。浦高は風上を利用して攻めたがバックよく防ぐ。十二分右コーナーを得、山下のキック好適にて佐野のシュート見事に極り商大一點を得。その後浦高風上を利したるため、有利な地位に立つて壓迫したが、商大好防してハーフタイム。後半商大優勢に押したが、浦高も亦よく戰ひ商大方に危機あり。西田好防す。タイム前浦高キーパーのアウトと見えたためか半澤——浦高フル——キーパーと轉々するを、高橋チャーヂして更に一點を加へたるに、レフェリーこれをゴールキックと看做し、浦高のキック終るや直ちにタイムアップ。山下・高橋・栗山・西川・黄君と一休み一同を待てど來らず。ために自動車で浦和驛に至れば一同既にあり。今日の戰跡を語りつゝ歸る。

〔注〕 山下君は專門部の選手、駿足と突つ込みを持つてたさうだ。

九月十九日

ライオンベーカリーで晝食をとつて石神井へ行く。四時半より瀬社家君レフェリーのもとに目白との試合あり。LW惠藤（黄） L.I半澤 C.F西川 R.I渡邊 RW栗山 L.H酒井

C.H 西田 R.H 橋本 L.F 豊田（惠藤）R.F 黄（豊田）G.K 小林、商大先蹴と共に直ちに目白ゴールを襲ひ、渡邊のシュートをキーパー返すを西川シュートして先づ一點を擧げ、續いて西田の見事なロングシュートに一點を加へ、更に渡邊、栗山、西川と得點す。商大方一時一寸危機ありたるも小林好防す。後半商大コムビネーション大いに惡し。目白マウンテンボールを送れば、それが直角に曲りて思ひがけない一點を許す。渡邊シュートして一點を返し、目白なほ一點を得、西田の奮鬪實にめざましく、西田のためにチヤンスは幾回となく廻つて來た。タイム なほ存す。

西川シュートして七對二にて大勝す。

十月 二日

午後豊田君來訪し、ユニホームを持參し來る。かなり綺麗に出來上つてゐた。部の事に關しいろ〳〵話し合ひ四時頃辭去さる。

十月 五日

朝、行きがけ山下君の家に寄り今日の事を賴む。

スペイン語をすませて青師グラウンドに行く。四時廿分より對慶應戰を開始。雨降りてグラウンドコンデーション惡し。LW 惠藤 L.I 半澤 C.F 西川 R.I 高橋 RW 山下 L.H 栗山 C.H 酒井 R.H 豊田 L.F 西田 R.F 黄 G.K 小林　慶應キツクオフ慶應見事なコンビネーションで攻むれども後衛よく守る。兩軍接戰を續ける中、西川のシュートをキーパー返し、半澤、惠藤とチヤージ。効を奏し貴重な一點を得。商大危機ありたるもGKよく守つて入れしめず。後半慶應の攻擊益々鋭かりしも、商大よく鬪ひ遂に一對〇で勝つ。

文君わざ〳〵來て呉れた事を謝す。

〔感〕 往年の商大慶應の一戰 凱歌我に擧る。來らん秋の一戰に勝たんものかな。

十月 六日

六時より大日本体育會議の後協會本部に開催せられ



たる明治神宮競技ア式蹴球の主將會議に出席す。豊田君も少したつてやつて來た。渡邊、川村、板谷君に會ふNO十三を引いたら水戸高等學校と當つた。豊田君とモーリで休み八時半歸宅す。

十月 九日

本日は久しぶりで天氣晴朗、氣持頗るよし。七時頃家を出て山下君を訪問し、二人で池袋驛まで歩く。他の諸君と一緒になつて練馬の豊嶋園に行く。グランド全部使用は未だ不可能のため、最後の練習をなす。

九時五十分清水氏レフエリーのもとに神宮競技豫選の對水高戰開始。L.W 惠藤 L.I 半澤 C.F 西川 R.I 高橋 RW 山下 L.H 栗山 C.H 酒井 R.H 豊田 L.F 西田 R.F 黄 G.K 小林。水高先蹴。始めからどうかと思つたが商大好く戰ひ、殊に前半の終頃數回のチヤンスあれど遂に二對零にて敗る。この戰負けたりと雖も少しも恥づる所なく、堂々と而も接戰を演じたる事は大いに賞すべし。松本 城島 平松 伊東 金田君等來られて試合を終りまで見、豊島園の中をブラ〳〵して伊東、惠藤、豊田、酒井四君と歸る。

十一月三日

十二時家を出て山下君を訪問し、二人で出掛て高田馬場より西武鐵道に乘る。栗山君も同車す。人數少きため氣の毒だつたが高橋君に出て貰ふ。レフエリー笠松氏。明大先蹴。LW 惠藤 L.I 半澤 C.F 西川 R.I 高橋 RW 山下 LH 栗山 C.H 西田 R.H 酒井 L.F 渡邊 R.F 黄 G.K 豊田。明大レフトより運んだボールをバツクミスし、R.I のシュートにゴールを許す。その後更にキーパーのミスに一點を許し。前半二點のリードをさる。商大方にもチヤンスあれど遂に無爲、後半西田のマウンテンボールを西川チヤージして一點を返したが、タイム前更に一點を加へられ三對一にて今年も優勝の機を失ふ。當日多數應援に來られた諸君に深謝す。此から何年先になるかと言ふ事を考へれば涙潸然たるあり。

〔註〕 二部優勝を失する事幾度、渡邊氏の心中察するに

餘りあり。

十一月七日

午後山下君を訪ひ、同君及び佐伯君と二人で青學に行く。三時より城田氏レフェリーのもとに對青山學院戰を行ふ。L.W惠藤L.I半澤C.F西川R.I山下RW黄L.H栗山C.H酒井R.H豊田L.F西田R.F渡邊G.K小林。商大始めから好調にして六分右コーナーキックより亂戰中山下のシュートに一點十分山下よりのパスを安野シュートして更に一點。この調子ならば何點入るかと思はれたが以後學院頑張り、却つて趙のパスを可知シュートして一點を得らる。後半趙のヘデングに同點となり、大いに氣をもましたが、學院陣前の反則よりフリーキックを得て亂戰となり安野亂中を潜つてシュートし三對二にて辛勝す。當日伊東、小牧、石澤、城島諸君をはじめ應援者多かりしを謝す。

〔註〕 安野とは半澤君の事安野家をついだ譯

十一月十七日

一時半の電車にて石神井へ行く。中途より大降雨あり、雹と思はれた。三時廿分多島氏レフェリーのもとに對明藥戰開始。LW前田L.I安野C.F西川R.I高橋RW山下L.H栗山C.H酒井R.H豊田L.F西田R.F渡邊GK小林　商大先蹴と共に明藥を壓し、再三再四チヤンスあれど明藥バック好防し、商大方のシュート不正確なるため得點なし、然るにチヤンス無かりし明藥はR.Fの好蹴に左側より運んだ球が陣前の亂戰となり、その隙を見てR.I笠松のシュートに一點を先取さる。この直後安野のシュートが右ポールに當つてはね返る所を、西川すかさずシュートして一點を返す。後半接戰を續ける中C.F笠原のシュートに明藥方更に一點を得、その後商大あせるのみにて西田R.Iに出たるも遂に得點なく、リーグ戰に再び黑星を印せられたのは實に遺憾であつた。



十一月廿日

九時半の電車で石神井へ行く。惠藤、鈴木、高橋(義)君と同車。同じ汽車に多島、須田兩君も乘合せる、外語の人が遲く來たので十時半から開始の筈を三十分のばして十一時より始めた。レフェリー多島氏LW前田L.I安野C.F西川R.I高橋(義)RW山下L.H栗山C.H酒井R.H豊田L.F西田R.F惠藤G.K小林商大先蹴。始めより優勢を示したるも外語一寸逆襲に出た。が安野のブッシュに一點を先取す。その後は商大壓迫裡に前半を終る。後半相變らず優勢に、西川・安野・西川と點を重ね、大勢こゝに決す。是に於て外語捨身に出でたるため、商大苦戰に陷れども、バック好防して壓し返し、西川のパスを山下見事なるシュートにゴールを落し五對零にて大勝す。

十一月廿四日

朝伊東君來訪。色々な話に花が咲き、今日二人で對農大戰を見に行く筈だつたが、風ある爲め已むなく止め、伊東君によく自分なき時の事を賴み二時頃同君辭去。夜七時頃豊田君來訪、今日の對農大戰の報告に來て呉れた。零對零のドロンゲームの由、非常に殘念であつた。部の事に就て話し合ひ九時頃辭去。

〔註〕 かくてリーグ戰々績は

對明大一—三　敗　對青學三—二勝
對明藥一—二　敗　對外語五—〇勝
對農大〇—〇　分
計五戰　二勝　二敗　一分　五點

前年二勝二分一敗にて慶應に勝を譲り、此の年再び優勝を逸す。
明大優勝青學最下位、一部最下位高師

## 昭和三年

一月二日

松本君より電話あり、今年のインターハイに豫科の

不出場に就てお互に慨嘆す。

〔註〕この年不出場なりし爲遂に翌年より、參加招待狀來らず、大會より縁を切る。高商大會なき時とて嘆ずるも宜なり。

四月　廿日

一時半より豊田君と共に豫算會議に出席する。北條、村野の兩名暴戾の說を述ぶるが故に斷然本科會のア式蹴球部委員長を辭することゝし、此の旨理事會に申告す。歸り瀨社家君の家へ出かけて豫算會議の模樣を話し、同君を後繼委員長として代つて次回より出席して貰ふ事とす。

四月卅一日

登校の際川村氏に出會す。午後石神井に開催さるべきア式蹴球部の歡迎會に出席すべく森君と出掛る。沿線のステーションの立派になつたのに驚く。歡迎會出席者、瀨社家、森●豊●西川●酒井●栗山●高橋(啓)文●黄●西田●橋本●佐野●高橋(義)前田●長瀨●石田●吉村●岡田●牧野●其の他諸君。今年は有望の樣で嬉しい。

五月十五日

降雨があつたが止みかゝつたので對高師戰をなすべく準備を具へる。渡邊、伊東、小田三君と明菓で休み渡邊と共に同君宅へ行き三十分程休んで高師グランドへ行く。伊東君すでにあり、しばらくして惠藤、豊田兩君來り、又望月、小澤、鈴木、加藤、鵜飼其の他の來援あり。四時半より商大キツクオフに試合開始。レフエリー小野氏　LW佐野　L.I黄　C.F吉村　R.I長瀨　RW西川　L.H栗山　C.H酒井　R.H山根　L.F西田　R.F豊田　G.K渡邊。前半一點得らる。後半渡邊前に出で豊田G.Kとなつたが戰備とゝのはず三對零にて敗る。

六月　一日

外國爲替に出席後伊東小田二君とぶらつく。一旦歸校し晝食をすませ瀨社家君に本日の試合の事を告



げ——尙酒井君等に先に行つて貰ふ——一寸家に寄りユニフオーム其の他を持參し石神井に行く。丁度立教の人と乘り合せ松岡、白石、田村諸君に出會す。三時四十分試合開始　LW佐野　L.I安野　C.F吉村　R.I長瀨　RW西川　L.H栗山　C.H酒井　R.H豊田　L.F西田　R.F橋本(山根)　G.K大熊　商大キツクオフ、概して商大優勝チヤンス多けれど把握する所なく激戰の中にハーフタイム。後半キツクオフの後立教直ちに商大ゴールを襲へど成らず。其の後商大は長瀨の好球に一點を奪ふ。幾多のチヤンスを無にする中、立教方一點を返し、遂に一對一のドロンゲームに終る。この日安部君來り本年今一度部の爲に奮戰せらるゝ由、同君に對し同情すると共に期待する所も大である。

六月十六日

午前中家に居る。雨がやんだ爲、家を出て浦和に行く二時半より試合開始、L.W佐野　L.I安野　C.F西川　R.I長瀨　RW黄　L.H栗山　C.H酒井　R.H山根(橋本)　L.F豊田　R.F西田　G.K大熊、結局三對〇で敗る。自分がレフエリーをやりオフサイドが二度もあつたのを知りつゝも取る事が出來なかつたのは、止むを得なかつたがすべて好結果にあらず。

六月二十四日

レフエリー高山氏

黄　野川
安　瀨
西　長　熊
大　栗　山井
　酒　根(橋本)
　山　田
　豊　田
　西　永野(中付G.K)

前半接戰を演じたが後半帝大〇●B二點を入れ二對〇にて帝大勝つ。

七月七日

三時半より對横商戰開始　LW佐野　L.I栗山(加藤)　L.F西川(加藤)　R.I長瀨　RW藤原　L.H長谷川(栗山)　L.H酒井　R.H豊田(長谷川)　L.F西田(豊田)　R.F橋本(西田)　G.K高橋、前半栗山、西川のシュートに二點、タイム直前一點を得らる。後半專門部の兩加藤君に見物をたのみ兩軍得點なく、二對一にて商大勝つ。懇親會に列席し、五時半散會。途

中來週火曜日に懇親試合の代りに懇親會をする事とした。

九月二十一日

一度歸宅し、夕食後朝日新聞社にリーグ審判部會議に出席す。

九月廿五日

四時半より高師先蹴の下に試合開始 LW佐野(黑田)L.I吉村 C.F高橋 R.I長瀨 RW西川 L.H黃 C.H酒井 R.H小西(安野)L.F西田 R.F小川

前半二回コーナーキックよく、一回は長瀨のヘッディング、一回は吉村のシュートに二點を得たが後半になり商大疲勞し三點を得られ三對二の接戰にて敗る。

〔補註〕 GKは豊田氏と推測さる

九月廿九日

十二時半より對M・T・R戰を開始、橋本君も後半より來る。

LW栗山 L.I吉村 C.F高橋 R.I長瀨 RW西川 L.H平岡 C.H酒井 R.H小西 L.F西田 R.F小川 G.K豊田。四對〇にて大敗す。松本(正)君の弟に會ふ。次のW・M・W對向陵は延長戰後半にて一點を得て、W・M・W勝ち、在京朝鮮Y・M・Cとアストラは二對一にて前者勝ち明大對慶應B・R・Bは一點明大がとつたところで歸る。山内君にも會ふ。

十月三日

午後家を出て帝大グランドに行く。竹腰氏に會ひ本日來るべきはずなるを話す。しばらくブラ〳〵して居ると小川、藤原兩加藤等來り、又西田君も來たのに豫科のもの來らず。よつて石神井に電話をかけたるところ何れも歸つたよしにて一同の不信を難じつゝもやむなく專門部の人に話をし、乘宿氏に謝罪し他日を期して別れた。望月君も一寸顏を出してくれた。今後かやうな事なき樣、注意するのが自分の役目だと考へ乍ら憤



然と一人歸路につく。

十月廿七日

午後電車にて石神井へ行く。石神井下車。すると豊田橋本兩君あり、登校し、少憩の後一同支度をとゝのへる。三時十五分より對靜岡高校戰を開始。

LW安野 L.I吉村 C.F高橋 R.I長瀨 RW西川 L.H栗山 C.H酒井 R.H黃 L.F西田 R.F藤井 G.K豊田。

レフエリー前半林、後半武井氏奥山君も來る。靜岡前半二點後半に一點を入れた反して、商大後半に長瀨が一點を入れたるのみ。試合後茶話會をやる。

十一月三日

二時對外語戰開始、レフエリー安部氏

LW安野 L.I吉村 C.F高橋 R.I長瀨 RW西川 L.H栗山 C.H酒井 R.H豊田 (山根)L.F西田 R.F山根(豊田)G.K小林

前半外語一點後半更に外語一點を入れたが商大よくがんばり三點をかへし三對二にて勝つ。渡邊、伊東、望月、鵜飼君來る。又出場選手以外に藤井君も來た。

〔註〕 藤井君は專門部全一橋の選手である。

十一月十日

今日一時曇れりといへども快晴となる。高圓寺球場にて十一時より對明藥戰を行ふ。

LW安野 L.I吉村 C.F高橋 R.I長瀨 RW西川 L.H栗山 C.H酒井 R.H豊田 L.F西田 R.F黃 G.K小林

前半栗山のシュートにより一對〇にて勝つ。望月、鵜飼、星野君來援す。星野君とぶらつく。山内君に出會ふ。

十一月十七日

成城高校グランドに行く。二時十分高橋氏レフエリーのもとに對農大戰開始、

LW安野 L.I吉村 L.F高橋 R.I長瀨 RW西川 L.H栗山 C.H酒井 R.H豊田

L.F西田
R.F黄
G.K渡邊

農大先蹴前半一進一退の後に終る。後半よく攻め入つたが遂に得點なく結局〇對〇のドロンゲームに終る。小川君わざ〳〵來らる。小林君も來た。本年も優勝の夢絶え眞に遺憾である。

十一月二十日

豊田君と共に石神井に行く。途中練馬にて酒井君等に會ひ、今日附中とやるとの事、直に引返す。一旦歸宅してすぐ出かける。四時少し過ぎ、試合開始。

LW安野
L.I吉村
C.F西川
R.I長瀬
RW篠原
L.H栗山
C.H酒井
R.H橋本
L.F豊田
R.F西田
G.K小林

グランドノコンディション惡く前半附中一點、後半長瀬のシュートに一點を返したが三對一にて敗る。試合後茶話會に出席す。

十一月廿二日

放課後豊田君と石神井に行く、四時より試合開始、

商大先蹴

L.W安野(西田)
L.I吉村
C.F高橋
R.I長瀬
RW西川
L.H酒井(栗山)
L.H西田(酒井)
R.H小林
L.F栗山(安野)
R.F豊田
G.K仁木

前半横商一點を得。その後商大斷然壓迫したるも入らず、後半西川、長瀬、西川と得點し三對一にて勝つ。松本君來らる。

十一月二十四日

練習終了後浦高の人が來たので三時十分前より試合をやる。

L.W安野
L.I吉村
C.F高橋
R.I長瀬
R.W西川
L.H栗山
C.H酒井
R.H篠原
L.F西山
R.F豊田
G.K小林

前半各〇後半各一点のドロンゲームに終る。



十一月廿五日

九時半頃家を出て帝大グランドに行く。十時半より中島(實)氏レフェリーの下に對帝大L・B・戰開始。

L.W安野
L.I吉村
C.F高橋
R.I西川
R.W篠原(黄)
L.H栗山
C.H酒井
R.H黄(篠原)
L.F西田
R.F豊田
G.K小林

前半一点を得らる。後半三点を得らる。商大は安野のチャージ効を奏して一点を返したるのみ。試合を見るに力は互角であつたが昨日の疲勞の爲スコアは大きかつた。試合後乗富、新城氏等の招待にあづかりホールで茶菓の饗應があつた。

十一月廿七日

紅葉屋で晝食をとり西川、高橋、吉村君と皆より一台おくれて東高へ行つた。がかへつて一足早かつた。三時より吉田氏レフェリーの下に對東高戰開始。栗山君來らざるにより左の如きメンバーを以て始む。橋本君も來た。

L.W安野
L.I吉村
C.F高橋
R.I長瀬
R.W西川
L.H篠原
C.H酒井
R.H豊田
L.F西田
R.F黄
G.K渡邊

接戰を演じ後半二点を得られたが西川之にむくひたるも遂に二對一にて敗る。川村(アストラ)氏來る。吉田、齋藤兩氏より本日會議に問題となれる議題を與へられたが之は豊田、酒井兩君にたのむ。

〔註〕本年度リーグ戰々績

對高師二—三敗　對外語三—二勝
對明樂一—〇勝　對農大〇—〇分
對東高一—二敗
二勝二敗一分

## 昭和四年

二月廿七日

豊田君より本年度リーグの副幹事に當選された旨を聞く。

三月九日

午後五時十五分頃家を出る。池袋驛で長瀨君と一緒になり新宿下車途中西川君に出會ひ、共に魚銀へ行く。酒井君先にあり、すでにして平松、惠藤、豊田、高橋吉村、西田、篠原君等續いて來る。當日參會者如左。

松本、川村、高橋(朝)、檜垣、瀨社家、城島、豊田
平松、惠藤、酒井、西田、西川、高橋、長瀨、吉村
篠原、

今年の健闘を誓ふ。瀨社家君の送別會としてすこぶる盛であつた。寫眞をとる。九時頃高橋重彌君來る。十一時少し前、自分が先づ起つて、瀨社家君送別の辭をのべ、續いて、川村、高橋、松本、檜垣、四先輩の祝辭並びに激勵の辭、瀨社家君の謝辭あり、言々涙を以て我等の肺腑をつく。盛會裡に散會したのが十二時少し前。

三月十二日

西田君より手紙來り、豫科の豫算額百九十四圓三十錢なるべき旨通知さる。同君の努力を謝す。

四月十九日

午後歡迎會に出席する爲に三時池袋驛發の電車で石神井に行く。本日出席者如左。

豊田、高橋、西川、城島、西田、橋本、藤井、勝田
永田、長瀨、吉村、仁木、阿部、丸尾、後藤、田中
佐原、二階堂、上野、高橋、高野、吉野の諸君、

丁度會が始まつて居るところだつた。一場の挨拶をなす。四時半頃散會す。

四月二十七日

御茶の水より省線に乘りその足で直ちに石神井に行く午後二時半より豫科對武高のア式戰のレフェリーをやる。

LW丸尾 L.I阿部 C.F吉村 R.I長瀨 RW佐原 L.H田中 C.H西田 R.H永田



(仁木)L.F二階堂 R.F藤井(橋木)G.K後藤

二對〇にて敗る。

〔註〕最初の武高戰なり

五月五日

帝大グランドに行く。十時半奥野氏レフェリーの下に對帝大L・B・戰をなす。丸尾(高橋)阿部、吉村、長瀨、佐原、栗山、酒井、豊田、西田、二階堂、後藤。兩軍得点なく終る。尙仁木、橋木、永田、西川君等來る。

後でO・B對一高の試合を見る。三對一でO・Bがリードして居る所まで見た。

五月十二日

帝大グランドに行く。一時間許り前に行つたのでしばらく休む。十一時より奥野氏レフェリーの下に對L・B戰開始、前半十人、丸尾、阿部、高橋、長瀨(RW佐原後半より)永田(田中)二階堂、仁木、西田、酒井(橋木)豊田(後藤)前半一点を得られ、後半高橋のシュートに一点をかへし、後再び一点を取られたが、更に二階堂のシュートに同点。遂に二對二にて終る。

五月十九日

豫科の記念祭に行く。午前ア式蹴球の試合をなす。スコア二對一卽ち豫科軍勝つ。

六月十四日

二時の電車で石神井に行く。明日の相談會をやる。

出席者、

豊田、西田、永田、勝田、橋木、長瀨、吉村、仁木
田中、篠原、二階堂、後藤、阿部、丸尾、佐原。岸山氏も出席せられ、西田君の挨拶、岸山氏の明日の試合に對する注意の後、自分も立つて一場の挨拶をなす。次に豊田君の激勵の辭あり、田中君起つて最善の努力を盡すべき旨誓ひ、熱談や明日の注意などして五

時頃散會。

六日十五日

一度石神井に行く。鵜飼君始め豫科の人達と豫科を出る。池袋で一同に落ち合ふ。浦高に至り日日新聞社寄贈銀杯をあづけ、西田、藤井君と武村先生、小野澤先生始め理事の人及び竹内、山下君等に會議室で會ふ。三時半より岸山氏レフェリーの下に（ラインスメン阿部、豊田）第一回春季定期戰を開く。豫科軍の健闘甲斐なく、前半四点後半三点を入れられ、都合七對〇にて敗れ、カップは武村先生より浦高の手に渡さる。後懇親會をなす。苦闘二ケ月の努力も空しく、此處に敗れたりといへども練習不足の爲ならず、未だチームの形をなさざりし爲の敗北なれば止むを得ず。

そゞろ豫科の人に同情す。

〔註〕岸山氏は帝大の名選手當時商大をコーチす然も第一回浦高定期戰に敗る。豫科の無念想ふべし。

七月六日

夕食後部の會に出席すべく家を出る。萬世橋下車、中川牛肉店の所在を聞き同所に至る。出席者

豊田、酒井、高橋、西田、橋本、永田、勝田、藤井吉村、長瀬、後藤、二階堂、田中、阿部、丸尾、岡部、小橋、佐原

すこぶる盛會酒井、吉村、後藤君等に後事をよく話し且つ賴む。

十月十日

豊田君より昨日の青學戰の通知に接す。

二對二の由

〔註〕リーグ戰本年度前半は渡邊氏最高學年にあり部の仕事も既に他に委せ且つ病弱の爲か、詳細な記錄なし、來年の部誌に豊田氏にでも改めて書いて頂くつもりなり。

十月廿五日

橋で吉村、岡部兩君に出會、本日の試合の模樣を聞く



〇ー〇のドロンゲームの由。

十一月十一日

二時學校を出て一高に至る。レフェリー炭竜氏

L.W 丸尾 L.I 後藤 C.F 吉村 R.I 高橋 RW 長瀬 L.H 田中 C.H 栗山 R.H 佐原
L.F 西田 R.F 豊田 G.K 岡部

後半より栗山ぬける。酒井君と見物す。

八對〇にて大敗。

十一月十六日

午後家を出て石神井に行く。正に三時、阿久津先生一場の挨拶の後、船岡氏レフェリーのもとに商大豫科先蹴對浦高戰開始、

LW 丸尾 L.I 後藤 C.F 吉村 R.I 佐原 RW 長瀬 L.H 永田 C.H 二階堂 R.H 田中 L.F 西田 R.F 橋本 G.K 岡部

前半三對一とリード、後半更に一点を返さる。結局三對二の接戰にて豫科勝ち、阿久津先生より東日寄贈の優勝盃を商豫主將西田に與へらる。

終つて一同食堂にあつまり、夕食を共にす。

自分は一場の挨拶をのべたゞちに歸る。

十一月二十二日

午後東高へ行く。二時四十分より高橋氏レフェリーの下に對東高戰開始、

LW 丸尾 L.I 高橋 C.F 吉村 R.I 佐原 RW 長瀬 L.H 栗山 C.H 二階堂 R.H 田中 L.F 西田 R.F 豊田 G.K 岡部

前半十八分高橋よりのパスを長瀬クリーン、シュートを放つて一点を先取、後半三十七分一点を返され結局一對一のドロンゲーム。

十一月廿四日

十時十五分の電車で石神井に行く。部の記念撮影をなし直ちに（十一時半）對水高戰を開始、四對一（長瀬のヘッディング）にて敗る。阿久津先生はじめ學友諸君と見物す終つて栗山、高橋等と種々批判す。

L.W 丸尾 L.I 高橋 C.F 吉村 R.I 佐原 RW 長瀬 L.H 粟山 C.H 二階堂 R.H 田中 L.F 西田 R.F 豊田 G.K 岡部

## 昭和五年

二月一日

四時半すぎ人力車にて家を出て、ア式蹴球部の懇親會に出席。誰も來ていなかつたので、しばらく休んで居ると後藤君しばらくして丸尾、藤井君等來る。本日盛會にて會するもの、

川村、渡邊、城島、森、近藤、江澤、豊田、惠藤、鈴木、安野、高橋、高橋、西川、栗山、酒井、西田勝田、橋本、永田、長瀬、丸尾、後藤、佐原、阿部

（藤井君急用の爲宴會に出席せずに歸らる）等の諸君二十六人の多きに及び、豊田君の挨拶、自分の謝辞近藤君と保田の追憶、本科一年生及豫科生等に後事をたのみ、又伊東、城島君とも大いに快談し時をすごす。

三月十七日

豊田君より注意ありて、佐藤先生に御目にかゝり、西田、佐原、長瀬、阿部、後藤、勝田君等にも會ふ。長瀬君より豫科の豫算二百一圓七十錢の由きく。城島君とも一寸はなす。

三月廿八日

九時十五分前頃家を出て新宿で城島君と落合ひ、東京驛に渡邊君の歐米出發を見送る。

〔註〕以上にて渡邊氏在學中の記錄を終へる。

## 昭和六年　なし

## 昭和七年

十一月十二日

池袋より武藏野電車にのり石神井下車、清水組グラウンドに行く。商大對拓大の試合は午後二時半より開始、前半商大3拓大0、後半商大0拓大3、結局3對3にて對拓大は引分けとなる。西田、長瀬、二階堂、後藤諸君其の他部員諸君に會ひ、挨拶をなし先に歸る。



## 昭和八年

四月十六日

七時四十分頃長瀬君來訪、部三科聯合についての話及び熱談時餘。十一時頃辭去。

七月九日

豫科へ行く。記念寫眞を撮影し、本科豫科の補欠對豫科の試合のレフェリーをやる。三對一で豫科軍勝つ

十月二日

夜、長瀬君來訪、本日の對國大戰は五對一にて優勝せし由、大いに激勵し猶部の事を話し八時頃辭去す。

十月十二日

八時頃、長瀬君來訪、部の基金についての相談を受け十時少し前辭去さる。

十一月十九日

澁谷驛下車、玉川電車にのりかへ、三軒茶屋下車、明藥グランドに至り、商大對慈大の試合を見物の爲め也すでに二十五分經過、前半六對一後半二對〇、合計八對一にて商大大勝。松本、豊田兩氏亦來らる。

十一月廿五日

夜十一時少し前、長瀬君より速達あり、本日の對工大戰により三部で優勝せる旨を知る。一同の努力を謝す

對國大六——一にて勝
〃日齒六——四にて勝
〃中大二——〇にて勝
〃慈大八——一にて勝
〃工大八——一にて勝

即ち五戰五勝、全勝十点

## 昭和九年

五月廿三日

夜、商大蹴球部田島君來訪、部史を編纂するにつき原稿をもらひ度しとの事に快諾を與ふ。猶部の事について話し合ひ十時少し前辭去せらる。

六月二十八日

夜七時頃、田島君來訪、部誌の件、部の事情からシーズンに處すべき方策其他要談し十時頃辭去さる。

七月十四日

午前十一時少し前、田島君來訪、部誌に關した其後の報告並びに種々なる懇談に入り十二時廿分頃辭去さる。

七月廿五日

一時十分前頃、三好君來訪、蹴球部三科聯合に關する件につき約一時間談合し二時十分前頃辭去さる。猶同君との會見によつて更に具体的方法を講ずる事とした。

八月三日

二時少し前、神野、田島兩君來訪、對專門部關係について要談し、猶種々懇談をとげ五時すぎに辭去さる。

話の泉 ⑦

⊙秋の合宿には九州から長瀬先輩が見えます。神野、小西、二階堂の三人を醉ひ倒したからと云つて、我々を練習で倒す事は難しい。まあ反對に往年の名手長瀬ともあらうものがノビなけりやいゝがと心配してる奴もゐますよ。



# 第一回蹴球技術指導講習會

## 參加報告記

1 蹴球技術　蹴球
2 戰術　蹴球
3 ゴールキーパー　蹴球

# 第一回蹴球技術指導講習會

# 參加報告記

1 蹴球技術論

2 戰術論

3 ゴールキーパー論

# 序

本二一　田島輝重

此の一文は森田、神野二氏に御賴みしたのですが多忙の事とて遂に原稿が頂けず、不肖をも顧みず拙文を綴る事にしました。讀んで多少なりとも參考になれば講師の爲であり、くだらないものでしたら筆者の爲と思つて下さい。尙七月の第二次講習會には私は不幸にして參加出來ず、內容を傳へ得ませんが恐らくは誰か（水島氏でも）が御書き下さる事と期待してゐます。

# 蹴　球　技　術　論

## I、体　　操

A. Warming up 及 Cooling down として

(イ) 心臓刺戟の少い部分から始めて

(ロ) 全身に亘り、然る後身体の廻轉、屈伸に移り

(ハ) 再び元の輕い運動に移つて止む

B. 蹴球に適する身体を育成する目的には

(イ) 柔軟可動性

(ロ) 馬　　力

(ハ) 彈　　力

(ニ) 敏活を主要目的とし、更に

各人單獨で行ふもの

二人以上の協力に依るもの、に分類出來る。

◎ 体操は個人個人で努むべきであるが、團体で行ふ方が興味がある。

◎ 良く訓練された身体を持つことは、廣範圍に亘つて利益がある。

## Ⅱ、補助運動

A 縄飛び

○ 彈力を持つ身体、輕い Step（身輕に動く）を作るのに有効

○ 指導者が計時して或時間强制的にやるとよい。

○ 各種の跳び方を併用すると良いが特に脚を高く揚げ腕を後に廻す方法が推奨される。

B Hurdling

○ 種々の姿勢を執つて然も平衡を失しない様になる（平衡感とでも云ふか）ために。

C Medecine ball

○ 馬力と柔軟性を得るために

D 其他

○ 指導者の誘導に從つて前后左右に輕く Step を踏むことは突嗟に位置を移動して然も安定を得るために。

○ 幅跳び、高跳び等は彈力を得るために。

○ 劍道は敏捷さと正確な視力のために、柔道は馬力に、登山は腰や關節の力及び忍耐力の養成に良い。

## Ⅲ、Running

急ピッチのDashが強くなればKickに馬力が加はり　Tackleと「寄り」(相手との間を詰めること)が鋭くなり等々の技術的な力を得、戰術上の利益も多い。又不撓不屈の精神を試合の上に表はすには之と共に耐久走力が必要である。現在他の技術に比較して走力は低いと考へられる故その養成は目下の喫緊事である。

A　短距離疾走　　20米乃至30米

B　長離距走　　3乃至6Miles

C　疾走——緩走——疾走——急停止——等

D　疾走力方向轉換、「切れ込み」のために

　　○　地面に線を引いて其の上を走る

　　○　障害物を置にて其間を縫ふ。

## Ⅲ、個人的基礎技術の練習

(注　意)　「良い型を研究すること」

「數をかけて、知るだけでなく　体得しものにすること」

「反省し工夫を怠らぬこと」

A　Kick

○　Timing——ballの中心にあたる様に、又球にあたる瞬間に蹴り脚に力が入る様。

○ 立ち脚と球との距離、間隔は可成近く

○ 立ち脚の方向と蹴る方向とは一致する様

○ 体重を常に球の上にかけよ。而して立ち脚に托する様

○ 原則として地面に平行な運動を長くする（Follow through）——立ち脚の膝を曲げる

（膝に彈力性を持たせる）

○ 球の强さ、正確さ、Kick前后の動作の滑らかな連絡

1 Instep kick

型　胸——腹——腿——脛と順次上体から突き出す。

2 Volley kick

高い球に對しては蹴り脚の膝を屈げて球の高さを調節

3 Outside kick

kick として及 Push してパスに用ふ

4 Inside kick

（イ） 足前部での

廻轉を與へて Pass を受け易くするのに、

Curve をつけるのに

（ロ） 足後部での

腰及脚の廻轉、Pass 及正確な shoot に　（腰をひねる事が大切）

5 足尖での Kick (Toe－kick)

Pass に

Corner kick等の際に Instep kick や Inside kick等と異なる性質の球を蹴る必要のある場合に用ふ

6 踵での Kick

疾走し乍ら Back pass するのに用ひられるがその必要は現在のところ稀である。

B Dribbling

○ 蹴つて走るのではくて球を推し乍ら走る感じ

○ 狀況を觀察出來る姿勢

○ 小さい球を（例硬式庭球用球）使つて「推す」觸感を出す

（イ） 球に觸れる部位による區別

1 足の甲、脚、身体の正面での Dribble

2 足の内側で――廻り込むときに　――正確な Feed の前に

3 足の外側で――相手と球との間に自分を入れる

(ロ) Dribble 中の方向轉換

腕を振つて腰の捻轉を助ける

Side—stepの利用

練習は障碍を置き種々の想定をして行ふ

1 Speedy dribble

Boundさせ乍ら Dribbleする事も出來なければならぬ。

2 相手を外す技術

(一) 突切る

(二) 急停止し球を引つかけて

(三) Kickすると見せて

(四) 變則Step 左○ 右○ → 右○ 左○

(五) 肩を入れて廻りこむ

C Tackle

Tackleには三段の經過がある「間を詰める」と「決定動作」と「善后處置」である。

1 間を詰めること

大股で近寄ると逆を取られ易いから小刻に鋭く近づく。その間或事情でそれ以上近ずき得ない場

合が生じ得るがその様な場合に對峙する構へ（兩足を開いて構へるのはよくない）は半眼に。然して決定動作に移り得る距離卽ち自分の「間あひ」を知らなければならぬ。

2　決定動作

決定動作は普通身体での Charge を伴ふが、これは最も勇猛果敢に行ふべきである。相手の正面から行ふか、横からか又は相手との間隔によつて種々方法に差違が出て來る。所謂 Sliding tackle は最も遠距離から行ふ場合である。

3　前后處置

成功したら球と相手との間に自分を入れて球を適宜處理し、外れたら腕を振り旋廻を助けて追走する。轉倒した場合には其後の起立を早くして追走或は歸陣する。

D　Heading

○　Kick と全様　強く正確に。　　Timing を注意する

○　最後の瞬間まで球を正視する。

○　突き上げては不可。

○　身体の運動順序は Instep kick の逆で下から上に移る。

（球に觸れる部位）

前額<br>横額 ＞ 各種の方向に ＜ 足を地につけて<br>Jump して

E　球の止め方

球を止めると云つても完全に足の下に抑へて了ふ事は必要ではなく、球に Follow する爲に Step する必要のない近い範圍内に Ballを殺せば良い。Ballを殺すのには球に慣れて「かん」を得るのが必須。

（球を止める部位）

1　胸、　2　腹、　3　脚、　4　足＜裏 横

F　球の受け方

色々の方向から來る球、色々の性質——强さ、高低等——の球を受けて、唯單に止める丈では不充分であつて受ける動作で滑らかに、戰術上望ましい方向に進む動きを取らねばならぬ。

操球の非常に巧妙なものでも可なり困難な場合があるから受け方だけをとり出して練習する必要がある。　（主としてF.Wに）

★　とり出して練習する場合には總て豫め出る先を決定して置く事。

1　先づ立つて居て受け易い Passを貰つて

2　仝じく强く蹴つて貰つたり　困難な球を投げて貰つて

3　走り乍ら上の事を、

4　直く前に人を立てゝ。

G Shooting

○ Shooting そのものは Kick に熟達したものにはさ程困難でない。 唯

1. Goal 及 Goal keeper を見ないで、或る「かん」により Goal の隅及び Keeper の逆を衝く事が出來る様になる事。

2. 不得意な球をも Shoot 出來る様にする事。

3. Pass を受けて Dribble から滑かに Shoot 出來る様にする事の爲に數をかける必要がある。

(練習方法)

○ 容易な球から順次に、

(練習様式)

○ 通常 Back の Feeding, Passing, Dribbling 等と組合せた形式でする。

H Shouldering

Shouldering は Tackle と云ふよりも、相手の Dribble の Control を亂す事及 Pass し様とする相手に對して球の行先を亂す爲に用ひる方が多い。

1 相手に觸れる部位

2. 立ち脚の關係

I. 投　球

Throw in の投球は強く投球する事丈を一つの技術としてとり出して練習強化する價値がある。

以上各種の技術を練習するに當つて一つ一つの型を研究する以外に

(イ) 五六人で小圓陣を作り或は三人で動き乍ら一個の球を用ひて短い Kick, Stop recieve, Dribble 等を練習し

(ロ) 十數人乃至二十人程度で大圓陣を作り二個乃至三個の球を用ひて各種強 Kick, Head, Dribble, 球をとるべき場所を早く判斷して Start する事、

Recieve. Shouldering (競り合つて) 等を練習、

(ハ) 位置に並んでの Shooting 練習では又殆んど總ての事柄を練習し得やう

(ニ) 一人 Dribble して拔かうとするのを一人が妨碍する練習で、Dribble (dodge) 並に Tackle 及び Shouldering を實戰に近い情況で行ひ得る。

V 各種基礎技術の次に Team work を得る爲の連絡方法を考へなければならぬが、戰術論に於ても述べる樣にその中心は "Pass" であり、それを守る防禦の方法である。此處では戰術論を述べず

技術的方面を述べる

A Passing

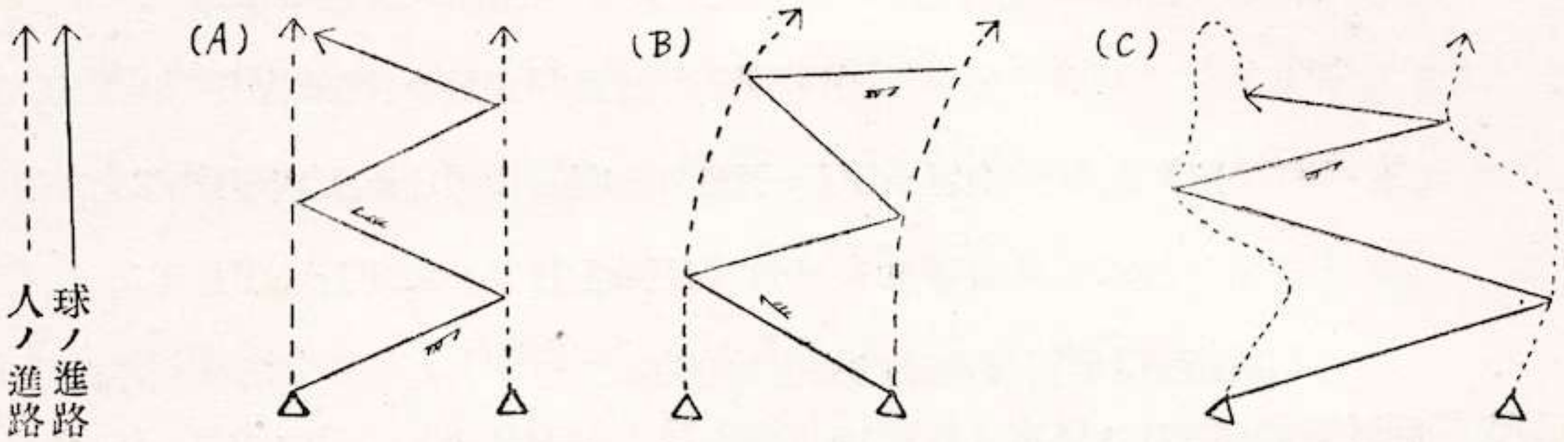
○ Passが Kick と區別されるのは渡す者の蹴つた球が受ける者の行く先に巧く合致する事のためである。

1. Running pass

（イ） 二人で豫め進むべき Cource を定めて 短い Pass 並に長い Pass を行ふ。

渡す者も受ける者も Meet させる事

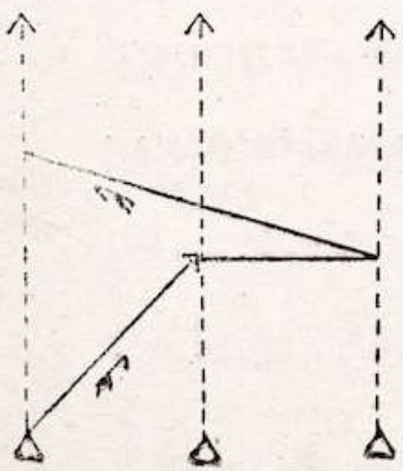
球が流れすぎたり屆かなかつたりする事のない様




★(A) (B) 共に良き Passの例

★渡す者と受ける者の意圖の不一致
若しくはPass, Kick の不正確による失敗

（ロ） 人數を増して縱横を複雜にする

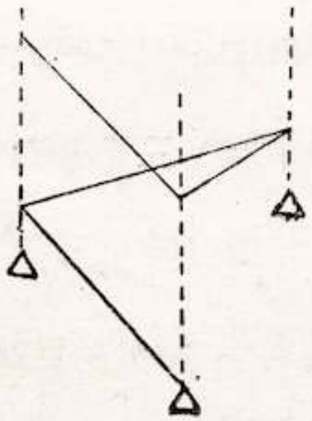


★例へばCenter 3 のPass

2. Feeding 及其を受けての捌き

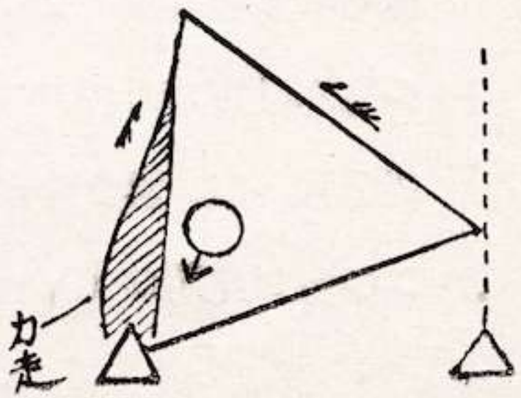
★ 之は Shooting の練習の時行ひ得る

。 Pass して後 相手をすり抜けて又 Passを受ける練習



★例へば翼三人の Pass

★Short passに威力を與へるには是非必要である。



## B. 部分的な攻防練習

各種基礎技術が出來、Passの觀念　方法が了解せられゝば、直ちに試合形式（11人對11人）の練習に移つて慣れによつてTeamworkの完成を待つても良いのであるが、尙各人の活動を早く調和させる爲には、直ちに試合形式の練習のみに賴らないで、連絡すべき二人或は三人程度の部分的なものをTeamから取離して先づ部分的な纒りを得て夫等を組合せて全体のTeamworkを作り上げる方が早いと考へられる。部分的な攻防練習の例として

1. LW+LI　Vs　RH　　攻撃者間の諒解を求め、HBの遮斷旋回追走等の練習をする（20米乃至30米位の長さの範圍で）
2. LW+LIVs　RH+RB　（50米位）
3. LI+CF+RI　Vs　GK+LB+RB　（Shooting迄）
4. LW+CF+RW　Vs　仝　上
5. 5人のF.W　Vs　GK+LB+CH+RB
6. 5人のF.W+CH　Vs　RH+LH+RB+LB+GK
7. RW+RI+RH　Vs　LH+LB
8. RW+RI+CF+RH　Vs　LH+CH+LB

の様な形が種々考へられるであらう。

唯之を實施するに當つては漠然と練習せず、　例へば「InsideからCFに深く出した後、　巧く行かないが其處を何とか工夫出來ないか」　と云ふ樣に明確な目標を持つて居て練習しなければ徒らに分解したに過ぎず、興味少く効果も又少い。

部分的な事を練習する間に攻撃のみならず防禦側の協同動作をも完成すべき事は云ふ迄もない。

又非常な欠点のある場合には出來るだけ細かく分解して其の部分を反覆練習すべきである。

分解的な部分的攻防練習は部分的な纒りを早く作り上げ又大きい欠陥を矯正するには非常に便利であるが一面に於て攻撃から防禦へ、防禦から攻撃への轉換に迅速に處する習慣を養ふ事や、Team全体としての進退に齟齬を來さない樣にするには不十分な練習であると云はなければならぬ。

從つて部分的練習と共に試合形式の練習を積んで置かなければならない。

其には他Teamとの練習試合　　第二Teamとの試合（時にFW　5人を取換へて）を澤山行ふ事が望ましいが、事情が許さなければ、H.B3人　FB2人及GKとFW2人或は3人を加へたものを防禦側として、FW5人の後に3人をHBとして加へたものを攻撃側として種々の場合を、想定して攻防練習を行ふ事によつて或程度の目的に適ふ練習を工夫する事が出來よう。

Throw in,　Corner kick,　Free kick,　Kick offは夫々Out of playからIn playに轉ずる契機であり、一時靜止の狀態から動作に移る爲に、之から計畫的にPlayを組立てゝ行くに便宜であり、且つPlayの組立は戰術的に非常に有利である。　　蹴球が高度になればなる程、球を保持する側に有利であり、一度相手

に渡ると仲々球を奪取する事が不可能な爲、此等の Play の戰術的重要性が益々增大する。

〔 I 〕 Throw in

(a) Referee の合圖を要さず、故に球に近い者が逸早く味方のFree な者に投入し敵に Mark する餘裕を與へない事。

(b) Off—side となる事なし

(c) 相手が味方を Mark し切つた場合には Free な場所若しくは人に投げる。此の場合の Throw in は Free kick と同等の價値を持ち、何處に投ぐべきかは Pass の原理と同様である。

① 意圖の一致 ……瞰視——→判※斷——→動作＜投球. Freistellen

② Timing. 球と人との距離、方向、速さ

※ 投げ手——→誰が受け手の中で一番有利な位置に居るか、人か、場所か？

受け手——→球の到達距離内で何處が最も有利な地点であるか？

(d) 意圖を相手に隱す事（欺く事）

(e) 最も有利な味方へ投入する事、多くは Wing F. Inside F への投入を普通とするが、CF、CH が、Free な場合多く、更に F.B は Cover されて居る事が少い故、F.B. へ

（投げ手への注意） a. 目標へ正確に投げる事。

b. 飛距離を大にする事。

(c) 雨の日は出來るだけ遠くへ投げる事.　　① Defenceの旋回がきかぬ。

② 細い Ball technikがきかぬ,

(d) 相手の Goal 近き場合は原則としてWing FWが Throw する。

① Off side となる事なし。

② 位置を交替する必要なし。

(e) 急いで投げる場合. 往々次の様な反則を犯し易い。

① 片手で投げる　② Dropping　③ 足を地面より離す。

(受け手への注意)　(a) 相手に Mark の暇を與へず素早く受ける事。

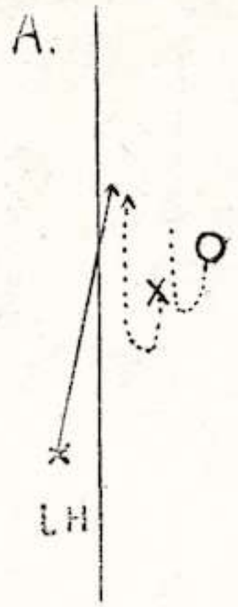
(b) Mark された場合は豫め計畫した動きにより相手を引き離して受ける事。

① 相手を脊にして Thrower に Back pass　② 受け手一齊のFreistellen

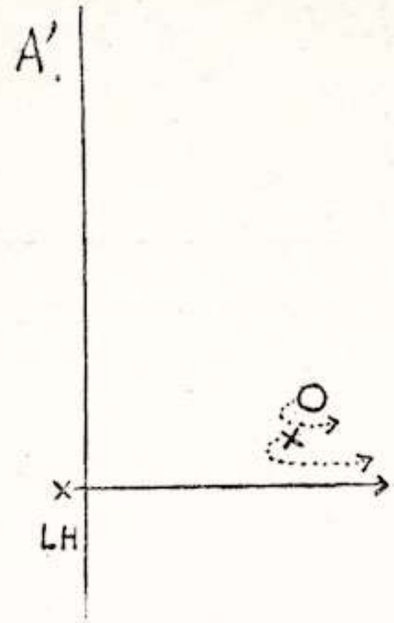
③ Tauschen　④ 相手を身体でおさへ乍ら球を受けて出る。

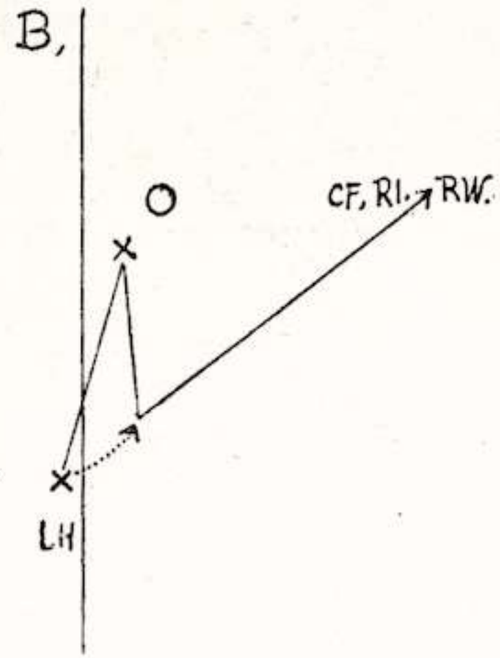
技術：　1. Dash　2. 旋回　3. Trapping　4. 流す事。

## Diagram

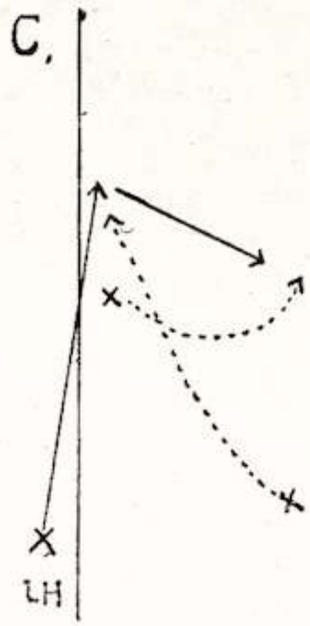



★ A. Aハ相手ヲThrower ニ引キツケ急ニ旋回シ 身体ヲ 相手ト球トノ間ニ入レテ持ツテ出ル。

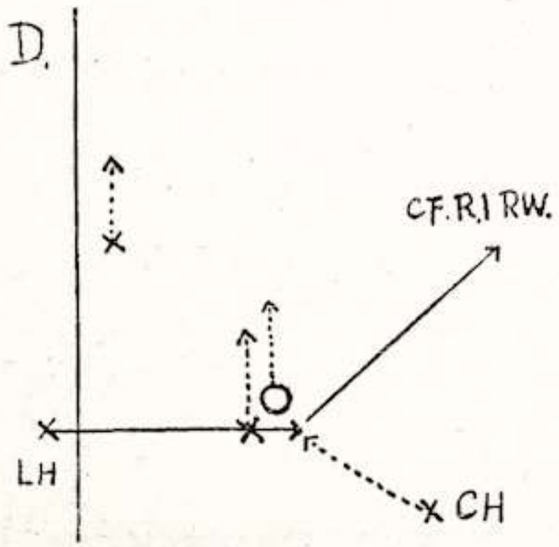


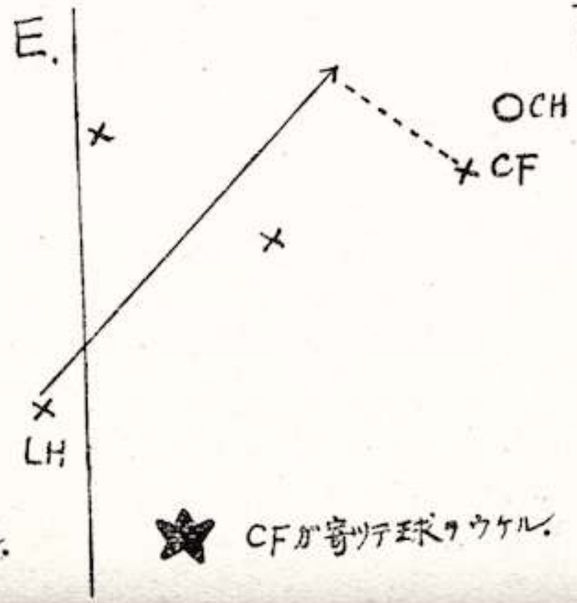

★ 相手ヲ脅ニシテ Thrower ニ Back pass シ Openヘ Passヲ送ル (HB→WFW→HB→→I→HB→ )



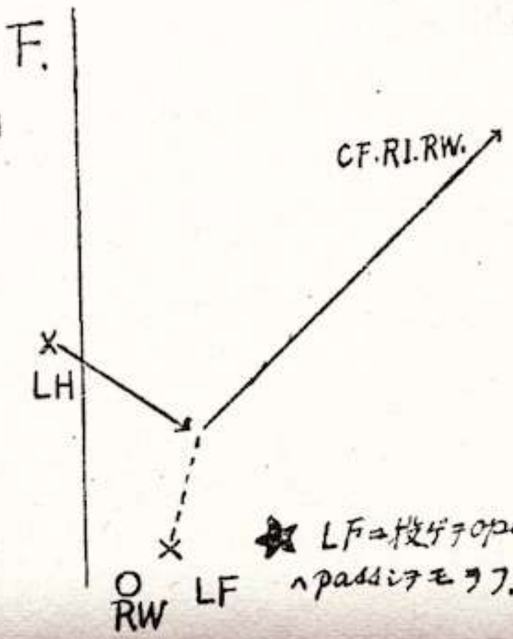

★ Change position ニヨツテ 相手ヲ欺キWノ後ハIガFreistllenノ球ヲ受ケル



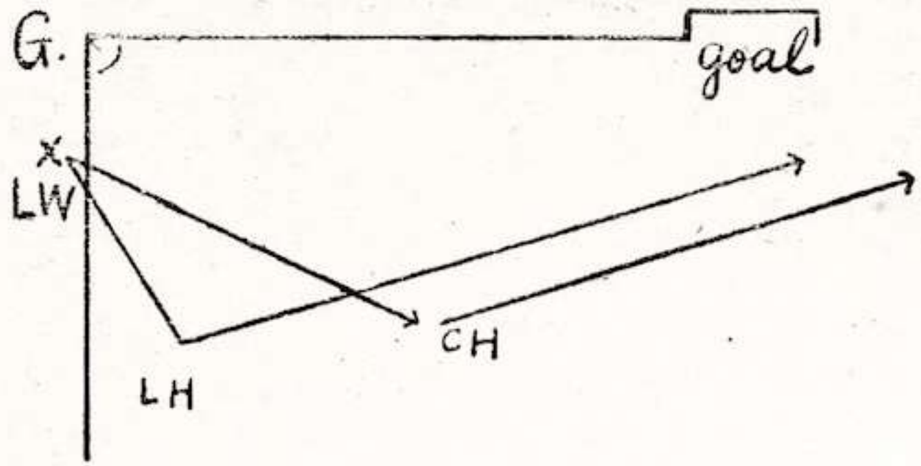

★ Iノ動作後ヘCHガ球ヲ受ケニ入ル。



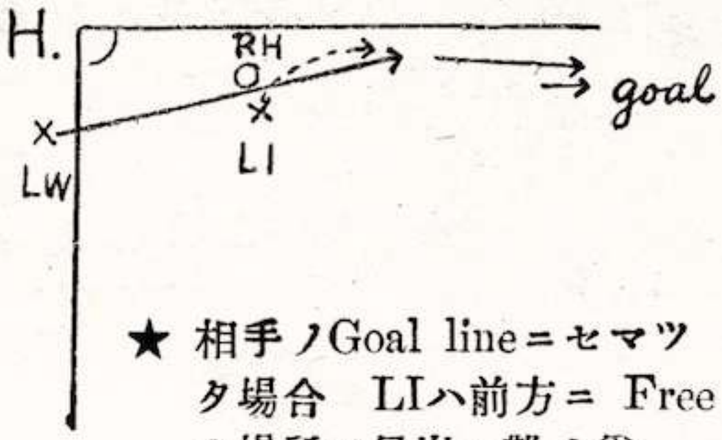

★ CFガ寄ツテ球ヲウケル。




★ LFニ投ゲテopenヘpassシテモラフ。




★ 相手ノCorner 近クノ場合LWハLH, 又ハCH ニthrow スルHBハ Open, CF. RI. RW = pass シ右側カラ得点スル。




★ 相手ノGoal line ニセマツタ場合 LIハ前方ニ Free ナ場所ヲ見出シ難イ爲 Goal line ニ平行ニ相手ノ後ヘ Throw シ LI ハ CF, RI, RW ヘ Goal前ヲヨコギツテpass, 右側ヨリ得点スル

〔Ⅱ〕 Corner kick

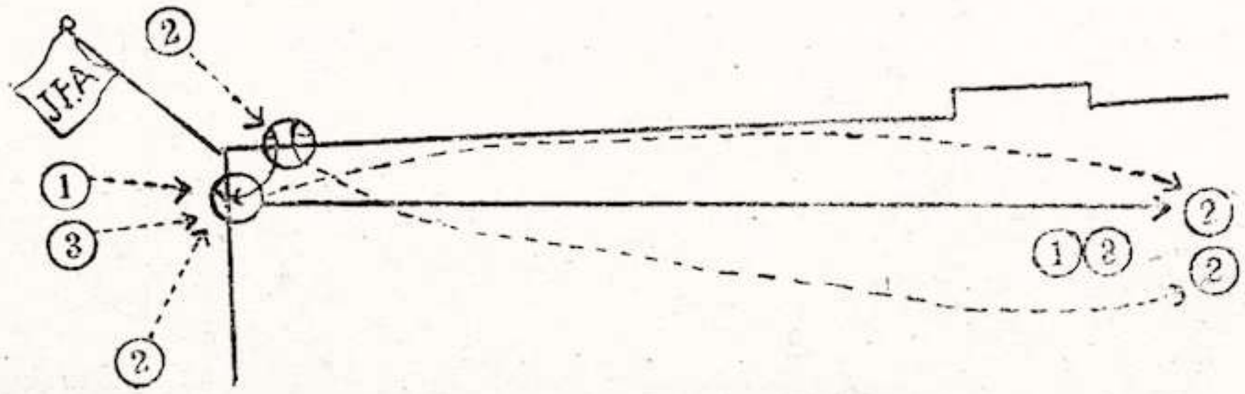
(a) 反對の Goal erea の角を目標に高い Ball を蹴る。

(b) 低い早い Ball を蹴る

(c) 他の四人の F.W は適當な位置に配列して 主に Heading によつて得点する。

(蹴り手への注意)

a, Kick の種類と彈道 (L.Wの場合)




① ハ低ク早イ,

③ ハ高ク遲イ,

② ハ左足ノKick彈道ハ右ヘ曲ル,

② ハ右足ノKick左ヘ曲ル,

b. Goal から Field の方へそれ過ぎても外へ出さぬ事。

c. 蹴つた後直ちに Goal の方向に走り込み 次の動作に備へる事。

d. 風の方向に注意する事, （No touch goal in も得点と認む）

e. 處定の場所へ Kick しても 不結果の場合はCHの頭上へ Kick する事。

（受け手の配列）

a. 反對側の Inside, Out side FWは必ず Heading で得点する事。

b. Heading 特に Jump head
① Ballの落下地点に待たぬ事。
② Speedをつけて Headする事。

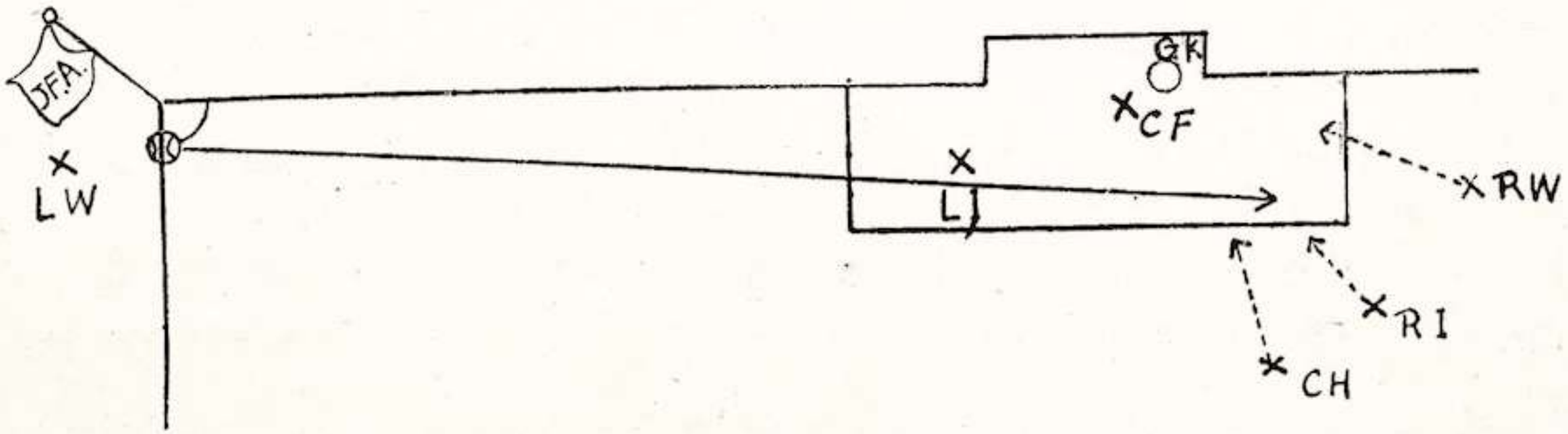
c. 相手と競つて後方へ球を流し 後方よりすかさず突込む事。

d. CFはG.Kの前方 Goal line 附近に位置し 合法的に Blockingする

他の Playerは すかさず突込む。
① Corner kicKにOff sideなし。
② Goal keeper はG.E内ではNo ball changeされる事なし。 P.E内にては可。

e. Ball が足下に落ちた場合には 他の Player は後へまわり込み Shoot をねらふ事。

f. 一度Goal line 近くに落ちた Ball は 反對側に折返し得点する事。



〔Ⅲ〕 Kick off

(a) 試合は Referee の笛によつて開始せず、Kick off によつて始められる。

① 球は27 inch 以上ころがらなければ次の Player が球に觸れ得ぬ。
② Kick off は前方になされる。　③ 相手は 9米 Line より中に入り得ぬ。
④ 總ての Player は球が Kick off されて始めて Start する,

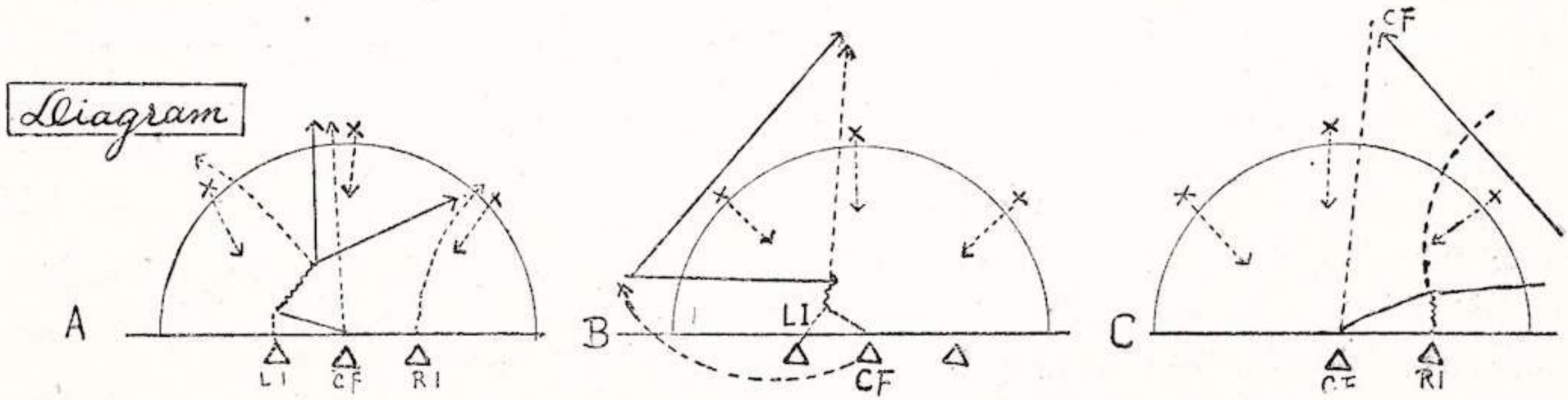
(b) Ground の 狀態によつて.

① 乾燥してゐる場合は Short passing play をなすを可とし
② 濕潤してゐる場合はLong 〃 〃 をなすを可とす。

(c) 相手の配陣によつて.

① 相手の両FBが開いてゐる場合には中央突破
② 〃 〃 中央に集つてゐる場合は Wing へ球を送る。

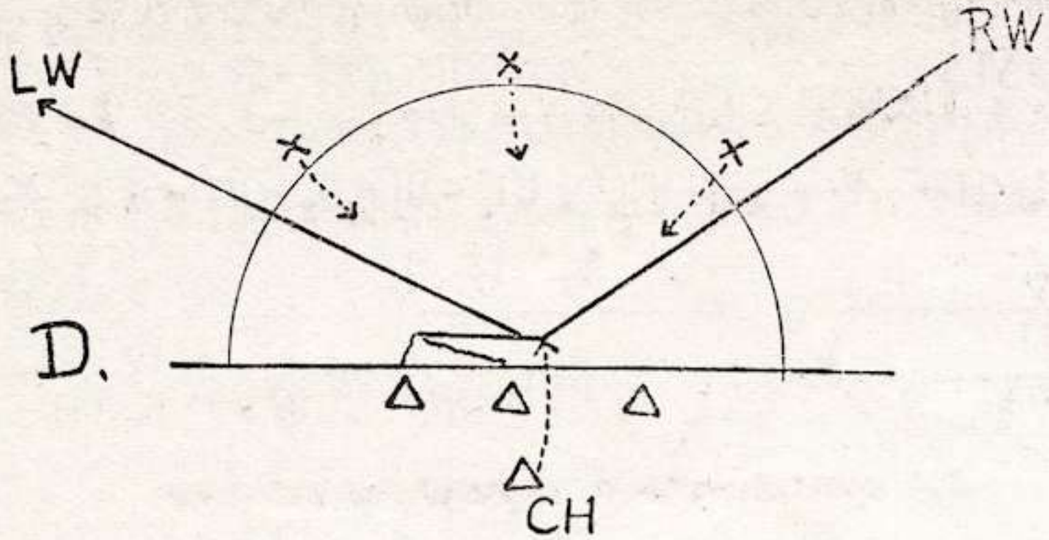





★ CFハLIへ球ヲ出ス。LIハDribbleシ 間ヲ見テCF,又ハRIへPassシ相手ノ第一線ヲ突破スル。

★ CFハLIへ球ヲ出シLI少シ持ツテ後へ廻リ込ンダCFへ球ヲ出スCFヨリLIへPass

★ HBハMid line迄前RIヨリ横ヘノPassヲウケ Wingヘナリ CFヘナリPass。




★ 両FBガ中央ニ寄ツテ居ル場合ノCHヨリWingヘノPass。

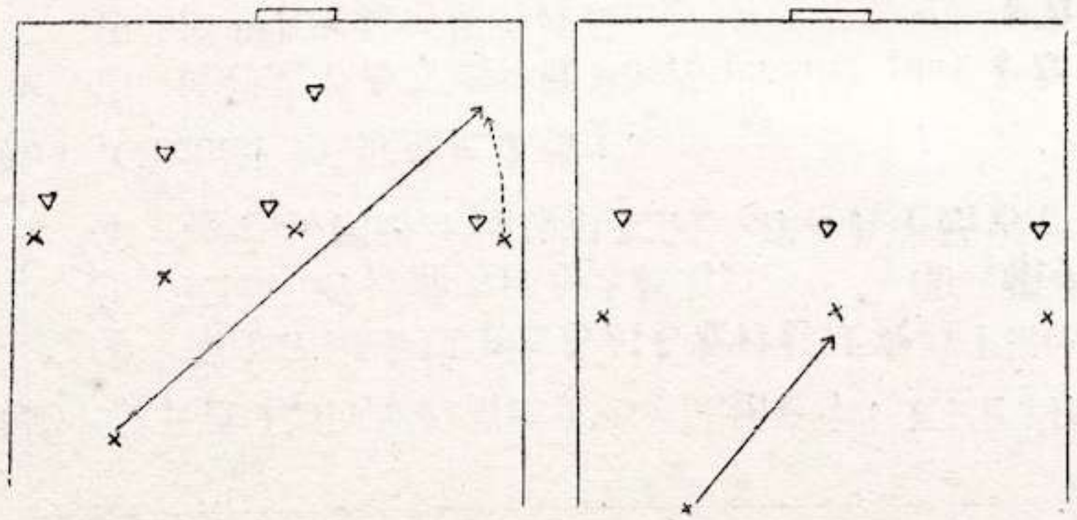
(d) 相手をCoverし乍らBallを受ける。

① 相手に身体をよせて　相手に遠い方の脚へPassを出してもらふ。

(e) 行き當りばつたりのPlayをせず　慎重な計畫の下に行ふ事。

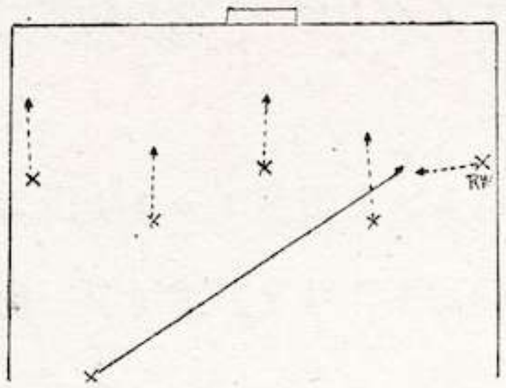
〔Ⅲ〕 Free Kick

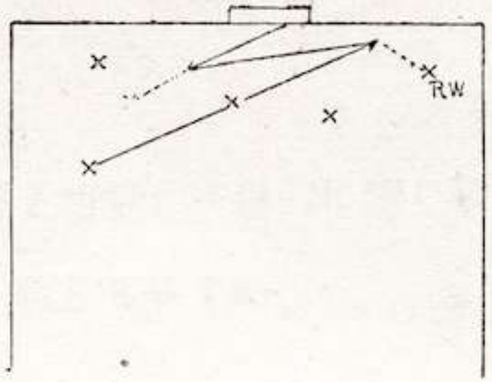
(a) 迅速に目標に向つて球を送る事。　① 相手の頭を越して。　② 味方の後方へ。
(b) 穴へBallを送り味方に走り込ませる。
(c) 味方の身体目がけてPassする。
(d) 相手Goal附近では味方の頭へ球を上げる。
(e) Off Sideにならぬ様に注意する事。



★ 相手ガ密切ニ味方ノFWヲCoverシテ居ル場合ハ相手ノ頭上ヲ越シテ味方ノ前方ヘPassスル。

★ 相手ガ頭上ヲ越サレルノヲ恐レテ深ク守ツタ場合ハ味方ノ身体ヘPassスル。




★ 相手ノGoal近ク Wing ノ Heading ノ折返シヲ反對側デ得点スル Off—Side ニ注意スル事。

★ Playerハ全部前方ニStartスル
Wing ハ横ニヨツテPassヲ
受ケル。

以上で Throw in, Corner Kick, free kick, kick off に就いての略説を終へたが、全ての場合を盡しては居ないから各自之を參考として工夫し練習によつて強化し、且應用力を廣くする事。

## 戰　術　論

講習第三日に聞いた濱田氏の戰術論の大要を紹介する。低聲の爲、聞きづらく、或は不完全なものかも知れない事を御諒承下さい。

「戰術論と申しましても高等なものに飛び込まふといふのではなく、御互ひにフツトボールはやり乍ら常識の貧弱な事は驚く程である。フツトボールの常識として、戰術論を述べて見たい。

先づ第一に戰術とは Conbination である。チームの有機的構成の事を意味する。

之に用ゐる手段としてはPassである。

之は手段として第一のものにして最後のものアルハーにしてオメガーである。まつたくの素人はパスを知らない。ラグビーとア式の別のない頃はパスはなかつたといつてもよい。パスがないからこそ當時はF.W 8人に對してバック3人でも守れたのである。然るにパスの發明はF.Wの威力を增しい1925年には遂にオフサイドルールが變更された。

要するに戰術とは正當なコンビネーションの完全な發揮を目的とするものでパス並びにパス以外の協力（F.Wが敵BackのBallを取らんとする事等）を手段とするものである。

然らばパスには如何なる方法があるかといふに大別して三種となる。

第一は　Kick and Rush system

之は又イングランド式とも云ふ。

第二は　スコツトランド式　之はショートパスを基幹としてゐる。

之等を決定するものは要するにグランドの狀態（純粹な外部的條件）大小等により又敵の戰法によるので何れが優るとは斷言できない。

第三は折衷式として上二つを組合せたもの

要するに相手チームを破るべく以上を組合して自己に適したものをつくるべきなり。たゞ前提として或程度の技術を必要とする

技術的には　ストツプ，パス，　Ballの處理

戰術的には　1. 觀察（周圍を見廻す）

2. Cover　3. フリーな位置を取る事　等が考へられる.

Passing の練習についても技術的には

1. 電光形　2. 縱横のパス　3. 縱のパスの連續等又人數も 2, 3, 5 と分つて行ふ。

第一には　相手なしのパス

第二には　積極的に攻擊して來ぬ敵をおく

第三には　積極的に攻擊して來る敵をおく

かくて次に三角形の Pass に入る。頂點を變へて練習する。以上で技術的には卒業である。

しからば戰術的には

（勿論技術的に練習するにも戰術的の頭は持つて居なければならない。）

第一　何處へ　パスするか。

あいてる場所へ　.か.　その人へ　か。

之は非常に難しく戰局によるとしか言へない。又之には相互の理解が必要である。

第二　に直接パスか　Ball を保持して後パスするか。

ショートパスの時は直接（Direct）にて Ball を持つべき時は自分より良い立場に居る味方が居ない時である。この際バツクの Follow 等を生かす事も考へなければならない。

次にパスの強さ　方向　Tempo である。

第一に Long Pass か short pass か（低い事が多い）

この二者は受手がちがふのである

高いパスか　低いパスか

原則的には低いパスがよい。早いし處理が樂である。

又ボールを持たない場合のConbination.

之が重要である。相手を Cover し マークする事である

第一にマーク　之は或瞬間に於てボールを有さぬチームの活動をいふ。理論的には敵の全部をマークすべきも實際的には左様な必要なく現にプレーに參加してる敵及び次に Play に參加する恐れある敵をマークするのである。

Mark の方法.

敵の後に位する事（敵の活動を見る）

相手と自分との距離はボールが近ければ近くに位せよ。要するにマークの目的はボールを有するチームのコンビネーションを邪魔する事である。

次に FreeなPosition を占める事及び方法

パスする人にパスしやすく自分が受けやすく敵が防禦しにくく位置するのが理想的。

Freistellen は敵より 適當に離れる事.　そして之は前のみでなく後にも横にもある。

又味方がBallを出せない中にFreeな Positionを取ればマークされてかへつて損をする。

之が難しいのである。パスを出す瞬間にFreeな位置を占める事、書けば云へば、簡單だが實現には至難な事の一である。

次はボールの受け方

受ける位置は上のFrei—stellenにて、が處理は？　次に行ふ自己のPlayを考へてなければならない。さういふ風に構へるべきである。自己のゴールを向かない様にすべき事。

Openへか　Blindへか、例へばR.Wの右側はタッチ故にOpenの方へ向く事。

Stopするにも次にPlayする方向へ出せる様に。

最後に必要なるは位置的プレイである。くれぐれも注意するがボールを受ける迄は穴を見つけて動くが受ける時には動かないで取れる様にする様に心がけねばならない。此の時竹内氏質問して曰く，アルゼンチンの蹴球はパスがライナーで低く強く一回も地面にさはらないで敵ゴールに達するといふがそれは本當でせうかと。濱田氏曰く，それ程でもないでせうが，位置的プレーの理想形ですね。アルゼンチン外,南米の蹴球は歐洲の長所を取つた折衷式の最もよいSystemだと聞いてます」　願はくは戰術的に訓練された頭腦を持つて，技術的に高きレベルを獲得して頂きたい。かくてこそ深みある眞の蹴球は理解されるであらう。

# ゴール、キーパー論

經驗の淺い私には眞正面から論ずる勇氣も見識もない。が選ばれて講習にゴールキーピングを實地に又は理論的に指導された以上商大キーパー陣に私の得た事を知らせる義務がある。

商大も四部のどん底より一部の水面に浮び出て來てその間技術的にも各員の進歩は目覺しく、練習方法も体系づけられ合理化されて來た。然し、悲しいかなゴールキーパーに關する限り、何の進歩もなく練習方法も把握されて居ない。何故か、之はキーパーといふ位置が重要視されない爲ではなく、人數の少い過去に於ては然も上る爲には攻擊チームを造らねばならず、キーパーなるものの活躍は望ましくない現象であり、事實攻勢に終始して現在に至つた關係上、しばしはキーパーは忘れられたる存在であつたのである。といつたからとて商大のキーパー達よ、決して自らを卑下する必要はない。君等多數のキーパーを要するに至つた現在ではキーパー陣に一つの進歩、發展が豫約されねばならないのだ。さり乍ら往々にして部員の間に「あいつは使ひようがないからキーパーにでもするか」なんていふ暴言を聞く。私自身は明かにキーパーになつた當時はさう思はれた事と思ふ。事實ボールは蹴れず、他のポジションは爲し得なかつただらう。だが過去の經驗はキーパーは他の如何なる者よりも優れた運動神經と練れた心膽を有し、鐵腕鐵脚鐵板の胸を持つ人でなければならない事を教へて呉れた。キーパーを一人前にやれる者は當然他のポジションをやらせても、うまくなる人である。

既に過去の發生原因よりして私の將來は、殘念ながら理想と遙かに遠きものである。理想に近きキーパーの出現は

之からなのだ。若きキーパー達こそ私よりは惠まれた境遇にあるのだ。一部の優者として立つために、君等若きキーパーの速かなる向上を望む者は決して私一人ではあるまい。君達は生れ乍らの一部のキーパーである。そして一部に育つのだ。ゴールキーパーなる者の認識を深めなければならない。技術的に戰術的に訓練さるべきだ。不幸にして春のシーズン中私は個人的事情の爲に練習不參の日多く君達と技を練る日に惠まれず、無責任だとのそしりを甘受して居る、せめてもの心やりに拙き經驗をお傳へしよう。

ゴールキーパーが死守すべき最後の一線ゴールポストの大さは高さ　2.40米 幅7.30米　之を守る人は手をのばしても2米位しかない。ポストの眞中から横に倒れても兩隅は明かに一米位づつあいて居る。キーパーが一動作で防禦し得る範圍は第一圖の如く限られてゐる。

ゴールキーピング

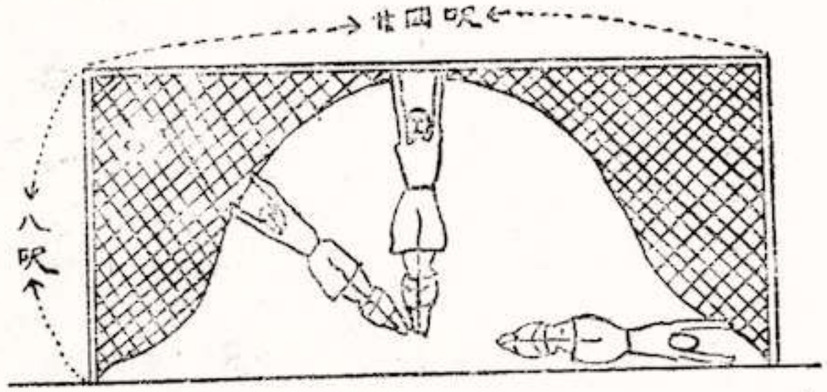



Fig　1

キーパーがゴールライン上に居り一動作にて防禦し得る範圍を示す。×××の部分を狙つた球は這入る。

典型的な例――パナルデイキツク

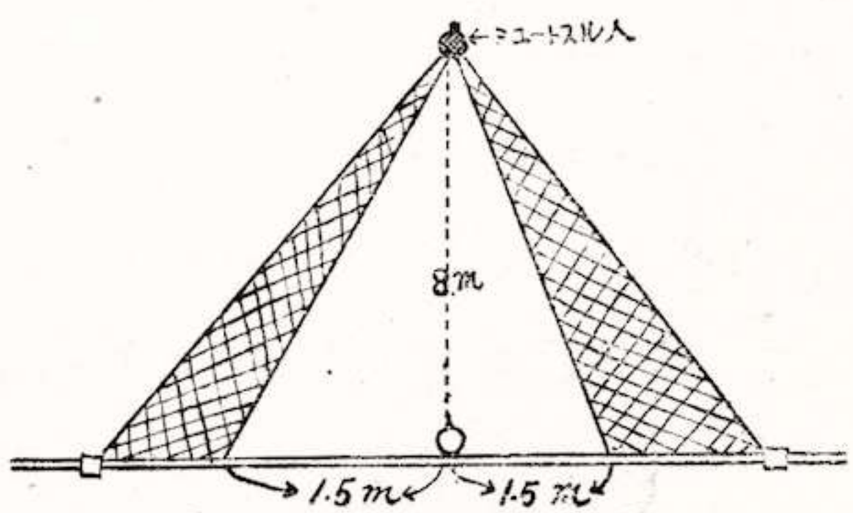
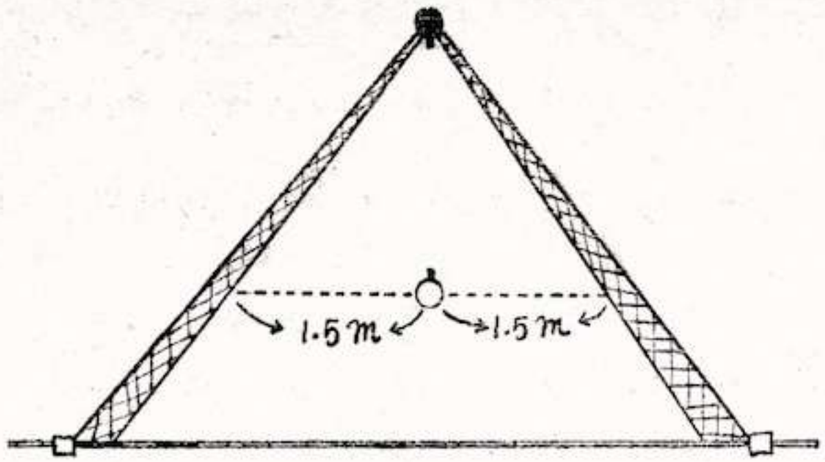



Fig　2

キーパーがゴールライン上に居る場合×××の部分を過る球は這入る。

一動作

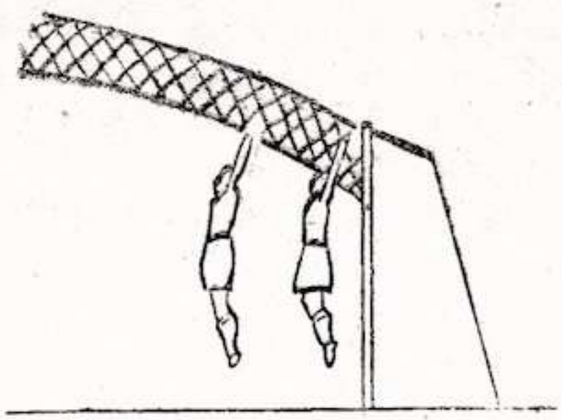



併し——

Fig 3

キーパーが前出すれば×××の部分は著しく減ずる。

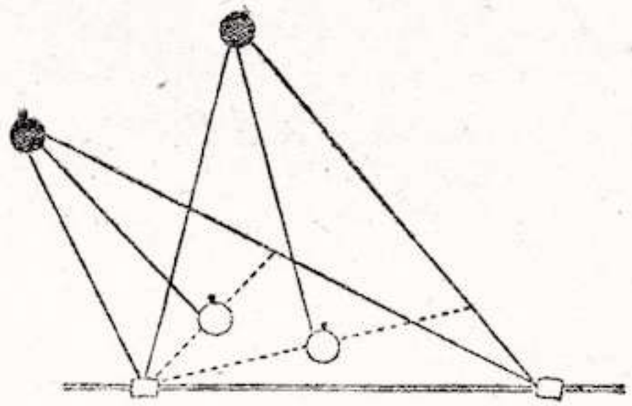
キーパーの動きは大切な武器である。



併し——

Fig 4

高い飛球の場合、キーパーが前出して居れば ×××の部分を通る球は這入る。



一般的に云つて——

Fig 5

キーパーの位置は兩ポストとシューターを結ぶ線のなす角の二等分線と近い方のポストからとの二等分線に下した垂線との交叉點である。

良き位置を占める事はキーパー資格の第一要件なり。

キーパー一人だけでゴール全体を守る場合には前述の通りであるが味方のバックメンが協動する場合には事情が異る。

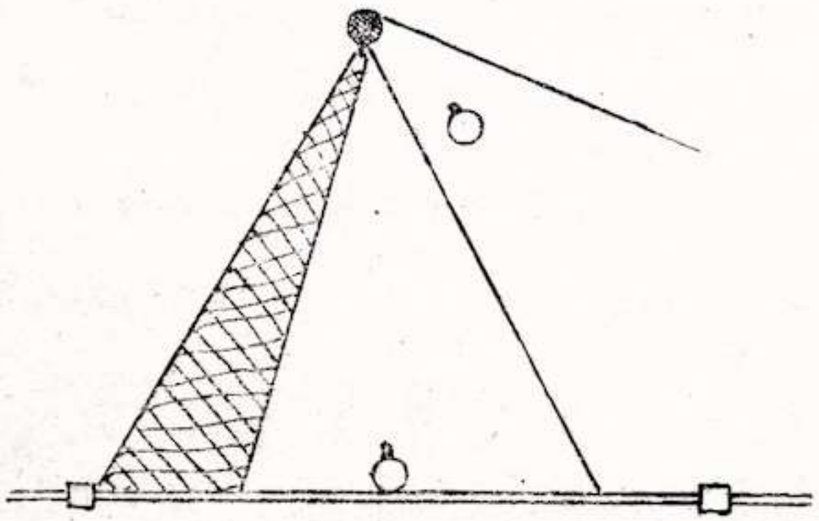


Fig 6

フルバックがシューターのシュートし得る範圍の一部をカヴーすればゴールキーパーの防禦する範圍は段々少くなる。味方の者が敵のシューターに近づけば近づく程キーパーの守るべき範圍は少くなる。

されば キーパー唯一人を以てしてはゴールはたやすく敵手に陷る運命にある。

（その典型的一例はペナルテイキツクである。）

斯くの如き廣大な部分を一身以て守るキーパーは何を具備し何を習得せねばならないか

かかる事を簡略に述べてキーパーの練習方法の一二を示して部員諸兄の吟味を願ひたいものと考へてゐる。

ゴールキーパーはテイームの最後位に居り、唯一人の許されたる手の使用者である。キーパーは手が使へる。この觀念は絶えず強く浮き出て居なければならない。キーパーは手が第一であり足は第二なのだ。

手による守備は (イ). 捕球 (ロ). パンチング (ハ). セーヴイング等々殆んどゴールキーピング技術の全てに渡つて居る。

以上の豫備知識を基幹としてキーパーの選出にかからう。

第一に　ポストの高さ8呎とある以上 丈の高い事は最も惠まれた條件だ。（商大のキーパー陣には長身の者は一人も居ない。）この短身の缺を補ふにはジヤンプ力以外にはない。

即ち第二に　ジヤンプ力を見る。

第三には　短距離のダツシユである。

第四には　勇氣膽力である。

以上の條件はキーパーのみならず、實に蹴球をなす者全てに取つても望ましい條件なのだ。唯一つ最後にキーパーは捕球の巧みにして確實なる事を要する。然し乍ら身長を除く他の條件はすべて後天的に練習により得られ、決して天賦の素質なきを嘆く要はさらにない。

島田氏はゴールキーピイングの原則として次の事をあげてゐる。

(I) 確實な捕球.

(A) 最大限に兩手を利用する事。　兩手のみならず胸腹腿等の利用。

(B) 出來る丈態勢を崩さぬ事。

(C) 出來る丈スピードを落さぬ事——殊に敵のチヤージに對抗する場合、前へのダツシユをつけてゐる事。

(II) 素早い正確なクリアランス

(A) 出來る丈低い速い球を「蹴る」事

(B) 漠然と前へ大きく蹴らずに正確にフオワード（特にウイング）に渡す事

(C) 萬止むを得ず手で投げる場合にも漠然と投げず　フリーなフルバツク　或はハーフバツクに投げ渡す事

確實な捕球は練習による外はない。蛸の吸盤の如くボールが手に吸ひ込まれる樣にピタツと入るのが理想なので、手に自信ある限り、膝を大地について取らうなんて弱氣は起さないであらう。眞正面からの素直なゴロが一番取り惡いのであつて之さへ見事に取れるなら横に流れて來るゴロはスピードを落す事なく樂に取れる。或は眞正面のゴロが自分には一番やさしく思はれるがといふ人もあらう。事實最初はさう思はれる。然し乍ら捕球術は一つの難しい技術であつて、待つてて止めるといふ樣な消極的なものでなく、進んで取るといふ積極的な技術である。初心者は眞正面のゴロに對して最も消極的に見受けられる。之が眞正面のゴロの難しい點である。球を取るスピード　之を考へれば眞正面のゴロの取りにくい事がわかるであらう。スピードをつけすぎれば球をはぢくしはぢけば敵の走

つて來る前にコロがしてやる事になる。スピードを失へば敵のチヤージを誘發しゝクリアランスの機を失ふ。

この難關を突破すればキーパーとして一人立ち出來る。次には兩側をつくゴロである。

之はタイミングの問題丈で他に難しい所はない。この場合は野球でいふシングルと云ふ樣な高等技術も覺えておくべきであらう。球は必ず兩手でつかむべきだがゝ間に合はない時の事も考へてゝ片手での捕球にも慣れる必要ががある。片手の自由がきかないキーパーは八割位の損となる。凡そボールをを手にするには指の先の先まで神經を動員してゝ最後に胸に落ちつくまで眼はボールを離れてはならない。然れど捕球後は眼は轉じて戰線視察を行ふのである。そしてクリアランスだ。体勢が崩れて居ては充分なキツクは望めぬしゝチヤージを受け止める事も不可能だ。

低く速くF.Wへ球を送ることは望しく然も難しい技術である。商大キーパー陣はゝ狩森以外に大きいキツクを有たぬ。然も狩森とても大きい丈でそこに未だ戰術的の判斷の加つてゐない事は明白である。キーパーは守備の人ではないのだ。攻擊にも參加すべきなのだ。戰術的な判斷を下して全線をリードすべきなのだ。キーパーのクリアランスこそ逆襲のチヤンスなのだ。キーパーの戰術的頭腦こそゝ敵線突破の策動地なのだ。之が爲めにはキーパーは全メンバーより絕對的に信賴されねばならない。キーパーをカバーしようなんて心がバツクにある以上は最善の攻擊は加へ得ない。バツクはキーパーと協同こそすれゝ キーパーのミスをカバーしようなんて氣を起してはならない。キーパーこそはミスを嚴禁された人なのだ。ミスをカバーする味方は居ないのだ。

一眼見て全線を觀察できゝ一瞬にしてゝ守勢を攻勢に轉ぜしめる力を持つてゐる者はキーパーである。彼はこの

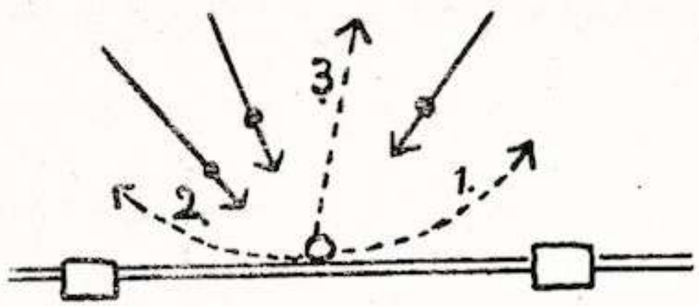
特性を極度に利用發揮すべきである、クリアした球が敵手に渡る事はキーパーに大半の責任が存在する。

敵が近くにあり、キツクの餘裕も與へられない時、手でスローする特技がある。この時もあせつてはならない。敵がチヤージする以上そこにフリーなバツクが殘る筈だ。敵がチヤージに來る瞬間こそ最もよきスローのチヤンスである。之は實に間髪を入れないきわどいものであらう。フリーな味方が居ない時は、敵ウイングの頭ごしにタツチに送れる位の大きく强いスナツプを持つて居たいものだ。

捕球が出來てクリアランスが出來れば一先づキーパーとして及第である。之からは細い技術や高等技術の修練だが、それは殆どコツといふものがあり練習により体得しなければわからない。故にかゝる技術的な細い事は、專門書に讓りたいと思ふ。

次にチヤージである。キーパーが一瞬の油斷いためらひもこのチヤージによつて救はれ難き破局を招く事が多い。されば キーパーたるものは常に捕球と同時に否その前より來るべきチヤージを豫側し對策を考へねばならぬ。チヤージに對しては飽くまで强氣でなければならぬ、チヤージに來るフオワード自身にもこの事は云へる。若きキーパー達よ君等が恐れる以上にチヤージするフオワードは控へ目である。さもなくば冷靜さを失つた一か八的のチヤージが多い。キーパーに取つてはねばり强い數人共同のチヤージだけがおそろしいので一人一人のチヤージは決してこわくない。君達が强くて積極的にプレーすれば敵のチヤージはそれだけ威力もへり回數もへり弱氣に轉ずるものである。氣力で勝つた以上はチヤージは問題にならない。だが勿論チヤージをさける原則位は心得てなければならない。

原則としてはチヤージする敵の背後に出ること




左圖に於て2へ逃げる事は最も悪い。二人の敵に共同される恐れもあり逃げ得てもキツクの方向はグランドの半面に限られる。

1の方向も悪い。敵は一人だが敵に追擊される距離は長くキツクも限られる。然も1. 2共萬一敵に當つた時はゴールインか　コーナーキツクになる恐れあり。3 が最もよい理由は、完全に二人の敵の背へ前進のスピードをつけて逃げた爲、前線へ好むキツクを送れるし、一間なり二間なり前へ出た丈球も遠くに飛ぶ理屈だ。七月の講習會で竹内氏がキーパーは横へ逃げる事が多いから横からチヤージする樣にといはれたさうだが、最近のキーパーは横へ逃げる事は少いのである。萬一敵に當つたとしても前進のスピードは後へ倒れる心配をなくし破局をまねく事は少いのである。

チヤージを受ける部位は手を使ひ、又は手のヒヂ、肩、頭、足の膝、腿等を利用し、痛みをへらすと共に相手がひるむ程の痛みを與へよけた後ただちに追ひ迫られない樣に考へるべきなり。

ゴールキーパーの練習

体操（特に身体を柔かにする樣に）縄飛びなどは他の部員と共に熱心に行ふ。ショートキツクに於ては常に他人のカバーを心がけ運動神經のすべてを緊張させる。ロングキツクに於ては絶へずパントキツクを强める事を心がけオーバーボールを判斷する目を養ふ。フルバツクの隣に位し、連絡を計る。なるべくゴールを背にすること。以上は在來の部練習方法をキーパーとしてはかく利用すべきであると云ふ事。

ヘツディングの練習が始つた場合にはキーパーは在來と異り別なグループをつくるべきである。一人がヘツディング同様球を投げる。一人はキーパーの援助をつとめるフルバツクとなる。そして一人づつフイスティング及びパンチングを習得するのである。

ドリブル及びラニングパスこの間にキーパーはキヤツチボールをなし左右兩手が自由に動くやうに考へて練習する。他の部員が休む時に二人がゴールに入り、二人が投げたり、蹴つたりしてシユーティング. フオーメーションに入る前の練習であり、同時に正式のキーパーの練習をなす。そしてただちにシユーティングに入る。一人づつ交替して二人で守る様に心がけて、順次一人づつ休息する。フオーメーションに入るに先立ち今一回、ゴールに入つてのキーパーの練習を試みる。キーパーは二人で交替して守る。之はキーパーの過勞を防ぎ、同時に他人の技を見ては之れを体得する機會とか、反省する機會を與へる。又全線を見渡し、戰術的な頭及び敵の戰術を觀破する眼を養ふ利がある。フオーメーションが終つて後輕くキツヤチボールをしてクールダウンし、以後皆と行動を共にする。

以上はキーパー練習の大様の方式であり、細目に到つては矢張プロをつくる外はない。尙家にあり休假等の練習としては拳闘がよいと思ふ。ひまがあるならばボクシングによりフイストパンチの力を强め、腹部の筋肉を强くする等の心構へは心要であらう。鐵腕. 鐵甲の胸はかゝる不斷の練習によらずしては不可能である。與へられた紙數にも限りがあり、些か超過した様であるから、殘念ながら練習方法細目は後日更めて檢討する事とする。

# 昭和九年度蹴球部記錄

編輯部

四月十四日（月）　練習開始

〃二十四日（金）　新入部員觀迎會　豫科理事會室にて

出席新入部員　長谷川　二階堂　狩森　枝村の諸君

五月四日（金）　豫科對本科戰　3對1にて本科勝。

五月十二日（土）　商大豫科對早大二軍、商大對早大新入の二試合を行ふ。　1對2　0對3にて惜敗す。

五月十六日（水）　有名な体操の本間氏來校

（一時間許り体操をなす。）

〃十七日（木）　青山師範と戰ふ　豫科軍惜しくも1對0にて敗る。

〃二十日（日）　商大對帝大戰　0{0——1 / 0——0}1 にて敗

【商大】　神野　荒井　淺枝　角田　大掛　森田　二階堂　小西　枝村　水島　田島

F.W　H.B　F.B　G.K

【帝大】　菊地（宮口）　佐藤（菊地）　廣渡　宮內（廣渡）　若林　太田　萩原　光渡　八卷　原田　宮澤

※ L.Wのコーナキックが風に乘りゴールの隅を破る。

五月二十六日（土）　豫科對立教第二軍戰

二時キツクオフ商大先蹴

商大豫科 3 {2——1 / 1——1} 2 立教第二軍

【豫科】

| | | | | | | | |
|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 林 | 大 | 熊 | 長谷川 | 村 | 岩 | 小 | 重 |
| 田 | 掛 | 澤 | 川 | 井 | 崎 | 西 | 見 |
| F.W | | | | | H.B | | |

| | | | | | | | | | |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 後 | 鈴 | 淺 | 井 | 朝 | 岡 | 澤 | 浮 | 國 | 灰 |
| 藤 | 木 | 田 | 上● | 廣 | 本 | | 州 | 田 | 田 |
| F.B | | G.K | 岡 | 〃 | 上 | 上田 | 〃 | 灰 | 駒 |
| | | | 本 | | 田 | 兄 | | 田 | 崎 |

| | | | |
|---|---|---|---|
| 藤 | 坪 | 塚 | 山 |
| 野 | 沼 | 田 | 口 |
| 〃 | | | |

※ 後半淺田が敵C. F上田のチヤージに胸を蹴られ義憤に燃えた豫科軍遂に大敵を倒す。

五月二十七日（日）　對慶應大學戰

商大0 {0——0 / 0——5} 5慶應　にて敗

| | | | | | | | | | |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 神 | 荒 | 淺 | 角 | 大 | 森 | 二階 | 小 | 水 | 鈴 |
| 野 | 井 | 枝 | 田 | 掛 | 田 | 堂 | 西 | 島 | 木 |
| F.W | | | | | H.B | | | F.B | |

| |
|---|
| 田 |
| 島 |
| G.K |

前半の熱戰も後半加はる疲勞と共に潰ゆ。

六月二日（土）　第十一回定期戰

商大豫科2 {1——1 / 1——1} 2浦和高校

【豫科】

| F.W | | | | | H.B | | | F.B | | G.K |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 林 | 大 | 熊 | 長谷 | 村 | 岩 | 小 | 重 | 後 | 鈴 | 淺 |
| 田 | 掛 | 澤 | 川 | 井 | 崎 | 西 | 見 | 藤 | 木 | 田 |
| 荻 | 針 | 水 | 小 | 神 | 小 | 柴 | 川 | 石 | 今 | 伊 |
| 原 | 谷 | 田 | 林 | 木 | 野 | 山 | 西 | 原 | 澤 | 藤 |

此の一戰よくも引分けたといふ一語に盡きる。各人が常の技能を現せなかつた事は精神的な備への不足の爲であらう。

以上にて第一期は終る。

八月二十七日　國立一橋館にて合宿開始

合宿參加者　二階堂、後藤、神野、水島、淺枝、森田、荒井、角田、田島、鈴木
大掛、重見、淺田、小西、後藤、岩崎、熊澤、二階堂(弟)、長谷川、枝村、池尾

九月八日　商大4 {3——1 / 1——1} 2早大第二軍

九月九日　合宿を終了す。

九月二十二日　對立教戰
五對三にて敗る。

九月二十五日（火）　對文理大戰　五對一敗

| | | | | | | | | | |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 神 | 荒 | 淺 | 大 | 村 | 森 | 二階堂 | 鈴 | 枝 | 水 | 田 |
| 野 | 井 | 枝 | 掛 | 井 | 田 | 堂 | 木 | 村 | 島 | 島 |
| F.W | | | | | H.B | | | F.B | | G.K |

十月一日　リーグ戰開始　第一戰

商大2{2——0 / 0——0}0東高　勝

| | | | | | | | | | |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 神 | 荒 | 淺 | 大 | 村 | 森 | 二階堂 | 鈴 | 枝 | 水 | 田 |
| 野 | 井 | 枝 | 掛 | 井 | 田 | 堂 | 木 | 村 | 島 | 島 |
| R.F | | | | | H.B | | | F.B | | G.K |

問題の枝村の出場は勇氣百倍に價す。白熱化したるクロスゲームも風下の不利も氣力の前に遂に敵ではなかつた。

十月七日（日）　蹴球リーグ戰入場式

仝　十三日（土）　對YCAC戰　於横濱根岸　5{2——0 / 3——0}0　にて大勝

| | | | | | | | | | |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 浅 | 荒 | 角谷 | 重 | 村 | 森 | 二階堂 | 水 | 中 | 角谷 | 田 |
| 枝 | 井 | (兄) | 見 | 井 | 田 | 堂 | 島 | 村 | (弟) | 島 |
| F.W | | | | | H.B | | | F.B | | G.K |

商大を主力に角谷兄弟中村三君を加へた混合チーム。

十一月三日　リーグ第二戰　對商船　於石神井

商大11 { 7——2 / 4——1 } 3　商船大勝

（塚部氏審判　○船先蹴　二時半開始）

| | | | | | | | | | | | | | | |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 【商大】 | 大 | 荒 | 淺 | 角 | 村 | 森 | 二階堂 | 鈴木 | 枝 | 水島 | 田島 | G.K | 【商大】 | 【商船】 |
| | 掛 | 井 | 枝 | 田 | 井 | 田 | | | 村 | | | | | |
| | F.W | | | | | H.B | | | F.B | | | | | |
| 【商船】 | 丸 | 島 | 中 | 波多野 | 櫻井 | 間 | 牧 | 松澤 | 木 | 布留川 | 岡田 | | 10 GK 20 | |
| | 橋 | 田 | 鶴 | | | 發 | 原 | | 坂 | | | | 10 CK 3 | |
| | | | | | | | | | | | | | 6 FK 5 | |

商大F.W好調中にも村井の當りは凄かつた。

十一月九日（金）　リーグ第三戰　對明治

商大3 ( 2——0 / 1——1 ) 1　明大　勝

午後一時三十五分開始　幸田（主）辻、小山（線）　三君審判　明大先蹴　於石神井

| | | | | | | | | | | | | | | |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 【商大】 | 大 | 荒 | 淺 | 角 | 村 | 森 | 二階堂 | 鈴木 | 枝 | 水島 | 田島 | G.K | 【商大】 | 【明大】 |
| | 掛 | 井 | 枝 | 田 | 井 | 田 | | | 村 | | | | | |
| | F.W | | | | | H.B | | | F.B | | | | | |
| 【明大】 | 藤 | 熊 | 立 | 松 | 鈴 | 木 | 劉 | 大 | 宇田川 | 三島 | 星田 | | 8 CK 5 | |
| | 田 | 田 | 石 | 澤 | 木 | 內 | | 內 | | | | | 7 FK 8 | |
| | | | | | | | | | | | | | 9 GK 20 | |

商大の速度ある好連絡は必勝の氣魄をこめて强敵明大を破る。

十一月十七日　　リーグ第四戰　　對成城

メンバー同前　　快勝す。

十一月二十二日（木）リーグ第五戰　　對法政

始めての神宮球場での試合だ。　　メンバー同前　　9對0にて大勝す。

かくて五戰五勝第二部に優勝し　待望の一部となる。

十一月二十八日　　調定委員謝恩會

枝村君出場問題につき專門部との交渉をして下さつた一橋會理事笹川氏外各運動部員に感謝す。

十二月一日　　リーグ閉場式　　二階堂主將病んで後藤マネジヤーが優勝カツプを受く。

十二月八日　　對浦高定期戰　　豫科見事に勝つ　　大掛の活躍めざまし。

十二月十五日（土）　關西遠征に出發

豫科對名高戰　　4對2敗　　神戸商大對商大2對2引分　　大阪商大對商大一軍、二軍共に東商大勝つ

以　・　　上

御斷り——昨年度記錄は當然練習日誌擔當者より提出される筈なりしも、遂に締切に間に合はず僅かに六月末までの第一期練習記錄しか得られませんでした。從つて第二期部活動の記錄は簡略であり、關西遠征高商大會等の詳細は明年に延さゞるを得ませんでした。委員として誠に申譯御座いません。

——（田　　島）——

十一月十七日　リーグ第四戰　對成城　9對0にて大勝す。

メンバー同前　快勝す。

十一月二十二日（木）リーグ第五戰　對法政

始めての神宮球場での試合だ。　メンバー同前

かくて五戰五勝第二部に優勝し　待望の一部となる。

十一月二十八日　調定委員謝恩會

枝村君出場問題につき專門部との交渉をして下さつた一橋會理事笹川氏外各運動部員に感謝す。

十二月一日　リーグ閉場式　二塁堂主將病んで後藤マネジヤーが優勝カップを受く。

十二月八日　對浦高定期戰　豫科見事に勝つ　大掛の活躍めざまし。

十二月十五日（土）關西遠征に出發

豫科對名高戰　4對2敗　神戸商大對商大2對2引分　大阪商大對商大一軍、二軍共に東商大勝つ

以・上

御斷り——昨年度記錄は當然練習日誌擔當者より提出されるべきなりしも、遂に締切に間に合はず僅かに六月末までの第一期練習記錄しか得られませんでした。從つて第二期部活動の記錄は簡略であり、關西遠征高商大會等の詳細は明年に延さいるを得ませんでした。委員として誠に申譯御座いません。

——（田　島）——

# 一橋蹴球部部員名簿錄

昭和十年八月一日現在

編輯部調査

◇役員

部長　佐藤弘敎授

主將　水島茂（本三）

監督　神野孝司（仝）

委員長　重見敏之（本一）

豫科主將　小西正夫（豫三）

委員長　熊澤博文（仝）

——◇——

部長　佐藤弘助敎授　世田谷區北澤三ノ九九〇（電）松澤　六〇六

## ◇先輩

大正十四年度卒業　進藤靜太郎
大正十五年　松本正雄
昭和二年　川村通
　　高橋朝次郎
　　明石毅
大正十三年〔專〕　檜垣延樹
十四年〔專〕　北尾義人
十五年〔專〕　三宅定夫
　　藤井泰
昭和三年　三宅弘方
〔專〕　山下保
昭和四年　瀬社家力
昭和五年　渡邊甚吉〔村吉改〕
　　城島鎭雄
　　伊藤健吉
　　森綠
　　近藤豊太郎
昭和六年　豊田達治
　　平松宣夫
　　津田弘精

兵庫縣武庫郡住吉村反高村一八七六ノ四四
〔電〕御影五六七八
自營大阪市北區東梅田町二八　進藤商店
〔電〕北一〇　二九

杉並區西高井戸一ノ一三九
辯護士　東京市京橋區銀座西二丁目
實業ビル五階花岡法律事務所
電京橋六〇八六

大森區田園調布四丁目三　電田園調布八三五
調布高等女學校　電田園調布五三

麻布區廣尾五九
麹町區丸ノ内八重州ビル麒麟麥酒株式會社

兵庫縣武庫郡東芦屋藤ヶ谷莊園
大阪市東區上本町四ノ六三七大阪瓦斯株式會社
上本町營業所　電南一八〇

奉天市青葉町十三
自營　天元洋行主

C/o 10 Osaka Shosen Kaisha, Ltd,
Connaught Road, Central, Honkong.

廣島縣廣島市堺町一ノ二一
自營

東京市京橋區因幡町一集成社貿易部



和歌山市湊北町一丁目　峯萬吉方
電和歌山四三五

大阪市西區南堀江三番町六九
大日本製氷株式會社大阪出張所　電櫻川六三八

大運市聖德衛新二丁目一四九

東京市小石川區小日向台町一ノ六四

岐阜市松屋町一　渡邊殖産株式會社
芝區白金三光町二七三

豊島區長崎仲町一ノ二、四七六
東邦火災保險株式會社

鎌倉町雪ノ上一〇八東京週報社
大森區馬込町東一丁目一・〇八四

岐阜市松屋町一渡邊方　渡邊殖産株式會社

牛込區津久土町二自營

大阪市住吉區北田邊九十七
大阪市西區立賣堀北通一丁目卅四
花王石鹼株式會社　長瀨商會大阪支店

麹町區紀尾井町六
日本橋區室町　株式會社三越本店

名古屋市東區橦木町四　武田方
名古屋市中區笹島町四ノ二
三井物産株式會社「レーヨン」掛

昭和七年

西川善一

高橋啓次郎　東京市杉並區馬橋一〇三　坂井方

栗山健三　横濱市山下町五八　ライジングサン石油株式會社

安野貞治〔半澤改メ〕　淀橋區下落合八〇八　中島忠男方

小林昌一　神田區仲猿樂町三〇　帝國書院

高橋重彌　横濱市神奈川區宮ケ谷七　東京市深川區佐賀町一ノ一　峯岸慶藏商店

昭和八年

西田敏介　下谷區龍泉寺町二二二　荏川區日暮里八ノ七九一　半澤方

勝田一郎　小石川區高田老松町千七

橋本林三　片倉製糸

昭和九年

長瀬凱昭　杉並區和田本町八五二　明治火災保險株式會社

吉村豊三　下谷區上野町二ノ一七　電下谷二七三　三井物産株式會社

赤坂區表町三ノ一一　庄川水力電氣株式會社

世田ケ谷區下北澤三ノ一〇三　住友鑛業

福岡縣戸畑市千防三菱明和寮内　三菱鑛業

丸ノ内株式會社高田商會



昭和十年

二階堂謹司〔謹二改〕

後藤博基

豊島區巣鴨二丁目五三　三菱思齊寮

勤先　三菱商事　電大塚一、一二三

大連市南山麓楓町四三　大藤方

大連市山縣通一六五　大連三菱商事支店

## 在學生姓名

（内は出校名　右住所　左歸省地）

本科三年

神野光司〔清一郎改〕

品川區五反田六ノ一九一　電高輪一五一二

水島茂〔名古屋高商〕

中野區上高田一ノ四四　嶺方

濱松市名幾町三六〇

二年

淺枝彦太郎〔廣一中〕

中野區千光前二四　世木方

廣島市廣瀬元町二三一ノ一

荒井文雄〔松山中〕

杉並區荻窪二ノ一二一　中村方

埼玉縣比企郡松山町松葉町

田島輝重〔四中〕

世田谷區池尻町四三〇

角田昇〔五中〕

小石川區林町一六

森（一中）昭之　淀橋區諏訪町一九九

養成所二年　枝村（青師）三郎　杉並區宿町一九二

〃　鈴木（一中）彰　赤坂區青山南町四ノ二十二

大掛（高師附中）隆久　豐島區堀之內町三十三

淺田（京一中）英暉（英三改メ）　杉並區上荻窪二ノ一二一　松川方
大阪市天王寺區北河堀町六七　小川方

重見（神戸一中）敏之　杉並區荻窪二ノ一二一　中村方
京都市淨土寺南田町一〇三

林田（青島日本中）毅　杉並區天沼一ノ一〇七　尙學林內
中華民國上海長春路三七三ノ六號

豫科三年　村井（一中）恒典　中野區永川町四　電四谷五・八〇一

岩崎（三中）寛貞　世田ヶ谷區北澤五ノ七七五　杉浦方

熊澤（松山中）博文　杉並區大宮前六ノ三五三　丹波方
埼玉縣松山町本町三丁目

小西（廣高師附中）正夫　杉並區上荻窪四二四　近藤清太方
廣島縣尾道市土堂町二一五



後藤（湘南中）虎雄　杉並區荻窪二ノ一二七　古畑方
神奈川縣平塚市本町三ノ七〇九

二年　池尾（五中）隆二　杉並區上荻窪七五二
千葉市向寒川町二六二

狩森（上野中）正雄　府下吉祥寺五三三

菅瀨（五中）十朗　小石川區久堅町七四
廣島縣安佐郡口田村天口

米山（五中）大三　豐島區池袋五ノ二一〇

二年　二階堂（廣一中）晴三　杉並區大宮前三ノ三五三　丹波方
廣島縣佐伯郡大竹町五三二ノ三

長谷川（岡山一中）勉　澁谷區代々木初台町五一六
岡山縣岡山市上井福大字角倉一〇八二

一年　石割（開成中）知之　杉並區高圓寺三ノ二一八

內田（四中）亮　小石川區雜司ヶ谷町一一九

金井（神戸一中）雄吾　杉並區松庵北町一二〇　木村館內
神戸市灘區篠原本町一ノ三二

清水（八中）睦美　澁谷區圓山町三

# 昭和九年度收支決算報告 (自昭和九年四月 至昭和十年三月)

神野光司

| 收入 | | 支出 | |
|---|---|---|---|
| 前年度繰越(基本金) | 158.95 | 「蹴球」創刊號發行費(田島君へ支拂) | |
| 本科實行豫算 | 197.20 | 印刷費(百部) 95.00 | |
| 豫科實行豫算 | 258.00 | 雜費 8.17 | 103.17 |
| 小平豫科グランド建設費 | 1246.70 | 東京リーグ加盟費(協會費共) | 35.00 |
| ゴールポスト 56.00 | | ミクニ運動具店支拂 | 309.56 |
| 土木工事 1040.00 | | 夏季合宿費(於國立一橋館) | 298.30 |
| OB並ビニ一般先輩寄附 | 150.00 | 香料(先輩各位) | 12.80 |
| 部誌「蹴球」賣上高 | 38.00 | 國立箱根土地グランド修理費(ゴールポスト修理及ビ草刈) | 8.20 |
| 一般如水會員寄附募集純收入(諸掛費110.02差引) | 287.65 | 小平豫科グランド建設費 | 1396.70 |
| 一般學生寄附 | 182.21 | (1) ゴールポスト(學校支出) 56.00 | |
| 部員負擔額合計 | 821.98 | (2) 土木工事 | |
| 郵便貯金利子(昭和十年三月現在) | 2.27 | 部基金並ビニ先輩寄附 300.00 | |
| | | 學校支出(第一第二回合計) | 1040.70 |
| | | 交通費 石神井バス回數券其他 | 15.00 |
| | | 校內大會費 | 10.60 |
| | | 浦高接待及ビ薪炭其他 | 29.30 |
| | | 對專門部調停委員謝禮費 | 6.79 |
| | | 對法政戰賣上不足補助 | 7.70 |
| | | 關西遠征費 | 449.59 |
| | | 宿泊料其他 267.95 | |
| | | 交通費片道(關西歸省者ヲ除ク) 181.64 | |
| | | 集會費 出陣式 | 64.00 |
| | | 一部昇格祝勝會(寫眞代金) | 92.20 |
| | | 二階堂、後藤兩兄送別會 | 43.40 |
| | | ジヤンパー(ゴールキーパーヲモ含ム)及ビ一年生ユニホーム | 108.20 |
| | | 御札博士ヘノ寄附(運動部會費) | 2.00 |
| | | 雜費(通信.石灰及ビ本科風呂代) | 6.83 |
| | | 次年度繰越(重見新委員長へ) | 193.62 |
| 3192.96 | | 3192.96 | |



(物故部員)

大正十二年高商卒 藤世平治
昭和五年卒 渡邊弘一
昭和六年卒 藤勤
昭和七年卒 酒井孝吉

高橋道太郎 (五中) 小石川區指ヶ谷町二
佃正弘 (廣島一中) 四谷區簞笥町四六
堀貞一 (神戸一中) 中野區住吉町四五
長尾乾三 (四中) 世田ヶ谷區北澤三ノ九七三
山田秀集 (四中) 杉並區荻窪三ノ一九七
吉澤貞雄 (飯田中) 杉並區馬橋三ノ二九八信陽舍內
吉田富彦 (神戸一中) 豐島區池袋三ノ一四〇 藤野方
早野廣太郎 (五中) 小石川區鶯籠町四六 神戸市灘區高羽ヲヲ山一ノ二

## 話の泉

◆金井和製キートンの言葉は微笑ものだが一寸刺があるです。例へば暑中見舞等。

◆諸君！清水君を御存じですか彼氏の家は澁谷百軒店の裏心配して、上級生が訪れた所不在「睦美の事ですから何時かへるやら」と母親は嘆いてました。

◆シーズンアップの會での秀逸は一年金井、堀尾等々から角田狩森等人にも言へぬ事もあつたです。

◆さて近づく合宿での特種は、果して誰がつくる事やら。三漫才他候補者一同は本記者連の、耳と目を御用心の事。

## 編輯後記

田島記

△待望の一部に登つた初陣の商大、我々は、乏しく短き過去より豐富なる未來を生み出すのだ。

△部更生のトリオ、長瀬、二階堂、後藤の功績は彼等の卒業後益々光を放つて來た。

△昨年華かに生まれた部誌も未だ部員のものになりきつてない様だ。その罪や一にかゝつて編輯者にあるのか？考へざるを得ぬ。

△毎度の事ながら、原稿締切日迄に必らず提出して頂きたい。

△編輯部とはいへ、僅かに熊澤君が共同して呉れる丈で人手が少いのですから投稿規約を御守り下さい。

△とまれ熊澤君の御援助に感謝する。

△三月末から準備して八月迄自分は一体何をしたのか譯がわからない。そして部誌もこの心を反映して中途半端なものになつてしまつた。

△やがて部誌も出來上る。合宿も迫つてる。些かなりとも部の爲に役立つ記事があれば幸甚の至りだ。

△粗末な出來だが部誌を愛してくれ給へ、部誌の出來榮は一に諸君の熱意による。

△聖戰は近づく。御互に身体を鍛へて相會ふ日を待たう。

△亡き渡邊氏に此の一冊子を捧げて、秋の活躍を期さう。

△では御元氣で合宿へ御顔を御見せ下さい。

末筆乍ら無精者故、之を以て暑中見舞にかへます。

昭和十年八月四日



昭和十年九月五日印刷
昭和十年九月十日發行
〔非賣品〕

編輯兼發行人　東京商科大學校内　田島輝重

印刷所　埼玉縣浦和市一〇七
印刷人　栗原勘三郎

發行所　商大蹴球部